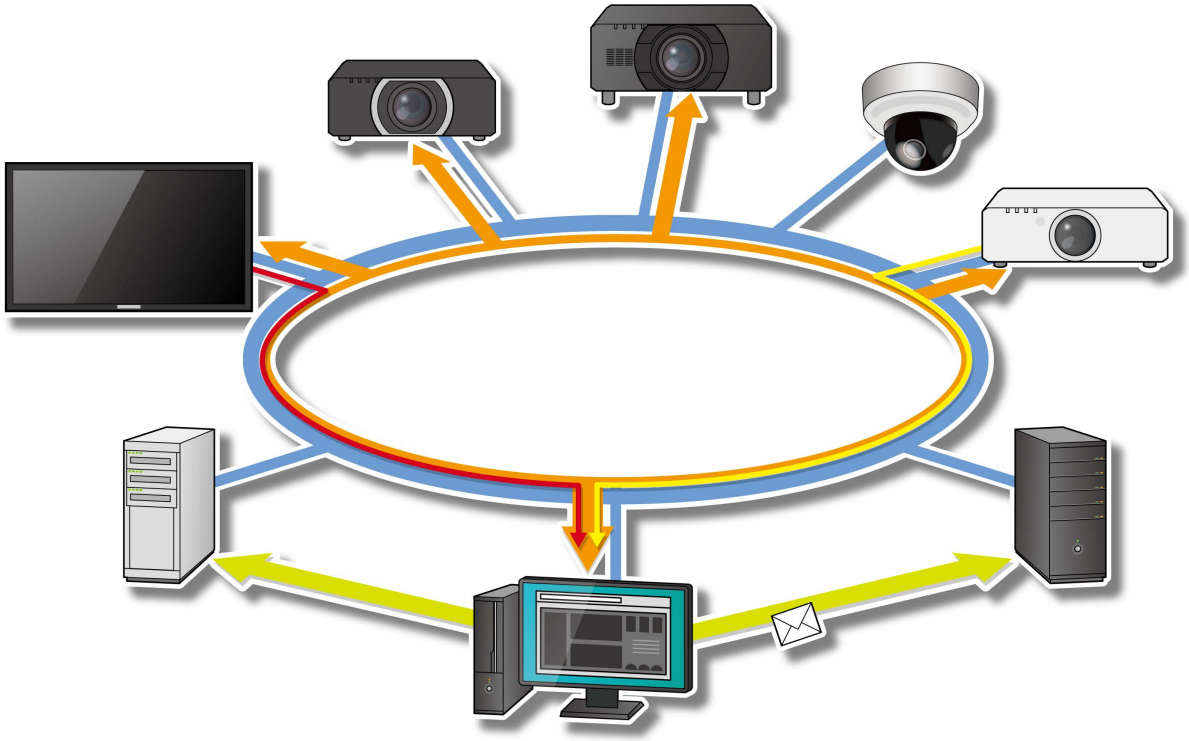
Panasonic

取扱説明書

複数台監視制御ソフトウェア

Multi Monitoring & Control Software 5.1

Windows



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■ 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

DPQP1901ZA/X1(J)

もくじ

はじめに 3
ソフトウェア使用許諾契約書 3
セキュリティーに関するお願い 5
本書の内容について 7
本書で使用する用語について 7
こんなことができます 8

準備する 11
必要なシステム構成 11
ネットワークの設定 12
運用開始までの手順 14
監視・制御端末にソフトウェアを
インストールする 15
本ソフトウェアを使用する前に 20
ソフトウェアをアンインストールする ... 21

監視・制御する機材を登録する 22
機材監視画面について 22
監視制御する機材や周辺機器を
登録する 24
機材や周辺機器の登録情報を
変更する 36
機材名を変更する 37
ネットワークカメラを登録する 38
ネットワークカメラの登録情報を
変更する 41
フェイルソフト機能を設定する 42
グループを作成する 44
キーワードを作成する 46
輝度コントロールを作成する 49
機材登録情報を更新する 52
削除する（機材、グループ、
キーワード、輝度コントロール、
ネットワークカメラ） 55
機材の位置情報を登録する 56

機材の状態を監視する 60
簡易情報の表示について 60
詳細情報を表示する 72
ネットワークカメラの映像を表示する ... 74
機材に入力された映像を表示する 76
簡易システム履歴情報を表示する 79
メンテナンスログを保存する 82
登録機材情報を保存する 85

機材を制御する 92
制御コマンドを実行する 92
スケジュール機能を使用する 102
送信するコマンドを選択して制御する
（[操作設定]） 105
コマンドを入力して設定する
（[コマンド設定]） 106
コマンドリストを設定する
（[コマンドリスト設定]） 108
テロップを配信／停止する
（[テロップ配信] ／
[テロップの消去]） 110
画面ごとの輝度を合わせる
（[輝度コントロール]） 118
リストを作成して画像を配信する
（[コンテンツリスト配信]） 121
WEB 制御機能を呼び出す 135
Geometry Manager Pro を
呼び出す 138
マスター機材のデータを
一括配信する 139

監視制御機能を設定する 142
監視制御のオプション機能を設定する ... 142
情報更新間隔の設定 143
システム履歴の保存件数を設定する ... 144
コマンドコントロール用の
ポート番号を設定する 146
状態通知機能の設定をする 147
情報表示画面の表示内容を変更する ... 149

監視項目を設定する 150
監視制御の監視項目を設定する 150
SNMP 通知の設定を行う 151
メール送信に必要な設定を行う 154
機材が未接続時の警告の設定を行う ... 158

**リモートマネージドサービスを
利用する 162**
リモートマネージドサービスについて ... 162

その他 Q&A 164
エラーメッセージについて 164
困ったとき 166
商標について 179

ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾契約書」の内容を承諾していただくことが、使用する条件になります。
本ソフトウェアを使用した時点で、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意していただいたものとみなします。

1. 権利

本ソフトウェアの使用権を得ることはできますが、特許権、著作権またはその他一切の権利はパナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社または第三者が所有するものであり、お客様に移転するものではありません。お客様は、パナソニック製ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）を管理する目的にのみ、本ソフトウェアを使用することができます。なお、本ソフトウェアのダウンロードによりお客様に許諾される使用権は、期間および使用できるディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）の台数について、別途規定される制限があります。

2. 第三者の使用

お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

3. コピーの制限

本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定され、1 部のみコピーすることができます。

4. 使用コンピューター

本ソフトウェアは、お客様が所有または管理するコンピューター 1 台での使用とし、その他のコンピューターで使用することはできません。

5. 解析・変更または改造

本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。解析・変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社では一切の保証をいたしません。
また、解析･変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしてもパナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社および販売店・販売代理店などは責任を負いません。

ソフトウェア使用許諾契約書

6. アフターサービス

お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、「パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター」「パナソニック 業務用ディスプレイサポートセンター」までお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。ただし、パナソニック製ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）を管理する目的以外の使用により発生した本ソフトウェアの不具合については、アフターサービスは一切行いません。なお、本ソフトウェアの仕様は予告なく変更することがあります。

7. 免責

本ソフトウェアに関するパナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社の責任は、上記6. のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用または不具合に関連して、お客様に生じた一切の直接・間接の損害または逸失利益、および第三者からお客様に対してなされた一切の請求については、パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社および販売店・販売代理店などはいかなる責任も負いません。なお、本ソフトウェアは、パナソニック製ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）の管理を支援することを目的とするものであり、パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社および販売店・販売代理店などは、本ソフトウェアの適切な動作または結果の正確性、本ソフトウェアがお客様の特定目的に適合すること、および第三者のいかなる権利も侵害していないこと、などを保証するものではありません。また、ファイルをダウンロードする際、何らかの不具合が発生しても責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。

8. 輸出管理

お客様は、本ソフトウェアを購入した国以外の国に持ち出される場合、その国および関係する各国の輸出管理に関する法規を遵守してください。

9. 準拠法および本注意事項の変更

本ソフトウェアの使用はあらゆる面において日本国の法律に支配され、かつそれに従って解釈されるものとします。パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社は、お客様への予告なく、自己の判断で本注意事項を変更することができます。

10. 合意管轄

本ソフトウェアの使用に関して、訴訟の必要が生じた場合、お客様およびパナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社は大阪地方裁判所に対してのみ訴えを提起することができるものとします。

セキュリティーに関するお願い

本ソフトウェアをご使用になる場合、次のような被害に遭うことが想定されます。
- 本ソフトウェアを経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意を持った第三者による本ソフトウェアの不正操作
- 悪意を持った第三者による本ソフトウェアの妨害や停止

セキュリティー対策を十分に行ってください。
- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。
- パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社およびその関係会社が、お客様に対して直接パスワードを照会することはありません。直接問い合わせがあっても、パスワードを答えないでください。
- Windows Update を定期的に行い、コンピューターを最新の状態に保ってください。
- 安全性の確保されたネットワークをご使用ください。
- パスワードを設定し、ログインできるユーザーを制限してください。

セキュリティーに関するお願い

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピューターなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意を持った第三者が、電波を故意に傍受し、
  - ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
  - メールの内容

  などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される
  悪意を持った第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
  - 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
  - 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
  - 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
  - コンピューターウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

  などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アダプターや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティーの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティーに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティーに関する設定が行われていない場合があります。セキュリティー問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN 機器をご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティーに関するすべての設定を、それぞれの機器の取扱説明書に従ってお客様が行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティー設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

無線 LAN で使用する際のセキュリティー設定について、お客様ご自身で対処できない場合には、「パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター」「パナソニック 業務用ディスプレイサポートセンター」までお問い合わせください。

セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、本ソフトウェアを使用することをお勧めします。

本書の内容について

- クライアント機能用のコンピューターとしてタブレットを使用することもできますが、本書ではデスクトップコンピューターを使用することを前提として説明しています。
- ご使用の環境やその他により、実際の操作画面と一致しないことがあります。
- コンピューター、Windows operating system および各種ルーターについての操作は、それぞれの説明書などをご覧ください。
- 本書では、参照いただくページを（P. ○○）で示しています。
- 本書の内容は予告なく変更されることがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。
- メニュー名、タブ名、ボタン名、画面内の項目名は［ ］をつけて表記しています。
- 下階層メニュー名を記載する場合は、上階層メニュー名との間を「→」でつないで表記しています。
- パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社のメディアプロセッサーFMPシリーズのアカウントには管理者アカウント、ユーザーアカウントの区分がありません。設定されたアカウントは管理者アカウントとして使用できます。

本書で使用する用語について

機材

パナソニック製ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）を対象としています。

周辺機器

機材と同じネットワークに接続されているネットワークカメラやメディアプロセッサーを指します。登録したネットワークカメラの映像を確認することができます。

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サーバー

ネットワークに一時的に接続するコンピューターに、IP アドレスなどの必要な情報を自動的に発行するサーバーのことです。

PASS

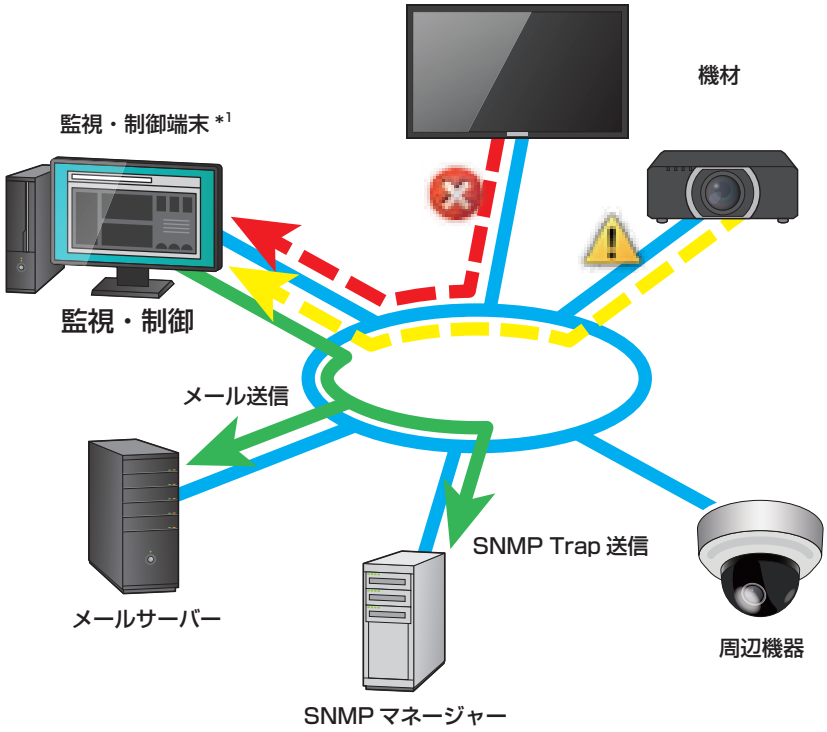
パナソニック 業務用ディスプレイ / プロジェクター テクニカルサポートサイトの名称です。
詳しくは下記の WEB サイトをご確認ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector/pass
https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays/pass

SNMP（Simple Network Management Protocol）

TCP/IP ネットワークに接続された通信機器に対し、ネットワーク経由で監視、制御するためのプロトコルです。管理する側の SNMP マネージャーと、管理される側の SNMP エージェントにより構成され、SNMP エージェントから SNMP マネージャーに向けて発信される通知のことを SNMP Trap といいます。

こんなことができます

本ソフトウェアは、学校や企業など特定のネットワーク内にある機材を一元管理することを目的とし、イントラネット内にある複数の機材やその周辺機器の状態を監視して表示、異常の通知などを行うことができます。



*1 本ソフトウェア（複数台監視制御ソフトウェア）がインストールされているコンピューターです。

お知らせ

- 本ソフトウェアを使用することで、すべての機材やその周辺機器の故障を事前に検知できるものではありません。また、異常通知の表示内容は、機材や周辺機器によって異なります。
- 本ソフトウェアに対応する機材や周辺機器については、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトをご確認ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software

監視制御機能

監視・制御端末から行う主な機能は、以下のとおりです。

■機材の登録、更新を行う

機材登録（P.24）

イントラネットに接続した機材を登録することができます。（最大 2 048 台）
・機材の新規登録（P.24）
・登録情報の更新（P.36）
・周辺機器の登録
　– ネットワークカメラ（P.38）
・グループの作成（P.44）
・キーワードの作成（P.46）
・輝度コントロールをグループ単位で作成（P.49）

ファームウェアのアップデート（P.68）

ファームウェアアップデートツールを用いて、登録された機材のファームウェアを複数台同時にアップデートすることができます。

機材情報の更新（P.52）

接続した機材が登録済み機材の IP アドレスと重複し、登録内容と一致しないことをお知らせするアイコンが表示されて不明な機材となった場合に、機材登録情報を更新することでそのままお使いいただくことができます。

位置情報の管理（マップ UI）（P.56）

グループ単位で機材の配置を管理することができます。
・機材の制御（P.59）
・スケジュールの登録（P.59）

■機材および周辺機器の状態を確認する

監視（P.60）

機材および周辺機器の状態を表示し、監視することができます。
・簡易情報表示（P.60）
・詳細情報表示（P.72）
・ネットワークカメラの映像を表示（P.74）
・機材に入力された映像を表示（P.76）
・エラー表示（P.79）

他のアプリケーションソフトとの連携

インストールされたアプリケーションを本ソフトウェアから呼び出すことができます。
- Geometry Manager Pro（P.32、138）
- Screen Transfer 用にエクスポート（P.34）
- Smart Projector Control App 用にエクスポート（P.34）
- WEB 制御（WEB コントロール）機能（P.135）
- ネットワークカメラ本体の設定画面（P.74）

■機材を制御する

制御コマンドの実行（P.92）

複数の機材に対して一括で制御（電源切／入や入力切り換えなど）することができます。

スケジュール機能（P.102）

指定した日時に以下の機能を実行することができます。
- ［操作設定］（P.105）
- ［コマンド設定］（P.106）
- ［コマンドリスト設定］（P.108）
- ［テロップ配信］（P.114）
- ［テロップの消去］（P.116）
- ［輝度コントロール］（P.118）
- ［コンテンツリスト配信］（P.121）

■監視項目の設定（監視・制御端末での操作）

SNMP Trap 送信（P.151）

エラー・警告発生時やお知らせがある場合に、SNMP マネージャー（ネットワーク機材管理ソフト）に対して SNMP Trap（発生または解除）を通知します。

メール送信機能（P.154）

あらかじめ設定したメールアドレスに、エラー・警告・お知らせの通知を行います。

機器が未接続時の警告設定（P.158）

機材が未接続時に警告を行う条件の設定や、未接続時に警告を行わない期間の設定を行います。

必要なシステム構成

■ソフトウェアの動作環境

ソフトウェアをインストールする監視・制御端末には、下記の条件を満たすコンピューターが必要です。

OS （オペレーティングシステム）	**Windows 11：** Windows 11 Pro（64 bit） **Windows Server 2016：** Standard（32 bit/64 bit） ・64 bit の Windows では、32 bit モードで動作します。 ・上記 OS の日本語版、英語版、中国語版に対応しています。 ・Microsoft Internet Information Services（IIS）は、本ソフトウェアのインストール時に自動的に有効になります。
ソフトウェアライブラリー	Microsoft .NET Framework 4.8 ・搭載されている .NET Framework 4.8 の機能を有効にしてください。（P.16）
WEB ブラウザー	Microsoft Edge ・上記以外の WEB ブラウザーでも動作する場合がありますが、動作の保証はいたしません。
CPU	Intel® Core™ 2 Duo 以上、または互換のプロセッサー搭載 ・65 台以上の機材を接続する場合は、Intel® Core™ i5 以上を推奨します。
メモリー	8 192 MB 以上
ハードディスクの空き容量	100 GB 以上 ・台数に比例して必要空き容量が増加します。 （おおよその目安：1 台あたり 50 MB）
その他	LAN 端子（10 Base-T/100 Base-TX） 解像度 1 366 × 768 以上、High Color（16 bit）以上のディスプレイ

上記の条件を満たすすべてのコンピューターについて動作を保証するものではありません。

お知らせ

・Windows Server 2016 の端末をご使用の場合は、サーバーとして運用することをお勧めします。

ネットワークの設定

監視・制御端末と機材やその周辺機器とのネットワーク接続を行います。

■接続に必要なコンピューター環境

コンピューターをイントラネットへ接続する前に、必ず下記の LAN 設定をご確認ください。

LAN 機能が内蔵されているコンピューター

・LAN 機能が有効になっていますか？

LAN 機能が内蔵されていないコンピューター

・LAN アダプターが正しく認識されていますか？
・LAN アダプターが有効になっていますか？
・接続する前に LAN アダプターのドライバーをインストールしてください。
　ドライバーのインストール方法は、LAN アダプターの取扱説明書を確認してください。

お知らせ

・監視･制御端末については、DHCP サーバー利用による IP アドレスの自動取得は行わず、ネットワーク内で重複しない固定アドレスを設定することをお勧めします。
・セキュリティー（ファイアウォール）ソフトや LAN アダプターのユーティリティーソフトがインストールされていると､イントラネットに接続できない場合があります。接続できない場合はネットワーク管理者にご相談ください。
・すべての LAN アダプターやコンピューターに内蔵されている LAN アダプターでの動作を保証するものではありません。

■コンピューターの設定

イントラネットを介さずにコンピューターと機材とを直接 LAN ケーブルで接続する場合は、クロスケーブルで接続してください。
また、HUB などを使用して接続する場合は、ストレートケーブルで接続してください。

ネットワーク設定

・IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定はお使いの使用環境に合わせてください。（詳細は、ネットワーク管理者にご確認ください。）
・WEB ブラウザーで「自動構成スクリプトを使用する」にチェックがある場合はチェックを外してください。
・WEB ブラウザーで「LAN にプロキシサーバーを使用する」にチェックがある場合はチェックを外す、または機材の IP アドレスをプロキシ詳細設定の「例外」に設定してください。

お知らせ

・システム構成によりストレート／クロスのいずれか、または両方使用可能かは異なります。
　詳細は、ネットワーク管理者にご相談ください。

■機材の設定

ネットワーク設定

機材名（ホスト名）、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイをお使いの使用環境に合わせてください。（詳細は、ネットワーク管理者にご確認ください。）
DHCP はオフとし、IP アドレスはネットワーク内で重複しないよう固定 IP アドレスで設定してください。
IP アドレスが重複している機材は設定できません。

- 設定可能な機種の場合、WEB 制御（WEB コントロール）、PJLink コントロール、ネットワークコントロール、ネットワークスタンバイをすべてオン（有効）にしてください。
- 管理者アカウントの設定が必要な機材は、管理者アカウントの設定を行ってください。
- WEB ポート番号を設定可能な機種の場合、ポート番号を 80 に設定してください。
- コマンドコントロールの設定が可能な機種の場合、ポート番号を同一番号にしてください。（デフォルト設定値：1024）

フラットパネルディスプレイの設定

本ソフトウェアに「詳細情報取得モデル」に分類されているフラットパネルディスプレイを機材として登録して使用する場合、ディスプレイ本体側の設定が必要になります。
なお、「基本情報取得モデル」に分類されるフラットパネルディスプレイを機材として登録する場合、ディスプレイ本体側の設定は必要ありません。
登録する機材がどちらのグループに分類されているか確認するには、P.20 をご覧ください。

- フラットパネルディスプレイ本体の［Options］メニューを、以下のように変更します。

[LAN Control Protocol]	［Protocol 2］に設定してください。
[RS-232C/LAN Information Timing] または [Information timing]	警告、エラーを検出する各条件項目を設定してください。

お知らせ

- 機材や周辺機器の設定方法については、使用している機材や周辺機器の取扱説明書を確認してください。
- 本ソフトウェアは、設定した IP アドレスによってその機材を特定します。DHCP サーバーなどをお使いのネットワーク環境で、機材のネットワーク設定で DHCP をオンにしてお使いの場合は、機材に割り当てられる IP アドレスが DHCP サーバーによって、変更されてしまい、本ソフトウェアで接続できなくなる場合があります。機材に割り当てられる IP アドレスを固定するように DHCP サーバーで設定するなどして、IP アドレスが変更されないようにしてください。（詳細は、ネットワーク管理者にご確認ください。）
- 「詳細情報取得モデル」として登録されているフラットパネルディスプレイの場合、本ソフトウェアで監視中に「無操作自動オフ」機能が働くなど、ディスプレイが自動的にスタンバイ状態になると警告が発生します。警告を発生させないようにするには、自動的にスタンバイ状態に移行しないようディスプレイ側の設定を変更する必要があります。
  「基本情報取得モデル」として登録されているフラットパネルディスプレイの場合は、自動的にスタンバイ状態になっても警告は発生しません。
- 「詳細情報取得モデル」に分類されているフラットパネルディスプレイで、現在時刻の設定やオンスクリーンメニュー言語の選択ができる場合、それらを設定するようにしてください。設定せずに使用すると警告が発生します。
  「基本情報取得モデル」として登録されているフラットパネルディスプレイの場合、現在時刻の設定やオンスクリーン言語の選択を設定していなくても警告は発生しません。

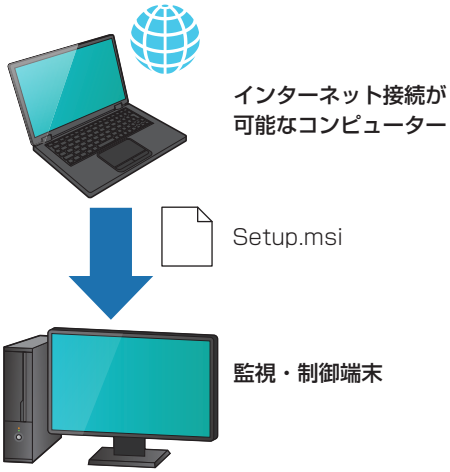
運用開始までの手順

ソフトウェアのインストールから運用開始までの手順は下記のようになっています。

ソフトウェアのインストール

1 インストールファイルのダウンロード（P.15）

2 ソフトウェアのインストール（P.15）



監視・制御端末にソフトウェアをインストールする

本ソフトウェアより以前の「複数台監視制御ソフトウェア」をご使用の場合は、以下のインストール手順にて、そのまま既存のデータを引き継いで本ソフトウェアをお使いいただけます。

インストールファイルのダウンロード

1 下記の WEB サイトから、インストールファイルをダウンロードすることができます。

https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software

2「アプリケーションソフトダウンロードに関する注意事項」が表示されます。内容を確認し、［同意してダウンロードする］をクリックします。

ファイル名：MMCS_V4xxx_Setup.zip（"4xxx" はソフトウェアのバージョンです）

お知らせ

- 本ソフトウェアのバージョンがお使いの機材に対応していないと、機材情報がすべて表示されない場合があります。最新のソフトウェアをダウンロードしてお使いください。

ソフトウェアをインストールする

本ソフトウェアを監視・制御端末にインストールします。

準備：

- Windows Update の更新プログラムが反映された状態で行ってください。
- お使いのコンピューターに .NET Framework 4.8 がインストールされていること、.NET Framework 4.8 の機能が有効になっていることをご確認ください。
- Windows 上で起動しているすべてのソフトウェアを終了してください。

1 ダウンロードした「MMCS_V4xxx_Setup.zip」を解凍します。

2 解凍して作成されたフォルダー内の「Setup.msi」をダブルクリックします。

インストーラーが起動します。

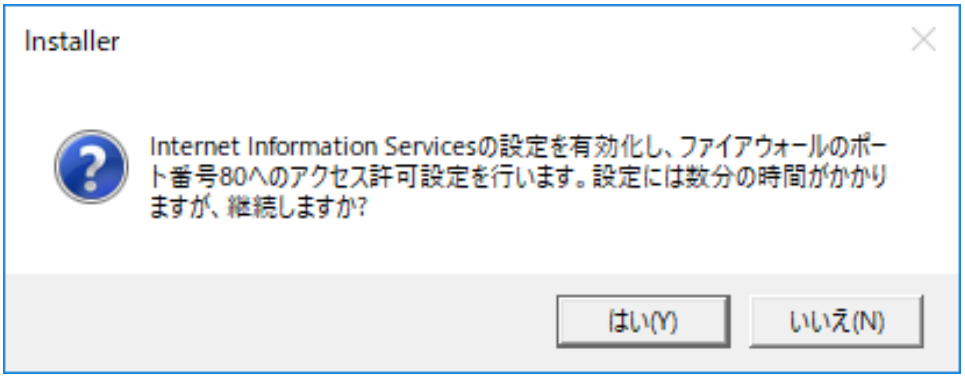
3 画面の指示に従ってインストールを行います。

インストールが完了すると、完了画面が表示されます。

4［閉じる］をクリックします。

デスクトップに （ショートカットアイコン）が作成されます。

■インストール中にメッセージが表示される



[はい]：インストールが継続されます。
[いいえ]：インストールが中断します。

- コンピューターの設定や、ネットワーク環境について、詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。

お知らせ

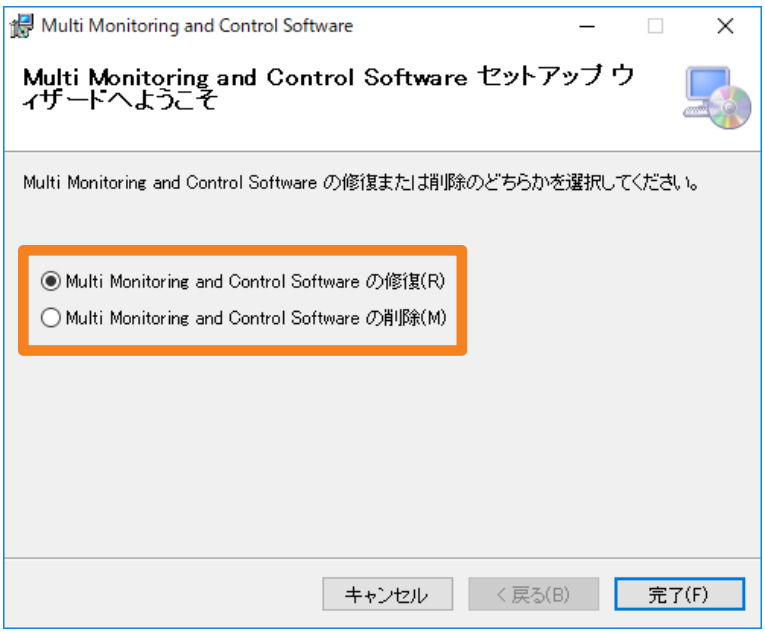
- Windows Update を実行中に、または再起動を要する更新が行われた状態で本ソフトウェアをインストールしようとすると、インストールが途中で止まったまま完了しない場合があります。
- 初めて本ソフトウェアを使用するときは、必ず Windows Update を実行して重要な更新プログラムをインストールしたうえでご使用ください。Windows Update を実行せずに使用すると、本ソフトウェアが動作しない場合があります。
- .NET Framework 4.8 がインストールされていない場合や、その機能が無効になっている場合、本ソフトウェアをインストール中にエラーが表示されます。その際は［いいえ］をクリックして本ソフトウェアのインストールを中断し、.NET Framework 4.8 の機能を有効にしたうえでインストールし直してください。詳しくは「ソフトウェアをインストールできない」をご覧ください。（P.171）
- アップデートインストールを実施するときは、登録済みの機材の台数が多い場合、アップデートインストールに時間がかかる場合があります。例えば、搭載メモリーが 4 GB のコンピューターで 513 台以上の機材を登録している場合、アップデート完了までに約 10 分を要する場合があります。

ソフトウェアの修復・削除

すでに本ソフトウェアのインストールが完了している監視・制御端末で再度インストーラーを起動させると、データ修復またはソフトウェアの削除を選択する画面が表示されます。

1 「ソフトウェアをインストールする」手順 3（P.15）で、ソフトウェアの「修復」または「削除」を選び、［完了］をクリックします。

修復：ソフトウェアの不具合を修復する
削除：ソフトウェアをアンインストールし、インストールし直す



（「修復」選択時）

2 画面の指示に従ってインストールを続行します。

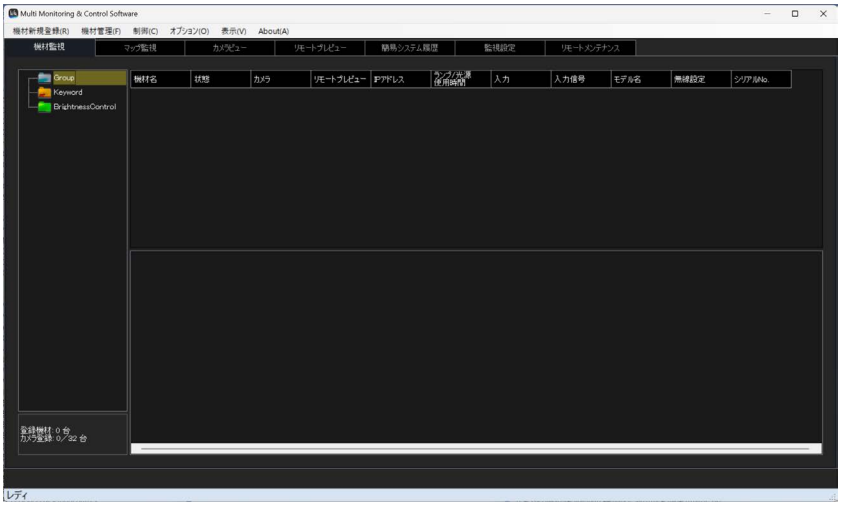
インストールが完了すると、完了画面が表示されます。

3 ［閉じる］をクリックします。

ソフトウェアを起動する

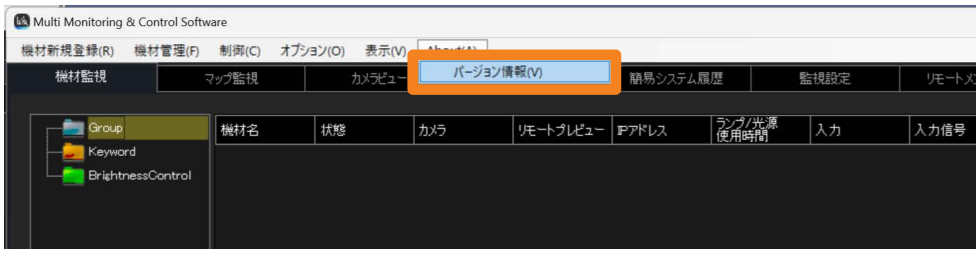
1 デスクトップの をダブルクリックして起動します。

［スタート］→［Panasonic］→［Multi Monitoring & Control Software］でも起動できます。



バージョンを確認する

1 メニューから［About］→［バージョン情報］を選択します。



2 バージョンを確認後、［閉じる］をクリックすると画面が閉じます。

ソフトウェアを終了する

1 画面の × をクリックします。

・メニューの［機材管理］→［終了］でも終了できます。

本ソフトウェアを使用する前に

対応機材の確認

本ソフトウェアに対応する機材やその周辺機器については、下記のサイトをご確認ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software

対応機材については、本ソフトウェアで取得できる情報の内容によって 2 つのグループに分類されます。「詳細情報取得モデル」、「基本情報取得モデル」のそれぞれが取得できる情報の違いは、主に次に示すとおりです。

○：取得可能
－：取得不可能

項目名		取得情報によるグループ定義	
		詳細情報取得モデル	基本情報取得モデル
共通項目			
	グループ名	○	○
	IP アドレス	○	○
	シャッター（AV ミュート）	○	○
	モデル名	○	○
	シリアル番号	○	－
	入力選択	○	○
	電源	○	○
	入力信号名	○	－
	信号周波数	○	－
	メイン / サブ Ver.	○	－
	ネットワーク Ver.	○	－
	AC 電圧	○	－
	使用時間	○	○
	温度	○	－
	ファン状態	○	－
プロジェクターのみ			
	光源選択	○	－
	光源パワー / 運用モード	○	－
	光源状態	○	○

お知らせ

- 取得可能な項目であっても、機材によっては取得できない場合があります。

ソフトウェアをアンインストールする

1 次の手順で［アプリと機能］のウィンドウを開きます。

① ⊞ → ［⚙設定］をクリックします。

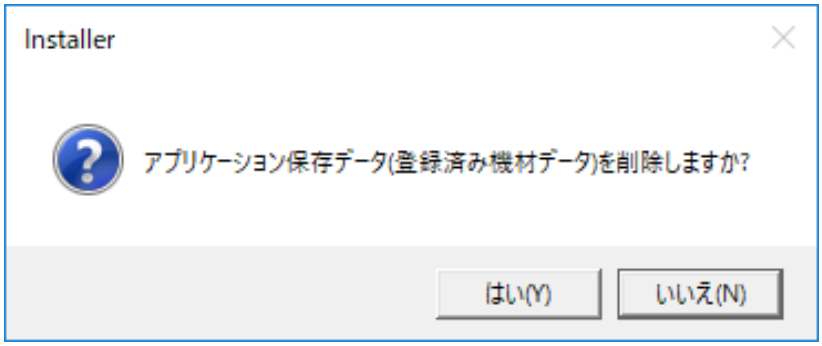
② Windows の設定で［アプリ］を選択します。

③ ［Multi Monitoring and Control Software］を選択し、［アンインストール］をクリックします。

2 確認メッセージが表示されたら、［はい］か［いいえ］を選びます。

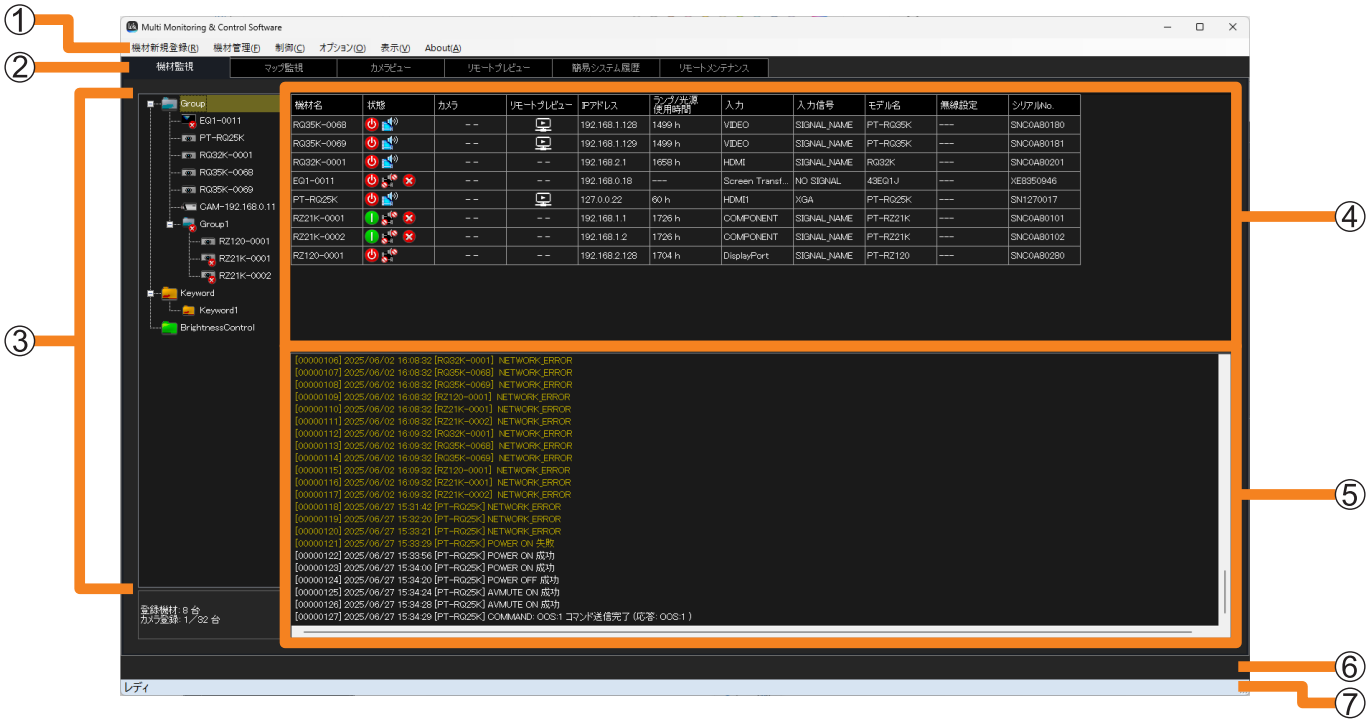
［はい］：登録した機材のデータが削除され、ソフトウェアをアンインストールします。
［いいえ］：登録した機材のデータを残して、ソフトウェアをアンインストールします。

・［いいえ］を選択すると、本ソフトウェアをインストールし直したときやバージョンアップしたときに、保存されているデータを引き継いで使用することができます。



監視・制御する機材を登録する

機材監視画面について



機材監視画面

① メニュー	各機能が項目ごとに配置されています。 [機材新規登録]（P.24） [機材管理]：機材と周辺機器の登録を除く、機材の管理メニュー [制御]（P.92） [オプション]（P.104、142） [表示]（P.23） [About]（P.18）
② 画面切り換えタブ	[機材監視]（P.60） [マップ監視]（P.56） [カメラビュー]（P.75） [リモートプレビュー]（P.77） [簡易システム履歴]（P.79） [監視設定]（P.150） [リモートメンテナンス]（P.162）

機材監視画面について

③ ツリー部	[Group]：親グループ（[Group] フォルダー） このフォルダーをもとにツリーが構成されます。 ：グループフォルダー（P.44） ：ネットワークカメラ（P.38） ：プロジェクター（詳細情報取得モデル） ：フラットパネルディスプレイ（詳細情報取得モデル） ：照明型プロジェクター（詳細情報取得モデル） ：基本情報取得モデルの機材 [Keyword]：作成したキーワードが表示されます。（P.46） [BrightnessControl]：作成した輝度コントロールが表示されます。（P.49） ・親グループ（[Group] フォルダー）の直下、またはグループフォルダーやネットワークカメラの下に機材を登録します。（P.24）
④ 簡易情報表示部	ツリー部（③）で選択した、機材の状態が一覧表示されます。 （フォルダーごと選択すると、複数台の情報が表示されます。） ・リストの項目を選択したときに、“▲”が表示される場合は、降順または昇順で表示することができます。
⑤ コマンド実行ログ表示部	制御コマンド（P.92）、スケジュール機能（P.102）の実行結果および、機材の接続状態やログの履歴情報が表示されます。
⑥ 使用期限表示部	使用期限情報が表示されます。
⑦ ステータスバー	本ソフトウェアの状態が表示されます。 ・メニュー（①）の［表示］→［ステータスバー］で、表示／非表示を選択できます。

お知らせ

- アイコンに表示される警告やエラー（例：、）については以下をご覧ください。
  - ツリー部（P.61）
  - 簡易情報表示部（P.62）
- 「詳細情報取得モデル」、「基本情報取得モデル」について、詳しくは P.20 をご覧ください。

監視制御する機材や周辺機器を登録する

お使いの環境に合わせて、登録（最大 2 048 台）する方法を選ぶことができます。

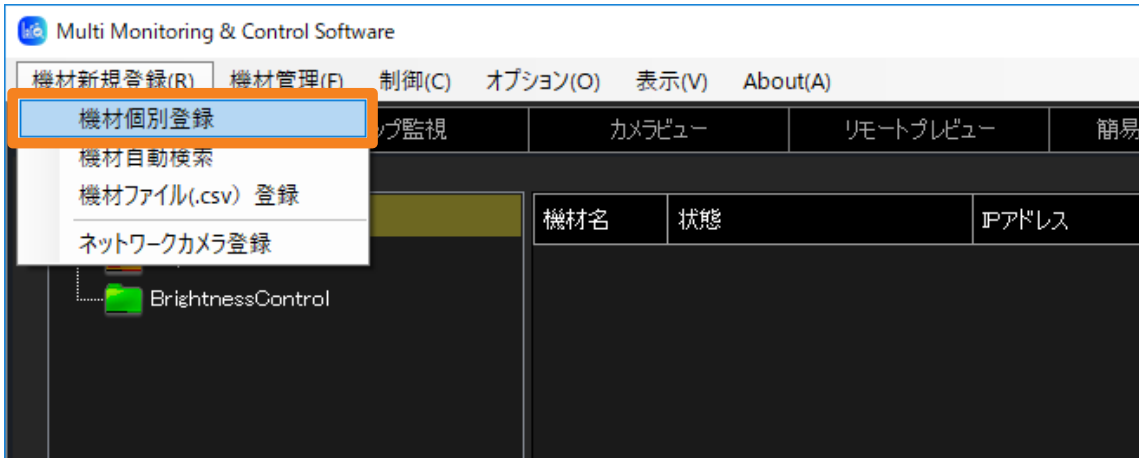
[機材個別登録]	機材を手動で登録する（P.24）
[機材自動検索]	接続された機材を検索して登録する（P.27）
[機材ファイル（.csv）登録]	ファイルを読み込んで登録する（P.30）
[Geometry Manager Pro]	外部設定ファイル（Geometry Manager Pro）を読み込んで登録する（P.32）
[ネットワークカメラ登録]	ネットワークカメラを登録する（P.38）

お知らせ

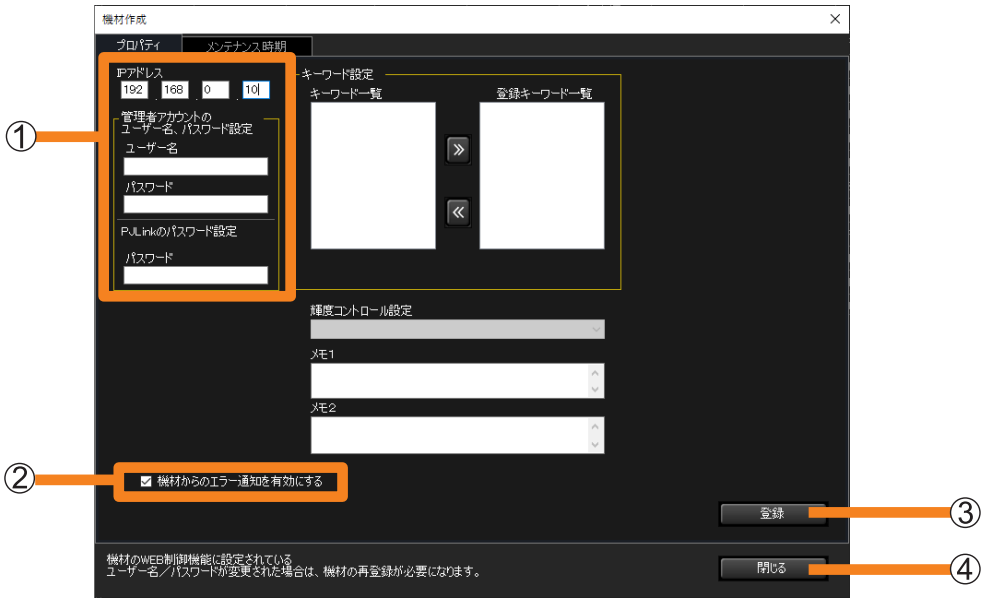
- 監視・制御端末が機材と通信している間は登録できません。しばらく待ってから登録してください。
- 「詳細情報取得モデル」に分類されているフラットパネルディスプレイを登録する場合は、[LAN Control Protocol] を [Protocol 2] に設定してください。（P.13）
- 複数の機材に同じ周辺機器を登録することも可能です。
- 機材登録後に、WEB 制御機能で使用している機材の、管理者アカウントの [ユーザー名] や [パスワード]、または PJLink の [パスワード] を変更すると、機材との通信ができなくなるため、機材の再登録が必要になります。

機材を手動で登録する

1 メニューから [機材新規登録] → [機材個別登録] を選択します。



2 登録する機材に設定されている［IP アドレス］、［ユーザー名］、［パスワード］を入力します。



①	［IP アドレス］	登録する機材に割り当てたものを正しく入力してください。 ・同じ IP アドレスを重複して使用することはできません。設定済みの IP アドレスを、新規登録する別の機材で使用したい場合は、P.52 をご覧ください。
	管理者アカウント	
	［ユーザー名］	登録する機材に設定されたものを正しく入力してください。 基本情報取得モデル：入力しなくても登録できます。 詳細情報取得モデル：機材に設定されたユーザー名と異なる場合は、登録できません。
	［パスワード］	登録する機材に設定されたものを正しく入力してください。
	PJLink ［パスワード］	登録する機材に設定されたものを正しく入力してください。
②	［機材からのエラー通知を有効にする］	チェックのあり／なしで登録する機材のエラー通知機能を設定することができます。 ・機材からのエラー通知を受信するために、状態通知機能を設定する必要があります。状態通知機能を設定するには、P.147 をご覧ください。 ・非対応のモデルの場合、エラーメッセージが表示されます。

- パスワード入力欄の右端に表示される👁をクリックすると、入力内容の表示 / 非表示が切り替わります。
- ［メモ 1］、［メモ 2］欄には最大 512 文字を入力することができます。必要に応じて入力してください。
- 機材の設定を中止したい場合は［閉じる］をクリックしてください。

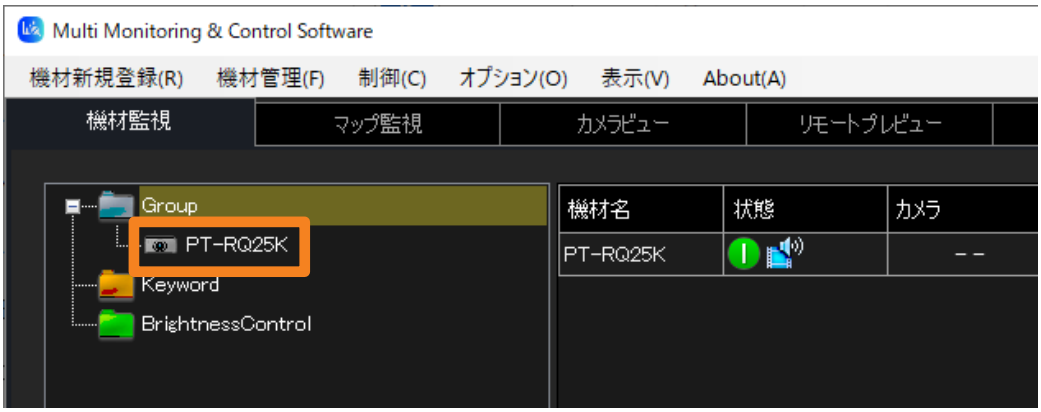
3 ［登録］（③）をクリックします。

- 管理者アカウントを設定していない機材は登録できません。機材の管理者アカウントを設定してから、再度 [登録]（③）をクリックしてください。
- 登録を取りやめる場合は、［閉じる］をクリックしてください。

4 登録成功のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

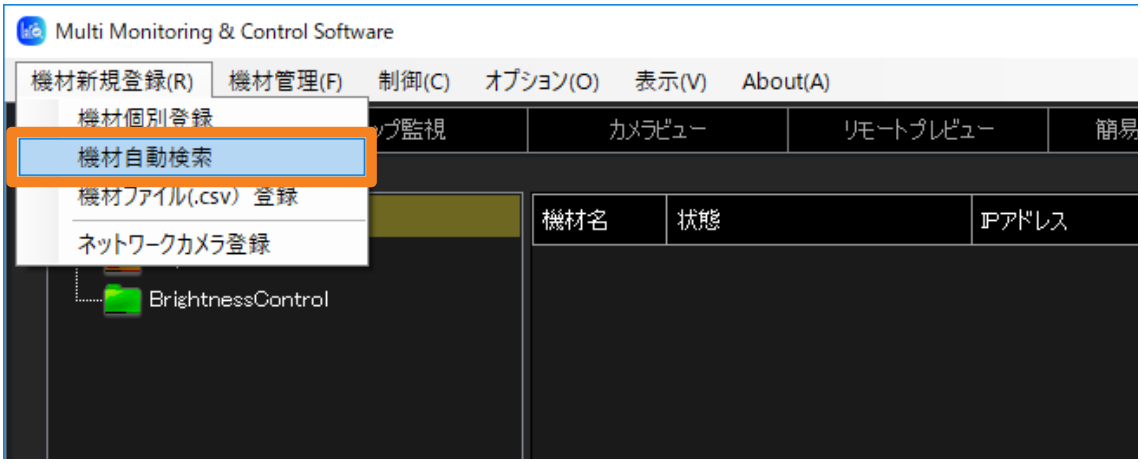
5 ［閉じる］（④）をクリックします。

登録した機材が機材監視画面のツリー部に表示されます。



接続された機材を自動検索して登録する

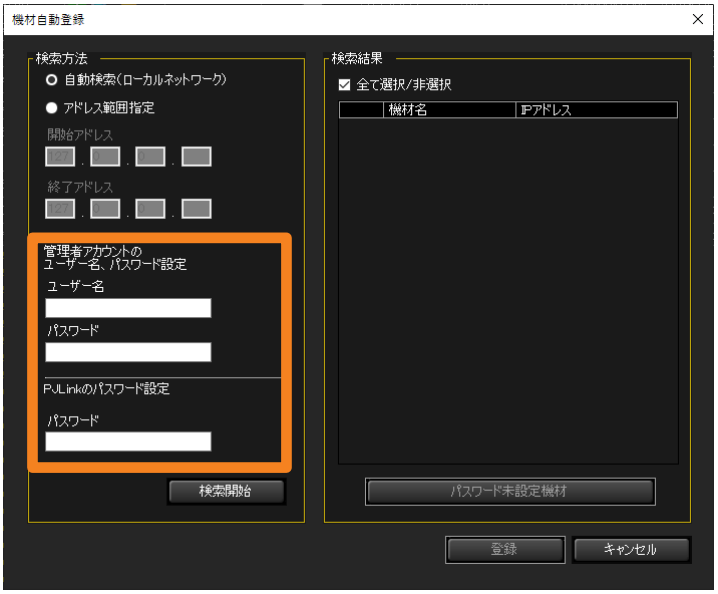
1 メニューから［機材新規登録］→［機材自動検索］を選択します。



2 登録する機材について、以下の項目を入力します。

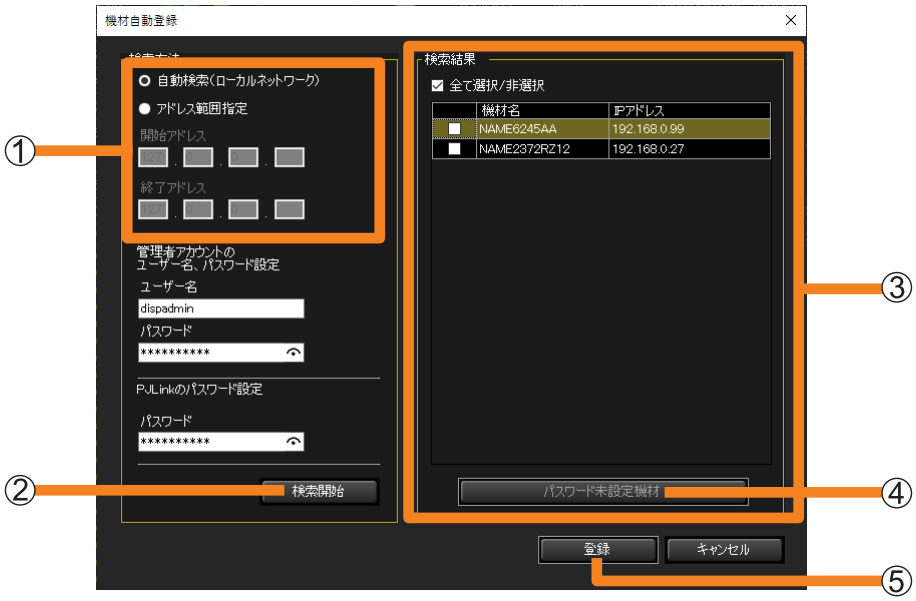
- 管理者アカウントの［ユーザー名］、［パスワード］
- PJLink の［パスワード］

• ［ユーザー名］と［パスワード］について、詳しくは P.25 をご覧ください。



3 検索方法（①）を選び、[検索開始]（②）をクリックします。

[自動検索（ローカルネットワーク)]：監視・制御端末と同じネットワーク上で接続状態にある、登録可能な機材を検索します。
[アドレス範囲指定]：IP アドレスの範囲を指定して検索します。



③ に検索結果が表示されます。
・管理者アカウントが設定されていない機材が検出されると、[パスワード未設定機材]（④）が有効になります。管理者アカウントを設定する場合は、P.29 をご覧ください。

4 検索結果（③）から、登録する機材の左端にあるチェックボックスにチェックを入れます。

5 [登録]（⑤）をクリックします。

登録した機材が機材監視画面のツリー部に表示されます。

■管理者アカウントが設定されていない場合

1 **[パスワード未設定機材]（④）（P.28）をクリックします。**

対象機材が一覧で表示されます。

2 **IP アドレスを確認して [WEB] をクリックします。**

WEB ブラウザーで機材の設定画面が表示されたら、ネットワークの設定を行ってください。

3 **ネットワークの設定が完了したら、手順２の画面に戻り、[閉じる]（⑥）をクリックします。**

P.28 手順 **3**［機材自動登録］画面に戻ります。

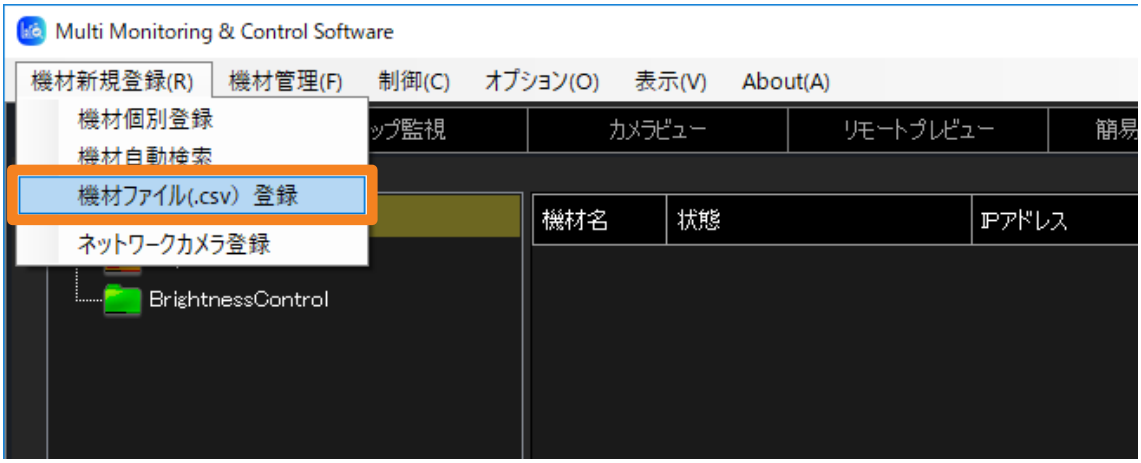
4 **[機材自動登録] 画面で［検索開始］（②）をクリックし、続けて P.28 手順 4、5 を行ってください。**

お知らせ

- 機材の検索や登録には時間がかかる場合があります。
- 機材の状態やネットワークの環境によっては、検索機能を使用したときに機材を認識できないことがあります。
- ［自動検索（ローカルネットワーク）］で検索できる機材は、検索用の独自コマンドに対応している機種に限られます。ご利用の機材が［自動検索（ローカルネットワーク）］機能に対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software

ファイルを読み込んで登録する

1 メニューから［機材新規登録］→［機材ファイル（.csv）登録］を選択します。

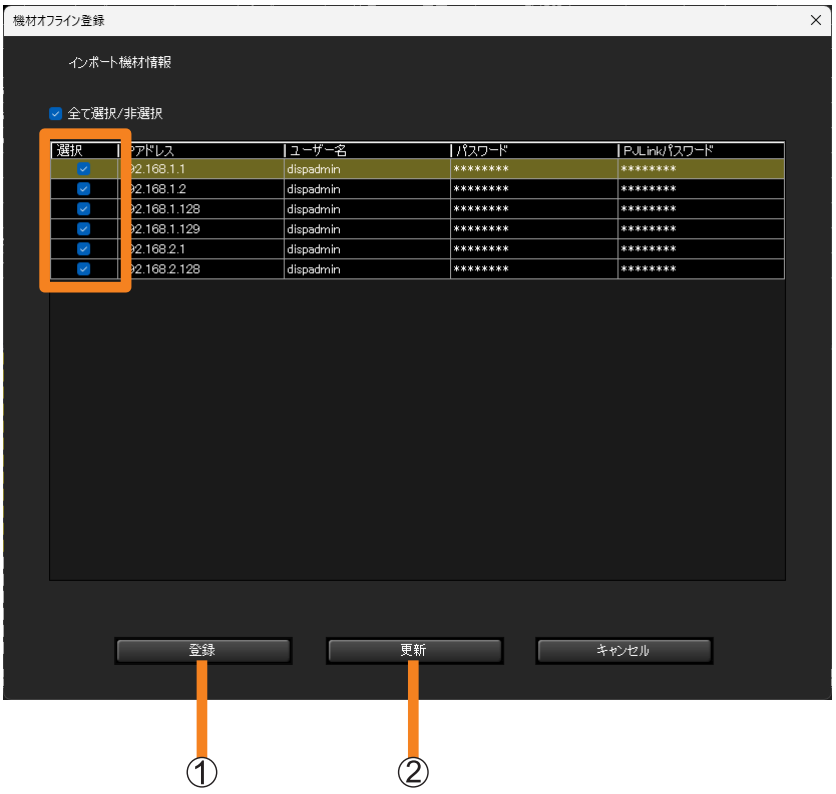


2 登録する機材の情報が保存された CSV ファイルを選択し、［開く］をクリックします。

- CSV ファイルとは、項目をカンマで区切ったテキストファイルのことをいい、本ソフトウェアで使用する CSV ファイルの記述方法は、機材ごとに 1 行ずつ、「IP アドレス , ユーザー名 , パスワード , PJLink パスワード」の形式となります。

  例）
  192.168.0.8,User name1,Password1,PJLinkPassword1［改行］
  192.168.0.9,User name2,Password2,PJLinkPassword2［改行］
  ・
  ・
  ・

3 登録する機材の左端にあるチェックボックスにチェックを入れます。



4 ［登録］（①）、または［更新］（②）をクリックします。

［登録］（①）：未登録の IP アドレスに機材を追加登録します。

［更新］（②）：機材の情報を上書き登録します。登録されている IP アドレスがカメラの場合は上書きされません。

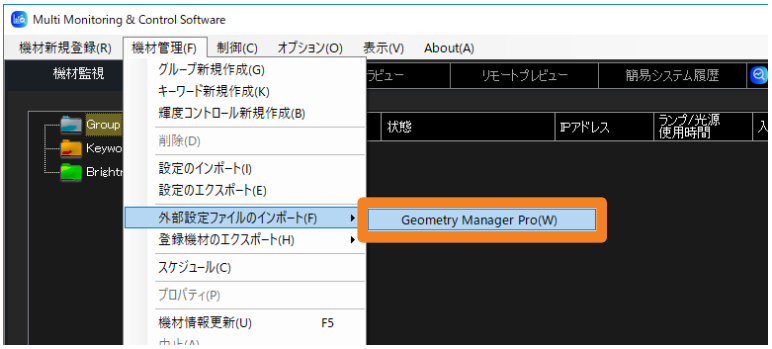
お知らせ

- 登録した機材の情報が表示されるまでには時間がかかる場合があります。
- パスワードは伏せ字（***）で表示されます。
- ユーザー名やパスワードにカンマ（,）を使用している機材が含まれる機材ファイルは、読み込むことができません。ユーザー名、パスワードにカンマ（,）を使用した機材を登録する場合は、手動で行ってください。（P.24）

「Geometry Manager Pro」から登録する

プロジェクターの幾何学歪補正、および設置調整をサポートするソフトウェア「Geometry Manager Pro」に登録したプロジェクターの設定情報を、本ソフトウェアに登録する機能です。登録したいプロジェクターが多数あるときなど、本ソフトウェアで再度プロジェクターを登録する必要がないので便利です。

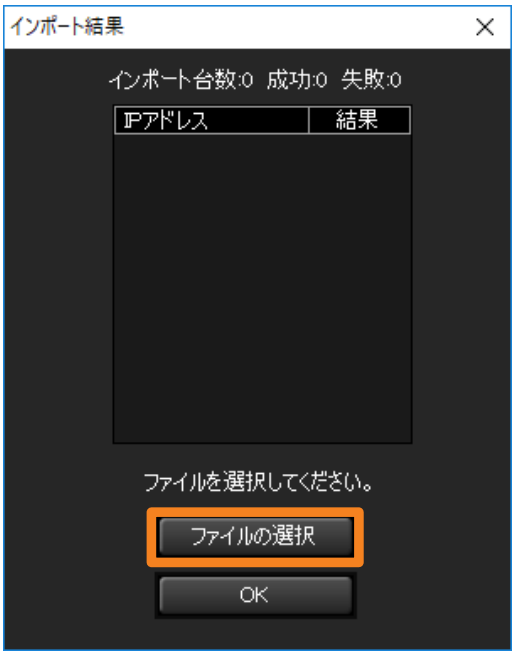
1 メニューから［機材管理］→［外部設定ファイルのインポート］→［Geometry Manager Pro］を選択します。



2 ［同じ IP アドレスの機材は、登録されません。よろしいですか？］のメッセージが表示されます。

［はい］：登録済みの機材に設定された IP アドレスと、インポートするプロジェクターの IP アドレスが重複している場合、そのプロジェクターは登録されません。
［いいえ］：インポートを中断します。

3 ［ファイルの選択］をクリックします。



4 プロジェクター登録情報ファイル（拡張子：.ugk）を選択し、［開く］をクリックします。

5 インポート結果が表示されたら、内容を確認し［OK］をクリックします。

・ファイルが壊れているなど、インポートに失敗した場合はメッセージが表示されます。プロジェクター登録情報ファイルに問題がないか確認してください。

機材情報をエクスポートする

■機材情報を Screen Transfer 用にエクスポートする

登録した機材情報を Screen Transfer 用に書き出す機能です。

1 メニューから［機材管理］→［登録機材のエクスポート］→［Screen Transfer］を選択します。

機材監視画面のツリー部で （グループフォルダー）または （ネットワークカメラ）を選んでからメニューを選択すると、選んだグループに属する機材情報のみをエクスポートできます。

2 保存先とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

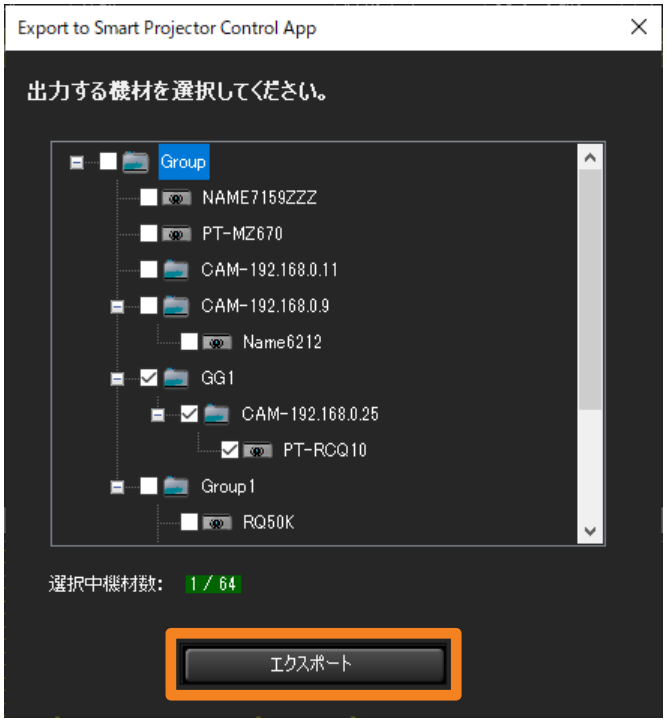
ファイル名：DeviceList.dat

■プロジェクター情報を Smart Projector Control App 連携用にエクスポートする

登録した機材から Projector のみを抽出し、関連情報を Smart Projector Control App 連携用に書き出す機能です。

1 メニューから［機材管理］→［登録機材のエクスポート］→［Smart Projector Control App］を選択します。

2 エクスポートするプロジェクターまたは （グループフォルダー）のチェックボックスにチェックを入れ、［エクスポート］をクリックします。

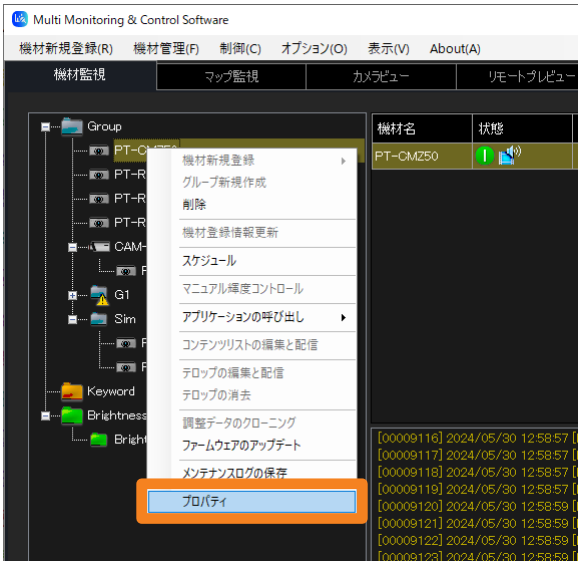


3 保存先とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

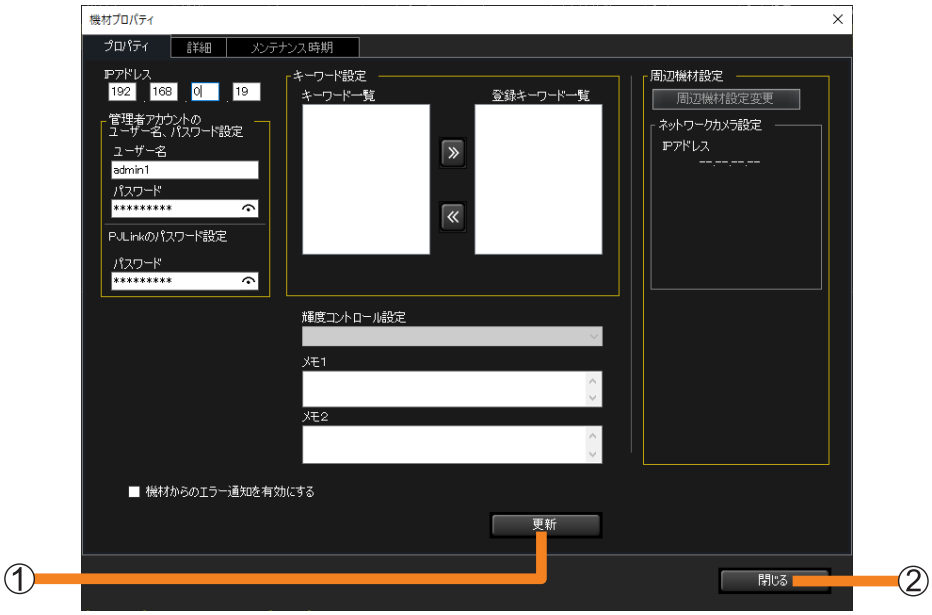
保存成功のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックしてください。
ファイル名：MMCS_DeviceList_XXXXXXXXXXXXXX.dat
("XXXXXXXXXXXXXX" は年月日時分秒です)

機材や周辺機器の登録情報を変更する

1 機材監視画面のツリー部から、登録情報を変更する機材を選び、右クリックで［プロパティ］を選択します。



2 登録情報を変更し、［更新］（①）をクリックします。



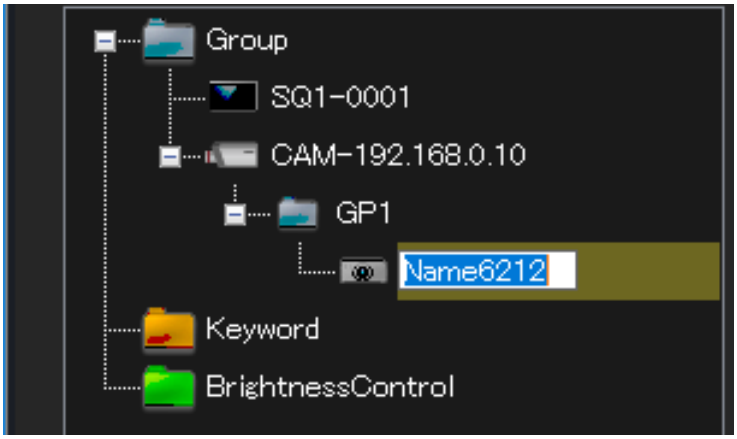
3 ［閉じる］（②）をクリックします。

機材名を変更する

登録した機材の名称を変更することができます。

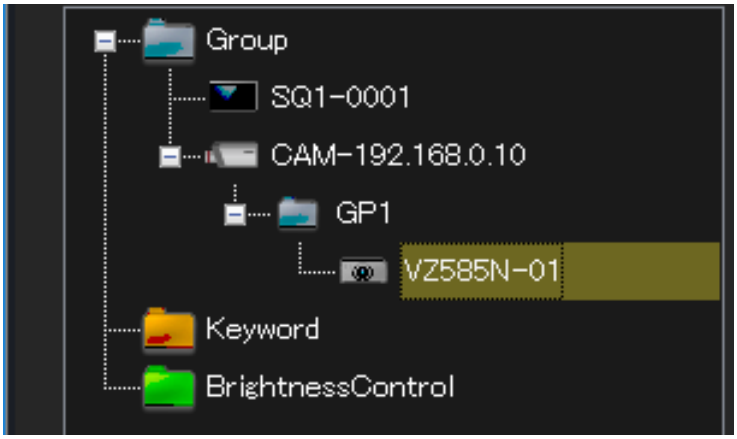
1 機材監視画面のツリー部から、変更したい機材名を選択し、キーボードで［F2］キーを押します。

・以下の方法でも操作できます。
　－ 変更したい機材名を選択した状態で、もう一度同じ機材名をクリックします。



2 機材名を変更し、［Enter］キーを押して確定します。

半角大文字英数字で、フラットパネルディスプレイは最大 8 文字、プロジェクターは最大 12 文字入力できます。



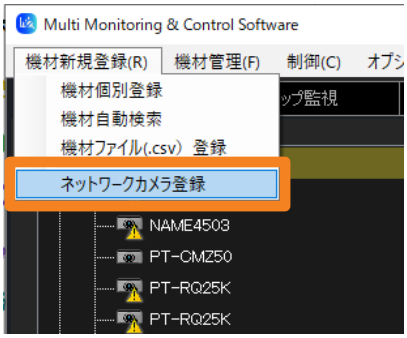
お知らせ

・本ソフトウェア側で機材名を変更すると、接続している該当機材側でも機材名が同様に変更されます。機材名の変更機能に対応していない機材は、機材名を変更しても元の機材名に戻ります。

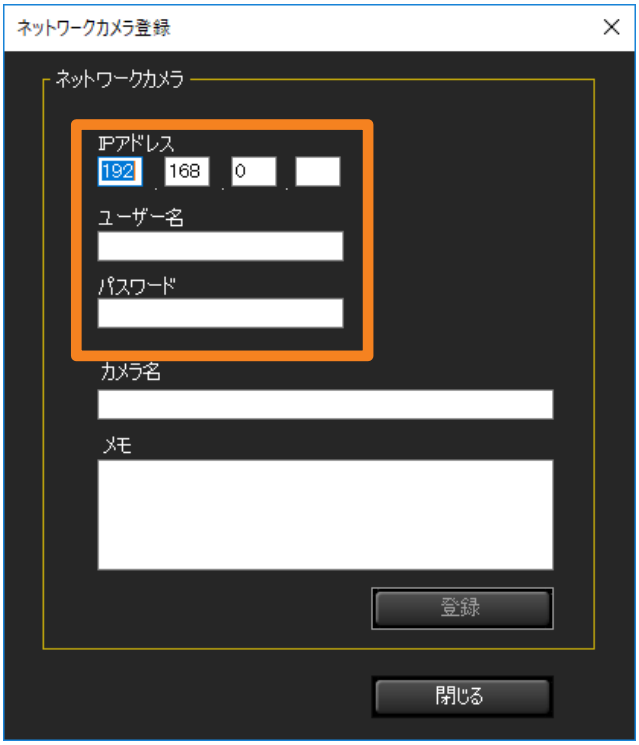
ネットワークカメラを登録する

周辺機器としてネットワークカメラを単独で登録できます。（最大 32 台）
・登録したネットワークカメラに、機材やグループフォルダーをリンクさせるには P.40 をご覧ください。

1 メニューから［機材新規登録］→［ネットワークカメラ登録］を選択します。



2 登録するネットワークカメラに設定されている［IP アドレス］、［ユーザー名］、［パスワード］を入力します。

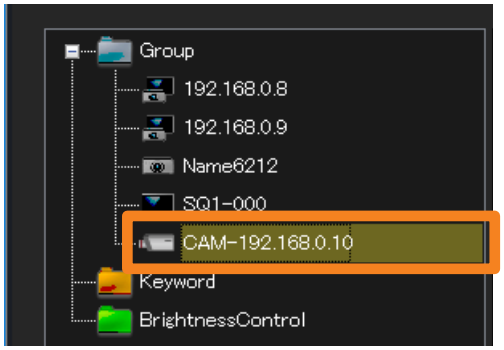


3 必要に応じて［カメラ名］、［メモ］を入力し、［登録］をクリックします。

［カメラ名］：最大 32 文字入力できます。
［メモ］：最大 512 文字入力できます。

4 ［閉じる］をクリックします。

と手順 **3** で入力した［カメラ名］（入力していない場合は、CAM-XXX（XXX：ネットワークカメラの IP アドレス））が機材監視画面のツリー部に表示されます。



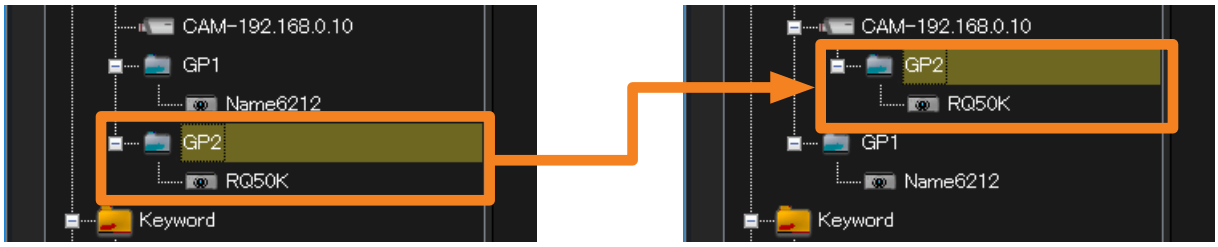
機材をリンクさせる

登録したネットワークカメラを機材やグループフォルダーをリンクすることで、機材を映像で監視することができます。

■登録済みの機材やグループフォルダーをリンクするには

1 リンクさせたい機材アイコンまたは （グループフォルダー）をドラッグし、 の下にドロップします。

- グループを移動すると、そのグループの下に属するグループや機材も一緒に移動します。
- グループの階層は、最大 99 階層まで設定することが可能です。



■機材やグループフォルダーを新規登録してリンクするには

1 リンクさせたい を選び、右クリックで［機材新規登録］または［グループ新規作成］を選びます。

以降の操作手順は、以下のそれぞれのページをご覧ください。

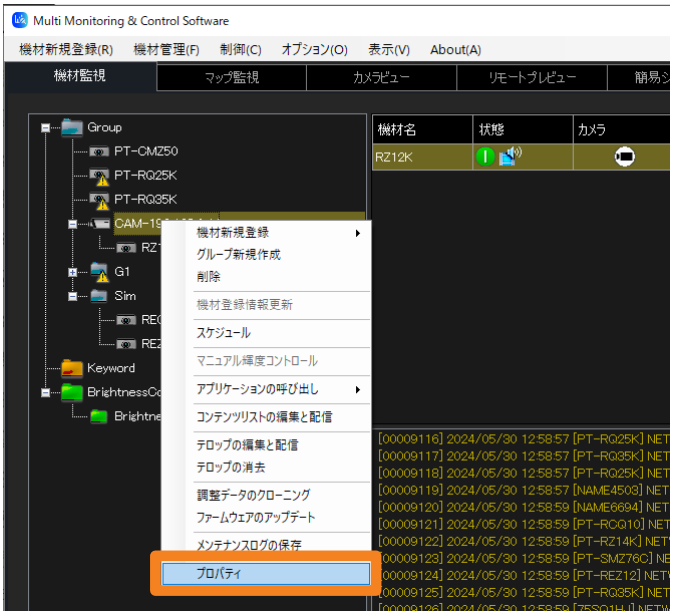
- ［機材新規登録］（P.24）
- ［グループ新規作成］（P.44）

お知らせ

- ネットワークカメラとネットワークカメラとで直接リンクさせることはできません。
- 登録したネットワークカメラの映像を画像として表示するには、P.74 をご覧ください。

ネットワークカメラの登録情報を変更する

1 機材監視画面のツリー部から、登録情報を変更する（ネットワークカメラ）を選び、右クリックで［プロパティ］を選択します。



2 登録情報を変更し、［更新］（①）をクリックします。

3 ［閉じる］（②）をクリックします。

フェイルソフト機能を設定する

フェイルソフト機能とは、表示中の映像信号が一時的に途切れて無信号状態が続いた場合に、自動で復帰処理を行い、映像を継続して表示させるフラットパネルディスプレイの機能です。

フェイルソフト機能を有効にする場合は、次のいずれかを選択します。

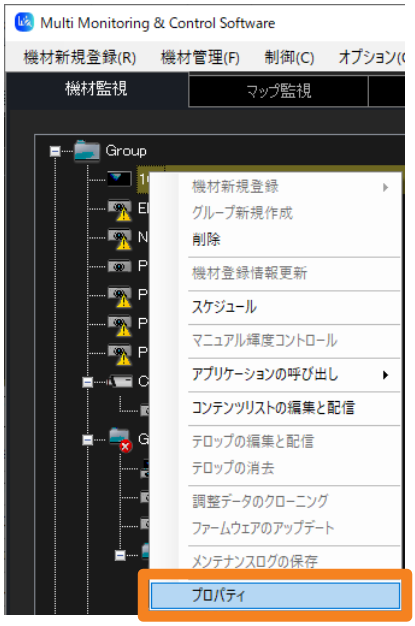
[ホットプラグリセット処理を行う]：
選択中の入力に対し、映像信号を再検出します。（通常はこちらを選択してください）

[ホットプラグリセット処理と電源リセット処理を行う]：
ホットプラグリセット処理で復帰できなかった場合、機材の電源オフ／オン操作を行います。

お知らせ

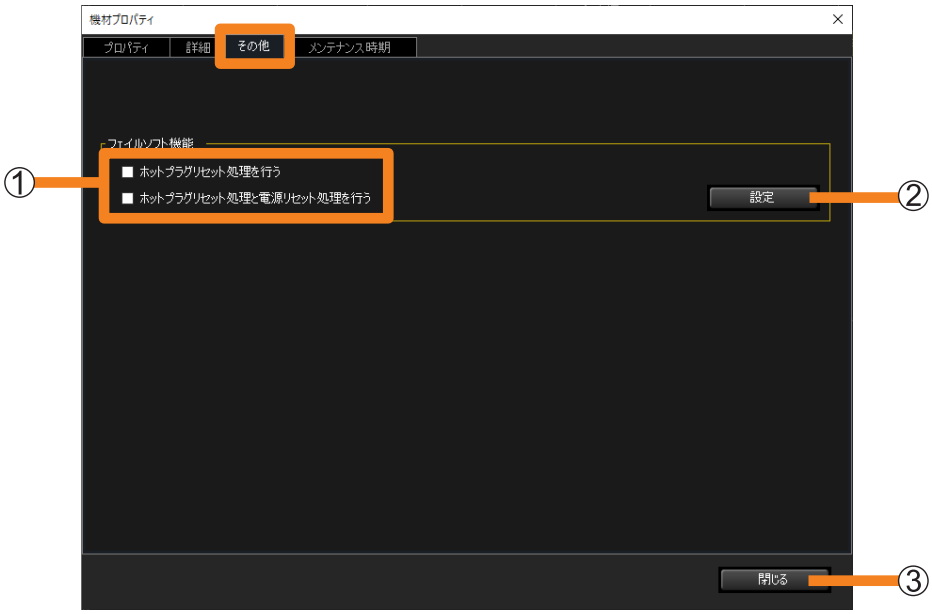
- 長時間サイネージ用途などで映像コンテンツを連続再生する場合は、フェイルソフト機能を有効にすることをお勧めします。予期せず無信号状態になったときも自動で復帰を試みます。
- 映像コンテンツを連続再生せず、入力信号がない状態が発生するような運用をしている場合は、フェイルソフト機能を使用しないでください。自動復帰処理を行うたびに、要不要にかかわらず本ソフトウェア上にお知らせが表示されます。
- [ホットプラグリセット処理を行う] を選択していても無信号状態のまま復帰しない状態が多発するときは、[ホットプラグリセット処理と電源リセット処理を行う] を選択してください。
- フェイルソフト機能を使用できるフラットパネルディスプレイが対象です。ご利用のフラットパネルディスプレイが対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software

1 機材監視画面のツリー部から、フェイルソフト機能を設定したいフラットパネルディスプレイを選び、右クリックで［プロパティ］を選択します。



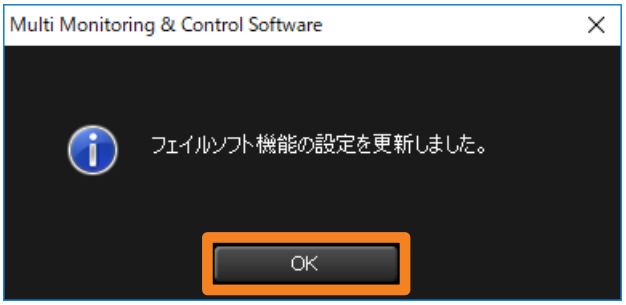
2 ［その他］のタブを開き、①で機能を選びチェックします。

［ホットプラグリセット処理を行う］：
選択中の入力に対し、映像信号を再検出します。（通常はこちらを選択してください）
［ホットプラグリセット処理と電源リセット処理を行う］：
ホットプラグリセット処理で復帰できなかった場合、機材の電源切／入操作を行います。



3 ［設定］（②）をクリックします。

設定が更新され次のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックしてください。



4 ［閉じる］（③）をクリックします。

お知らせ

- フェイルソフト機能は、すべての映像表示の停止状態を回避することを保証するものではありません。
- フェイルソフト機能は、フラットパネルディスプレイに入力されている映像入力信号が、デジタル信号の時に使用できます。
- フェイルソフト機能の更新間隔は、［機材情報の取得間隔］(P.143) の設定と連動します。
  例）［機材情報の取得間隔］を 60 分に設定した場合
  機材情報が自動取得されてから、次の自動取得が始まる 60 分の間に、映像信号が一時的に途切れて無信号状態になっても、本ソフトウェアはその一時的な無信号状態を認識することはできません。
- フェイルソフト機能を有効にする場合、フラットパネルディスプレイ本体側の設定も必要となります。

グループを作成する

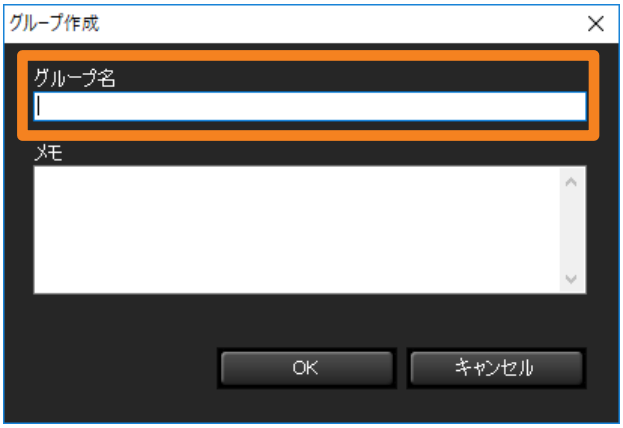
機材をフロア別や機種別などのグループ単位にまとめて管理することができます。
最大 100 のグループを作成できます。

1 機材監視画面のツリー部から （グループフォルダー）を選び、右クリックで［グループ新規作成］を選択します。

・以下の方法でも操作できます。
　- メニューから［機材管理］→［グループ新規作成］を選択します。

2 ［グループ名］を入力します。

最大 128 文字入力できます。
・［メモ］欄への記述は自由です。最大 512 文字入力できます。



3 ［OK］をクリックします。

新しいグループのアイコンがツリー部に作成されます。

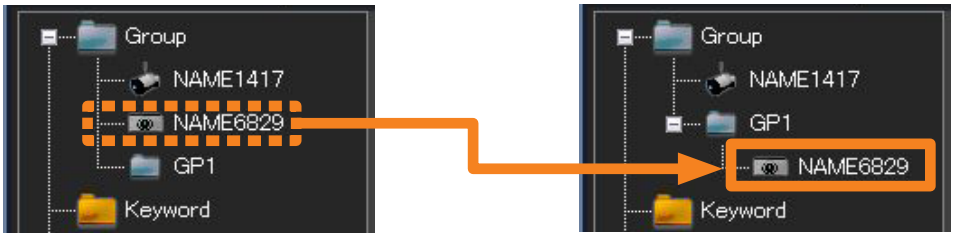
お知らせ

・複数のグループで同じ名称を用いることができます。

グループを移動する

1 機材アイコンまたは （グループフォルダー）をドラッグし、任意の場所にドロップします。

- グループを移動すると、そのグループの下に属するグループや機材も一緒に移動します。
- グループの階層は、最大 99 階層まで設定することが可能です。



登録機材を他のグループに移動

グループごと移動

グループの下に新規で機材を登録する

1 登録したい （グループフォルダー）を選び、右クリックで［機材新規登録］または［グループ新規作成］を選びます。

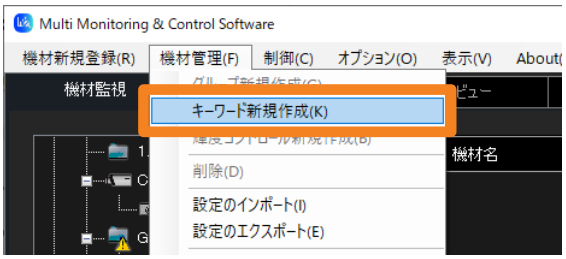
以降の操作手順は、以下のそれぞれのページをご覧ください。

- ［機材新規登録］（P.24）
- ［グループ新規作成］（P.44）

キーワードを作成する

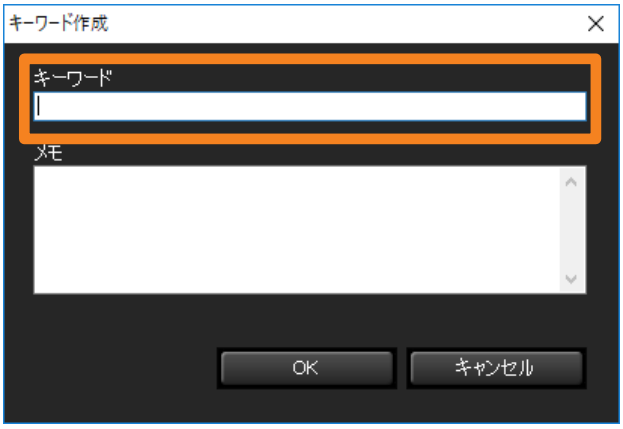
機材をキーワード単位で一括監視、制御を行う場合には、まずキーワードを作成する必要があります。

1 メニューから［機材管理］→［キーワード新規作成］を選択します。



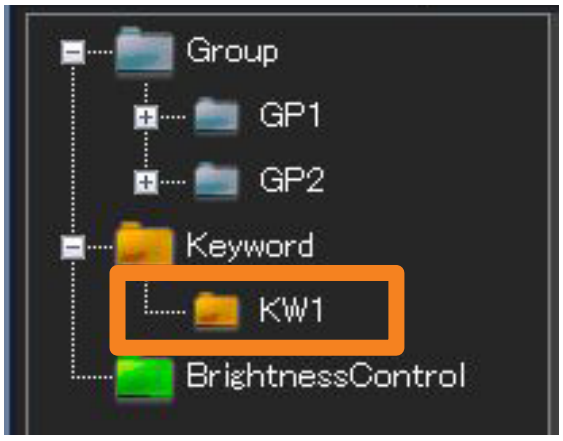
2 ［キーワード］を入力します。

半角で 128 文字までの任意の文字列を指定することができます。
・［メモ］欄への記述は自由です。最大 512 文字入力できます。



3 ［OK］をクリックします。

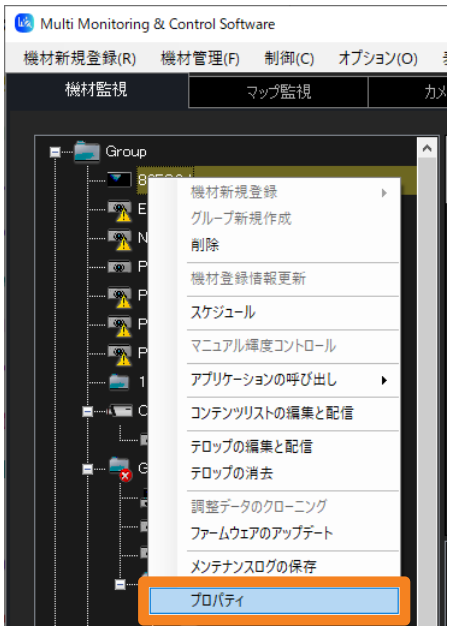
新しいキーワードのアイコンがツリー部に作成されます。



機材にキーワードを割り当てる

1 機材監視画面のツリー部から、キーワードを割り当てたい機材を選び、右クリックで［プロパティ］を選択します。

- 以下の方法でも操作できます。
  - メニューから［機材管理］→［プロパティ］を選択します。
  - 簡易情報表示部に表示された機材を右クリックし、表示されるメニューから［プロパティ］を選択します。

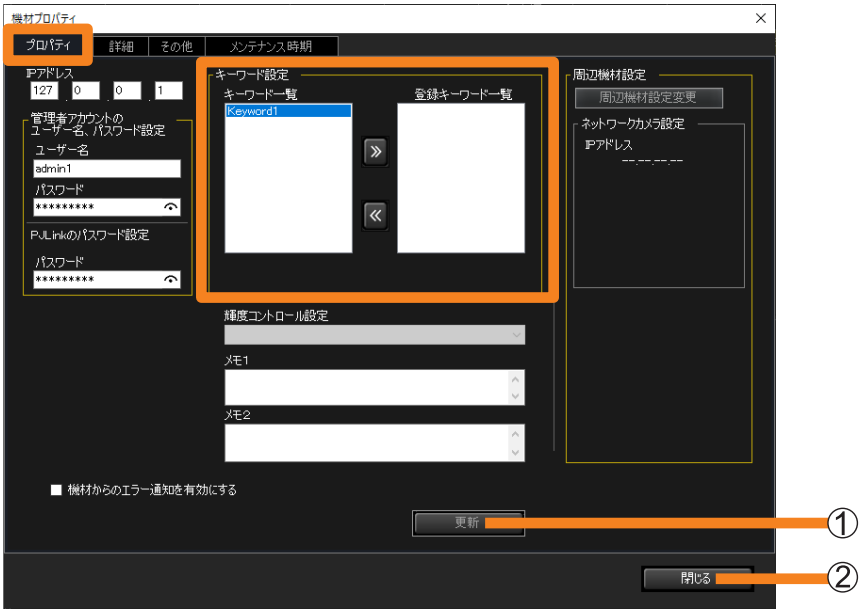


キーワードを作成する

2 ［プロパティ］タブを開き、［キーワード一覧］から割り当てたいキーワードを選び、» をクリックします。

選んだキーワードが、右側の［登録キーワード一覧］へ移動します。« をクリックすると、左側へ戻ります。

・複数のキーワードの割り当てを行う場合は、この作業を割り当てるキーワードの数だけ繰り返します。



3 ［更新］（①）をクリックします。

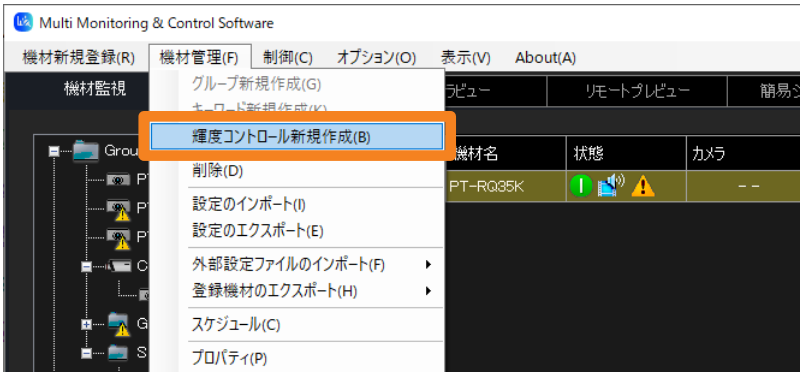
4 更新成功のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

5 ［閉じる］（②）をクリックします。

輝度コントロールを作成する

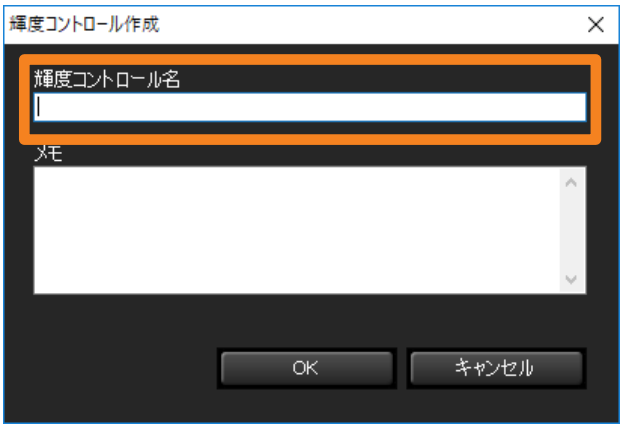
輝度コントロールを設定することで、複数台用いて 1 つの結合映像を表示する場合など、プロジェクターグループ内でランプの個体差や経時変化が原因で投写画面上の輝度が不均一になることを抑えることができます。

1 メニューから［機材管理］→［輝度コントロール新規作成］を選択します。



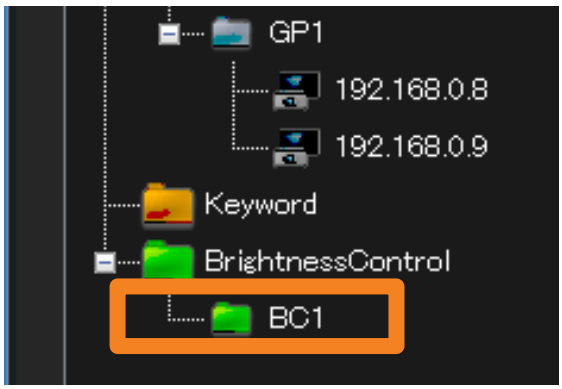
2 ［輝度コントロール名］を入力します。

半角で 128 文字までの任意の文字列を指定することができます。
・［メモ］欄への記述は自由です。最大 512 文字入力できます。



3 ［OK］をクリックします。

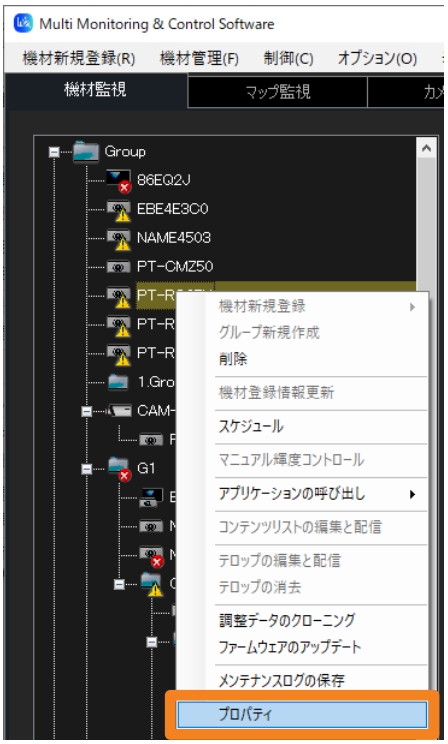
新しい輝度コントロールのアイコンがツリー部に作成されます。



プロジェクターに輝度コントロールを割り当てる

1 機材監視画面のツリー部から、輝度コントロールを割り当てたいプロジェクターを選び、右クリックで［プロパティ］を選択します。

- 以下の方法でも操作できます。
  - メニューから［機材管理］→［プロパティ］を選択します。
  - 簡易情報表示部に表示されたプロジェクターを右クリックし表示されるメニューから［プロパティ］を選択します。

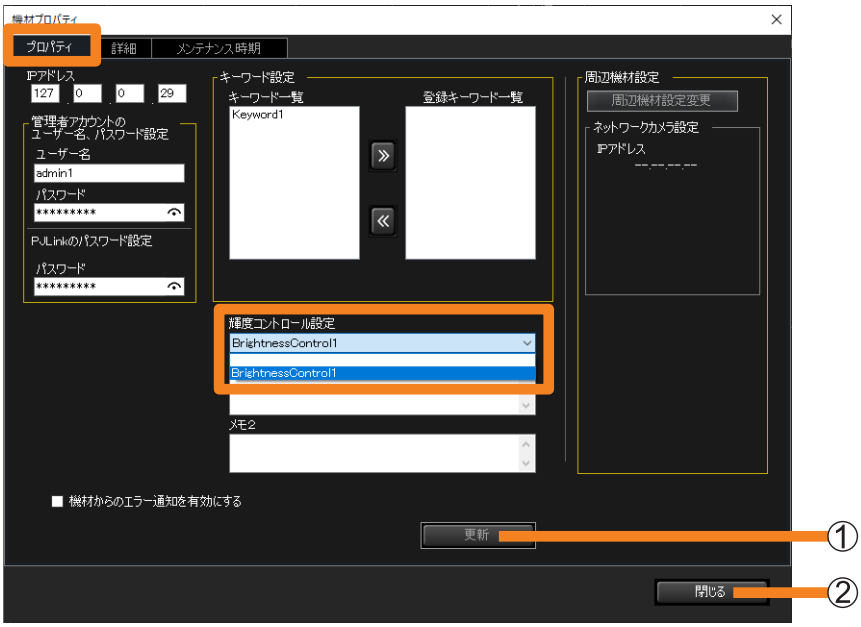


お知らせ

- 異なるシリーズのプロジェクターを同じ輝度コントロールに割り当てることはできません。プロジェクターのシリーズごとに輝度コントロールの割り当てを行ってください。

2 ［プロパティ］タブを開き、［輝度コントロール設定］から割り当てたい輝度コントロールを選びます。

あらかじめ作成した輝度コントロールが一覧表示されます。（P.49）



3 ［更新］（①）をクリックします。

4 更新成功のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

5 ［閉じる］（②）をクリックします。

お知らせ

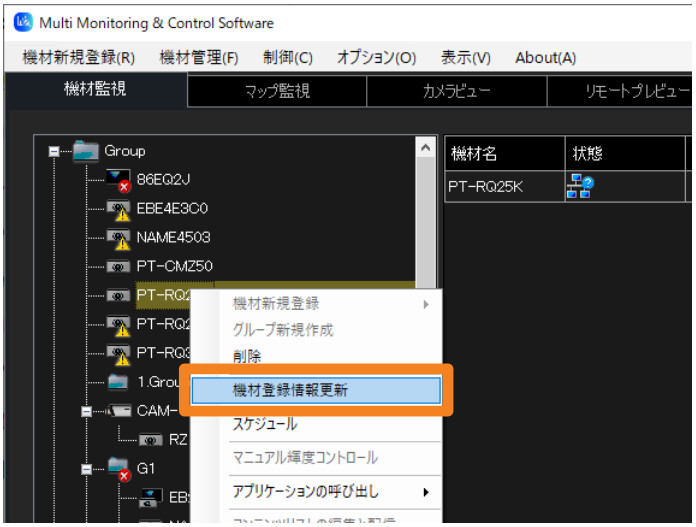
- 輝度コントロール機能を搭載したプロジェクターに限り、輝度コントロールの割り当てができます。この機能を搭載していないプロジェクターの場合は、プルダウンメニューが表示されません。
- 輝度コントロールの割り当てを行うには、プロジェクター本体のオンスクリーンメニューの［メインメニュー］→［プロジェクターセットアップ］→［輝度コントロール］→［輝度コントロール設定］→［モード］（あるいは［一定モード］）を「PC」に設定してください。
- 選択しているプロジェクターと異なるシリーズのプロジェクターに割り当てられている輝度コントロールは、［輝度コントロール設定］には表示されません。

機材登録情報を更新する

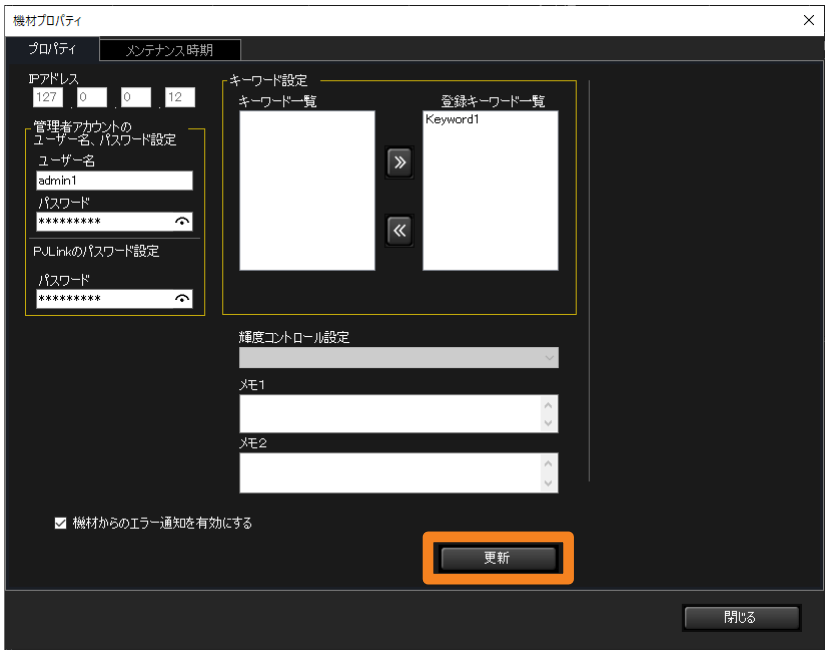
すでに本ソフトウェアに登録されている機材を、IP アドレス、管理者アカウント (ユーザー名、パスワード)、PJLink(パスワード) が同じ別の機材で置き換えた際など、登録されている機材と異なるモデル名の機材を検出した場合、機材監視画面（P.60）の簡易情報表示部に、異なるモデルの接続アイコンが表示されます。

異なるモデル名の機材を以前登録されていた機材と置き換えて登録する場合は、次の手順を実施します。

1 機材監視画面のツリー部から アイコンの機材を選び、右クリックで［機材登録情報更新］を選択します。



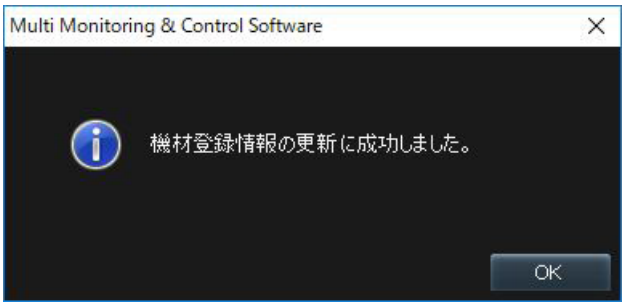
2 ユーザー名、パスワード、キーワード設定、メモなどを確認し、問題なければ［更新］をクリックします。



3 ［更新］をクリックすると、機材の登録情報の更新を実施します。
以下の（a）、（b）、（c）のそれぞれの場合により表示されるメッセージが異なります。

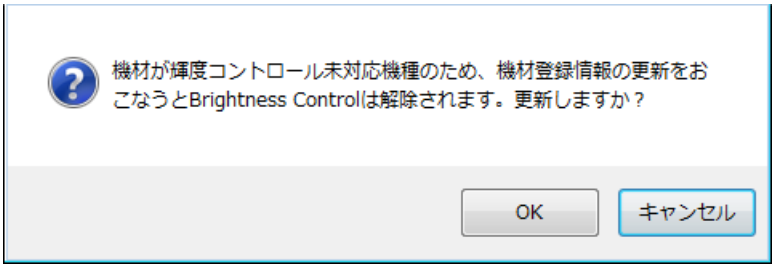
（a）更新に成功した場合

登録情報の更新が成功すると次のメッセージが表示されます。



（b）輝度コントロールを割り当てた機材を、輝度コントロール機能に未対応な機材へと更新した場合、または更新する機材の輝度コントロールの調整モードが“PC”モード以外に設定されている場合

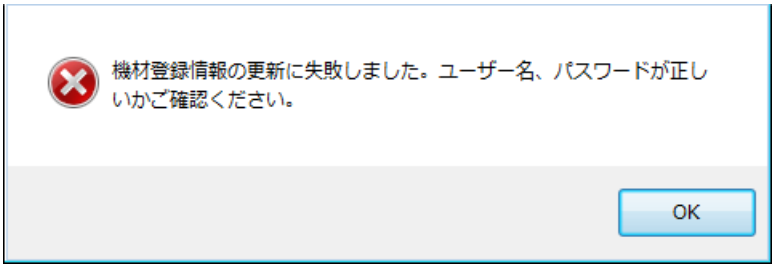
次のメッセージが表示されます。
［OK］をクリックすると、更新する機材の登録情報は、輝度コントロールの対象から除外された状態で更新されます。



(c) 更新に失敗した場合

登録情報の更新が失敗すると次のメッセージが表示されます。

- 更新する機材の、次の設定を確認してください。
  - 管理者アカウントの［ユーザー名］、［パスワード］
  - PJLink の［パスワード］
- 管理者アカウント対応機材で、管理者アカウントが設定されていない場合は、警告メッセージに従って、管理者アカウントの設定を行ってください。（P.29）



お知らせ

- 機材を登録したグループフォルダーや、設定しているキーワードは、更新後もそのまま引き継がれます。
- 以前登録されていた機材のスケジュールは、そのまま引き継がれます。輝度コントロールを解除した場合は、輝度コントロールのスケジュールは引き継がれません。
- 更新した機材にない機能の動作がスケジュールで引き継がれた場合は、その機能は動作せず、スケジュール実行時にエラーとなります。

削除する（機材、グループ、キーワード、輝度コントロール、ネットワークカメラ）

1 機材監視画面のツリー部から、削除したい機材、グループ、キーワード、輝度コントロールまたはネットワークカメラのアイコンを選び、右クリックで［削除］を選択します。

- 以下の方法でも操作できます。
  - メニューから［機材管理］→［削除］を選択します。
- フォルダーを選択すると、選択したフォルダーごと削除できます。（親グループ（[Group] フォルダー）は、削除できません。）

2 確認のメッセージが表示されたら、［はい］をクリックします。

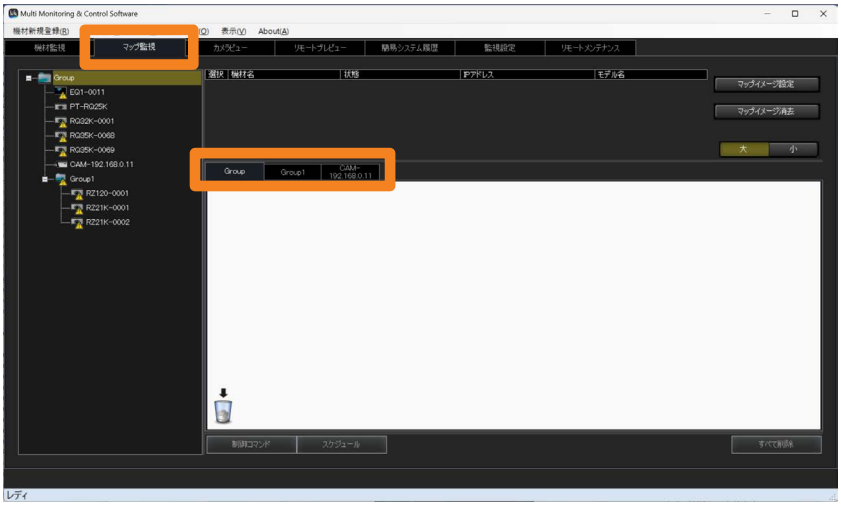
選択した項目が、ツリー部から削除されます。

機材の位置情報を登録する

登録した機材をグループごとにマップ上へ配置することで、視覚的に機材の設置状況が確認できます。またマップ上から機材を選び、機材の制御やスケジュール登録を行うことができます。

1 ［マップ監視］タブを開き、マップを取り込むグループタブを選びます。

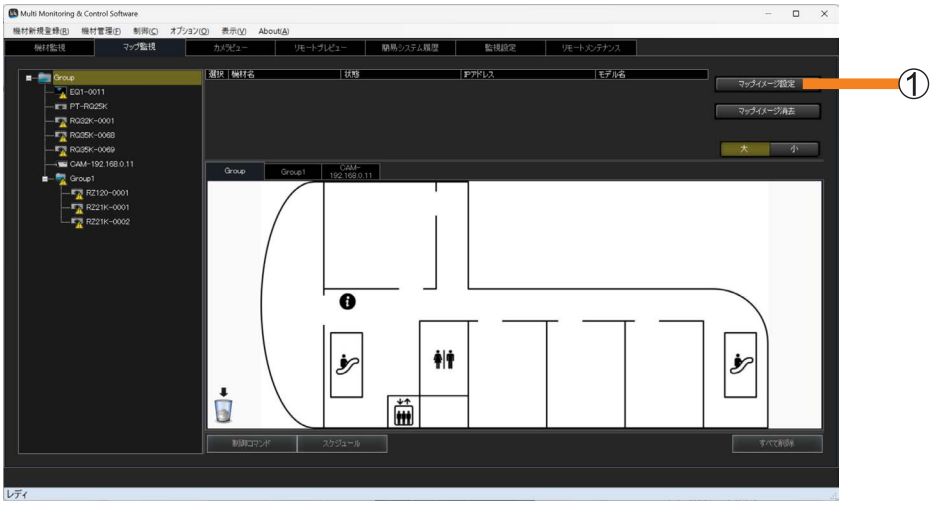
親グループ（［Group］フォルダー）を含め、作成したすべてのグループがタブで表示されています。



2 ［マップイメージ設定］（①）をクリックし、読み込むマップを選びます。

画像を選択し［開く］をクリックすると、選択したグループに画像が読み込まれます。

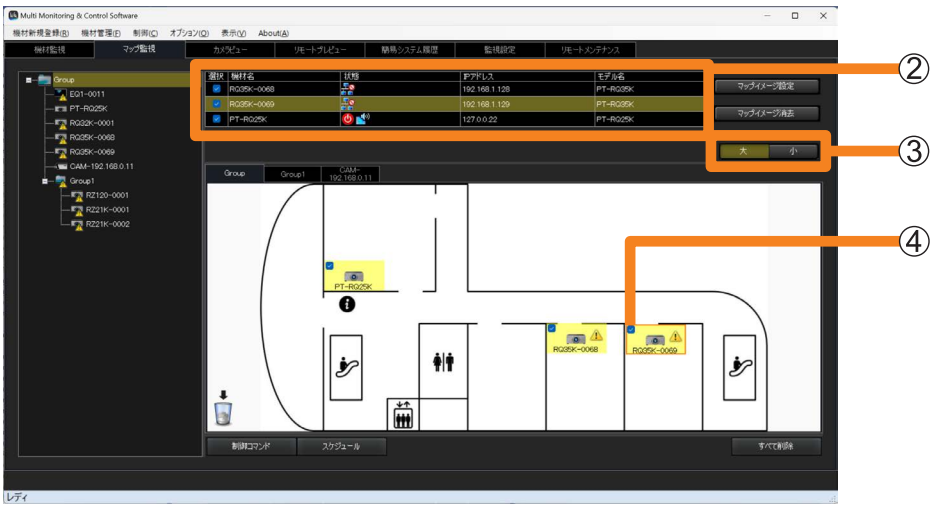
- 選択可能な画像ファイル
  - 拡張子：.jpg/.jpeg/.png/.bmp
  - 最大画素数：4 096 × 4 096
- マップを差し替える場合は、もう一度［マップイメージ設定］をクリックし、画像を選択し直します。画像の差し替えは、機材配置後にも行うことができます。



3 ツリー部から、機材をドラッグアンドドロップでマップ上に配置します。

配置した機材のリスト情報が（②）に表示されます。

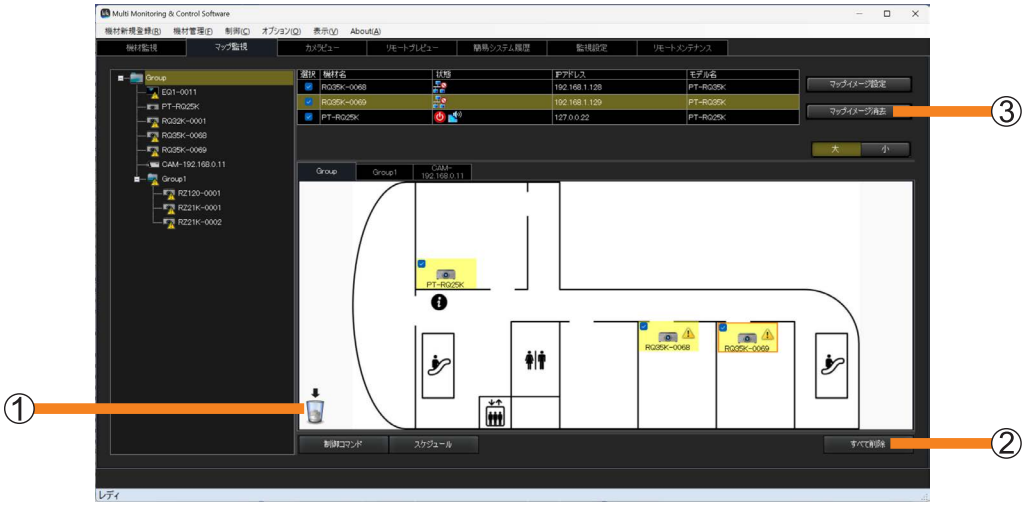
- ［大］／［小］（③）をクリックすると、配置したアイコンの表示が拡大／縮小されます。
- マップに配置した機材アイコンのチェックボックス（④）にチェックを入れると、機材のリスト情報側の［選択］欄にもチェックが入ります。（機材のリスト情報の選択欄からはチェックできません。）
- 機材は登録されているグループタブ内に配置することができます。
- グループフォルダーは登録されている一階層上のグループ内に配置することができます。



配置した機材やグループフォルダーを削除する

1 削除する機材またはグループフォルダーを選択し、ゴミ箱（①）にドラッグアンドドロップします。

- 配置しているすべての機材とグループフォルダーを一括削除するには、［すべて削除］（②）をクリックします。



2 確認のメッセージが表示されたら、［はい］をクリックします。

ゴミ箱に移動した機材がマップ上から削除されます。

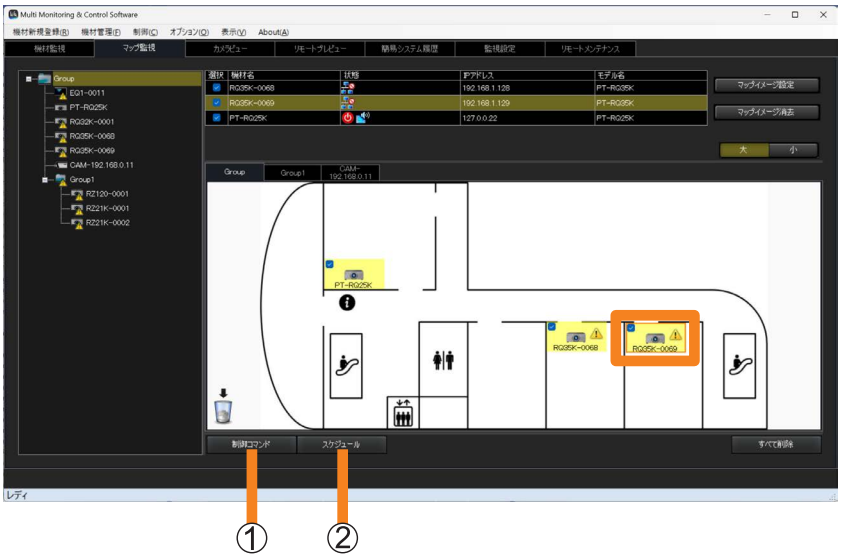
お知らせ

- ［マップイメージ消去］（③）をクリックすると、マップ画像のみが消え、配置した機材とグループフォルダーはそのまま残ります。

マップから機材の制御やスケジュール設定を行う

1 設定を行う機材が配置されたグループタブを選びます。

2 設定を行う機材やグループフォルダーにチェックを入れ、
［制御コマンド］（①）または［スケジュール］（②）をクリックします。



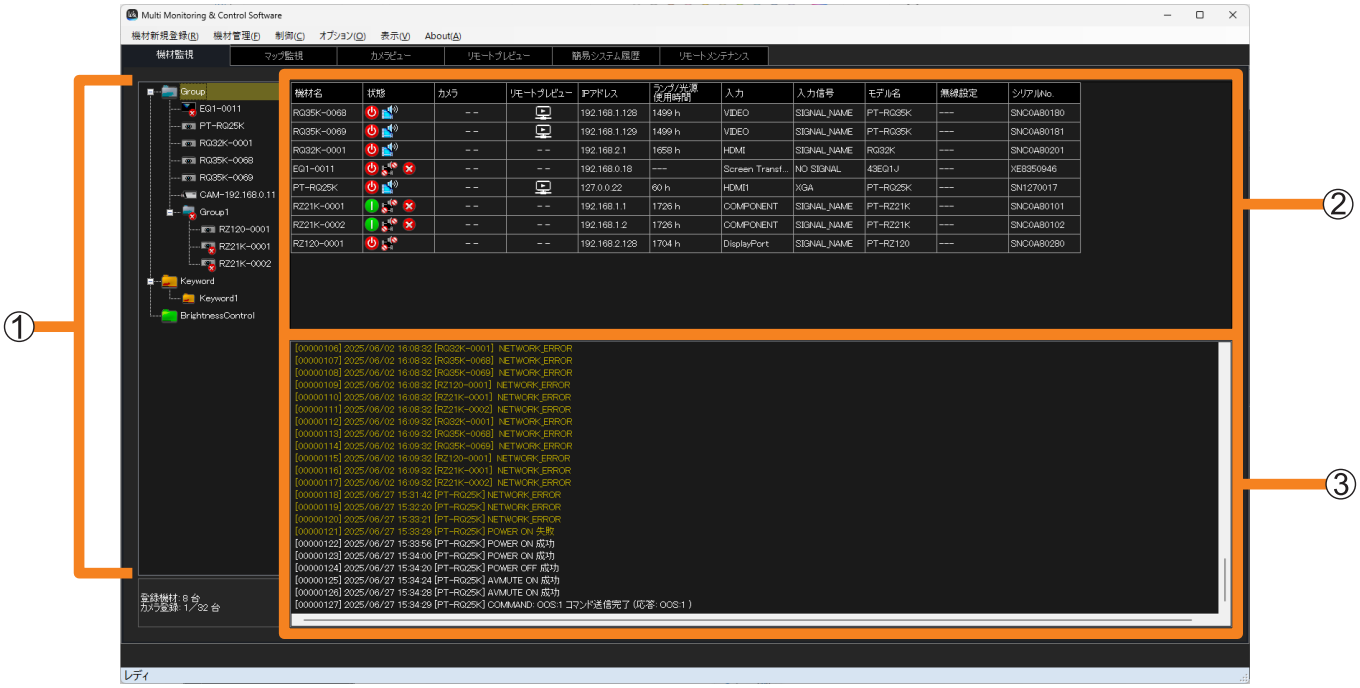
3（［制御コマンド］選択時）
「制御コマンドを実行する」（P.92）に従い、制御設定を行います。

（［スケジュール］選択時）
「スケジュール機能を使用する」（P.102）に従い、スケジュール設定を行います。

機材の状態を監視する

簡易情報の表示について

機材監視画面には、設定された機材の簡易情報がグループ／キーワード／輝度コントロール単位で表示されます。



機材監視画面

① **ツリー部**（P.61）
② **簡易情報表示部**（P.62）
③ **コマンド実行ログ表示部**：制御コマンド（P.92）、スケジュール機能（P.102）の実行結果および、機材の接続状態やログの履歴情報が表示されます。

お知らせ

- 有線接続／無線接続などの接続環境に関わらず、通信環境が不安定な場合は、機材情報が正常に取得できないことがあります。

ツリー部のアイコンについて

機材		機材が正常状態にあります。
		機材が警告状態にあります。 （警告内容については簡易情報表示部で確認できます。）
		機材がエラー状態にあります。 （エラー内容については簡易情報表示部で確認できます。）
ネットワークカメラ		ネットワークカメラが登録されています。
		ネットワークカメラとの接続に関してエラーが検出された状態です。
グループ		グループが作成されています。
		警告が検出された機材がグループ内に 1 台以上あります。
		エラーが検出された機材がグループ内に 1 台以上あります。
キーワード		キーワードが作成されています。
輝度コントロール		輝度コントロールが作成されています。
		輝度コントロールが正常に実施されず、警告が検出されたプロジェクターがグループ内に 1 台以上あります。
スケジュール		機材、グループ、キーワード、輝度コントロールにスケジュールが設定されていることを示します。

お知らせ

- 同一の機材で警告とエラーの両方が検出された場合は、エラーとして表示します。同様に、同一のグループ内に警告を検出した機材とエラーを検出した機材の両方が存在する場合は、エラーとして表示します。
- フラットパネルディスプレイの機種によっては、警告またはエラーが発生している場合や、新たに警告またはエラーが発生した場合でも、機材監視画面のツリー部に警告またはエラー状態を示すアイコンは表示されず、正常状態を示すアイコンが表示されたままになります。この制限のある機種については、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software
  なお、機材に発生しているすべての警告情報およびエラー情報は、［機材プロパティ］画面→［詳細］タブの［Self Test］の項目で確認できます。（P.72）

簡易情報部のアイコンについて

[機材名]：各機材で設定されているプロジェクター名（ホスト名）、またはフラットパネルディスプレイ名（ホスト名）が表示されます。

[状態]：　機材の状態がアイコン表示されます。

■電源状態、ネットワークとの接続状態、シャッター /AV ミュート状態を示すアイコン

	機材の電源がオンの状態です。
	機材の電源がオフの状態（スタンバイ状態）です。
	機材の電源をオフにして、現在クーリング状態です。
	機材の電源をオンにして、現在ウォームアップ状態です。
	機材がネットワークに接続されていない状態です。
	IP アドレスが同一で、登録時と異なる機材がネットワークに接続されている状態です。 機材の更新が必要です。機材登録情報更新を実行してください。（P.52）
	シャッターが開いている／機材が映像・音声ミュート機能解除の状態です。
	シャッターが閉じている／機材が映像・音声ミュート機能有効の状態です。
	シャッターが開いている／機材が音声ミュート機能有効の状態です。
	シャッターが閉じている／機材が映像ミュート機能有効の状態です。

■警告状態を示すアイコン

	ランプ交換時期が近づいている 新しいランプユニットをご用意ください。
	吸気温度、ランプ周辺温度（排気温度）のいずれかが高い 光学モジュール温度が高い、または低い 通風口と周辺温度を確認し、機材ごとに決められた動作保証温度の範囲内で使用してください。
	フィルター目詰まり警告、ARF/ACF 残量少 新しい ARF/ACF ユニットをご用意ください。 ARF/ACF 以外はフィルターのお手入れを行ってください。
	上記以外の警告 販売店にご相談ください。

簡易情報の表示について

■エラー状態を示すアイコン

	ランプ交換時期を超過している、ランプ／光源点灯失敗、ランプ未装着、ランプ／光源故障 ランプ交換時期を超えている場合はランプを交換してください。その他の場合は、販売店にご相談ください。
	吸気温度、ランプ周辺温度（排気温度）、光学モジュール温度のいずれかが高い 光学モジュール温度が低い状態で一定時間経過している 通風口と周辺温度を確認し、機材ごとに決められた動作保証温度の範囲内で使用してください。
	フィルター目詰まりエラー、ACR/ARF/ACF/ エアーフィルターユニット未装着、フィルター巻き取り失敗、ARF/ACF 残量なし ARF/ACF の残量がない場合は ARF/ACF ユニットを交換してください。 ARF/ACF 以外はフィルターのお手入れまたは交換をしてください。 異物がある場合は取り除いてください。 その他の場合は、販売店にご相談ください。
	上記以外のエラー（ランプユニット収納カバーが閉じていない、ファンエラー、シャッターエラー、絞りエラー、カラーホイールエラー、ACR/ARF/ACF 未装着、フィルター掃除処理のエラー、DC 電圧エラー、レンズシフトエラー、内部時計用電池交換時期など） 販売店にご相談ください。

お知らせ

- 警告とエラーの両方が発生している場合はエラーとしてアイコンを表示します。
  警告やエラーが発生したときの対応については、使用している機材の取扱説明書を確認してください。
- フラットパネルディスプレイの機種によっては、警告またはエラーが発生している場合でも、新たに警告またはエラーが発生した場合でも、簡易情報表示部の［状態］に警告状態またはエラー状態を示すアイコンは表示されません。この制限のある機種については、下記のWEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software
  なお、機材に発生しているすべての警告情報およびエラー情報は、［機材プロパティ］画面→［詳細］タブの［Self Test］の項目で確認できます。（P.72）

■その他の簡易情報

表示する項目は、オプションの設定画面［簡易情報］（P.149）で変更することができます。

［カメラ］： ネットワークカメラを機材とリンクさせる（P.40）と、アイコンが表示されます。

	アイコンをクリックするとネットワークカメラの映像が画像として表示されます。（P.74） ・［カメラビュー］タブをクリックすると、ネットワークカメラの映像を画像として一括で表示できます。（P.75）
——	ネットワークカメラと機材がリンクしていない状態です。

［リモートプレビュー］： 機材が、リモートプレビュー機能またはリモートプレビューライト機能に対応しているとアイコンが表示されます。

	アイコンをクリックすると機材に入力されている映像が画像として表示されます。（P.76） ・［リモートプレビュー］タブをクリックすると、機材に入力されている映像を画像として一括で表示できます。（P.77）
——	機材が、リモートプレビュー機能またはリモートプレビューライト機能に対応していません。

［ECO 設定レベル］： 機材が ECO マネージメント機能（P.137）に対応している場合にアイコンが表示されます。

	機材の ECO マネージメント設定で ECO 設定の項目が増加すると、緑色の領域が大きくなります。
———	機材が ECO マネージメント機能に対応していません。

簡易情報の表示について

[IP アドレス]：	機材の IP アドレスが表示されます。
[ランプ／光源使用時間]：	使用時間の最も多いランプ / 光源の使用時間が表示されます。（搭載されているランプ / 光源数の時間はツールチップで表示されます。）
[Closed Caption]：	クローズドキャプションのモードが表示されます。
[入力]：	機材で選択されている入力端子の情報が表示されます。
[入力信号]：	機材で投写中の信号名が表示されます。
[モデル名]：	機材のモデル名が表示されます。
[無線設定]：	プロジェクターのメニューで設定されている無線 LAN の接続方法（シンプル、S-DIRECT、M-DIRECT など）が表示されます。
[吸気温度]：	プロジェクターの吸気温度情報が表示されます。
[光学モジュール温度]：	プロジェクターの光学モジュール温度情報が表示されます。
[排気温度]：	プロジェクターの排気温度情報が表示されます。
[OSD メニュー設定]：	プロジェクターの OSD メニューの設定情報が表示されます。
[AC 電圧]：	プロジェクターの AC 電圧情報が表示されます。
[シリアル No.]：	機材のシリアル番号が表示されます。
[幾何学歪補正]：	プロジェクターの幾何学歪補正の設定情報が表示されます。
[基板温度（FP)]：	フラットパネルディスプレイの基板温度情報が表示されます。
[排気温度（FP)]：	フラットパネルディスプレイの排気温度情報が表示されます。
[吸気温度（FP)]：	フラットパネルディスプレイの吸気温度情報が表示されます。
[パネル温度（FP)]：	フラットパネルディスプレイのパネル温度情報が表示されます。

お知らせ

- リストの項目を選択したときに、“▲”が表示される場合は、降順または昇順で表示することができます。
- 機種によっては、機材から取得できない情報が存在します。取得できない情報は“---”と表示されます。
- ランプ出力を Hi/Low（高 / 低またはノーマル / エコ）に設定することができるプロジェクターの場合、ランプの使用時間は、Low（低）に設定して使用した時間を Hi（高）で使用した時間に換算した合計時間が表示されます。

機材情報を更新する

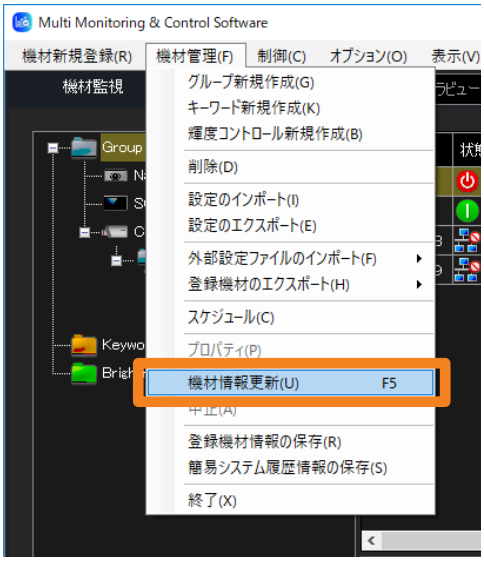
■自動で更新する

機材監視画面の情報は、情報更新間隔の設定（P.143）に従い自動的に更新されます。

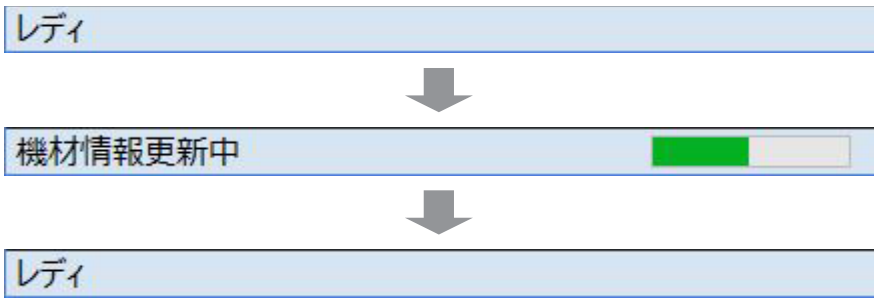
■手動で更新する

1 メニューから［機材管理］→［機材情報更新］を選択します。

- 以下の方法でも操作できます。
  - キーボードの［F5］キーを押します。

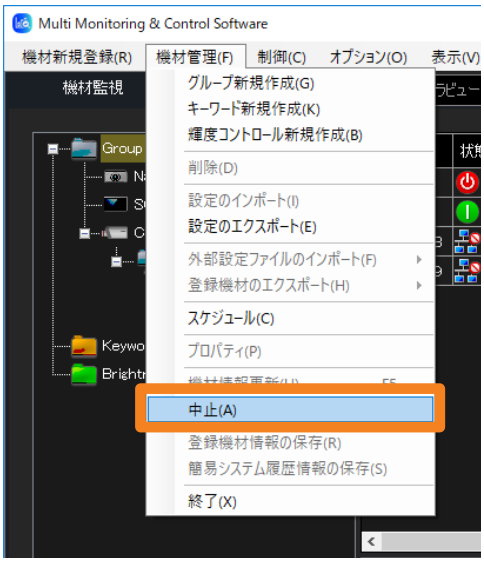


機材監視画面（P.22）のステータスバーの表示が［レディ］から［機材情報更新中］に変わり、右側にプログレスバーが表示されたあと、再び［レディ］に戻った時点で最新の情報への更新が完了します。

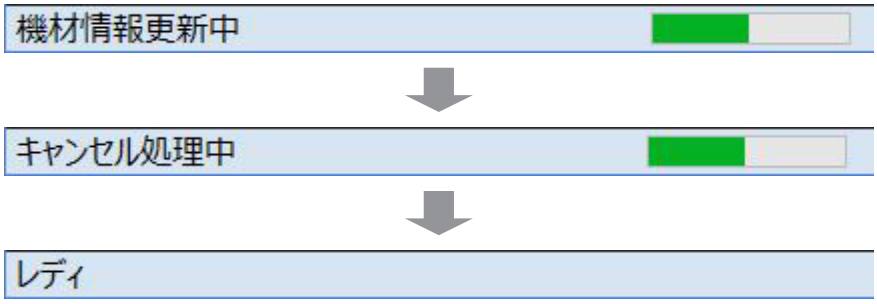


簡易情報の表示について

設定されている機材の台数が多くなると情報更新に要する時間が長くなります。情報更新を途中でキャンセルしたいときには、メニューから［機材管理］→［中止］を選択します。



このとき機材監視画面（P.22）のステータスバーが［機材情報更新中］から［キャンセル処理中］に変わります。キャンセル処理が完了すると［レディ］になります。



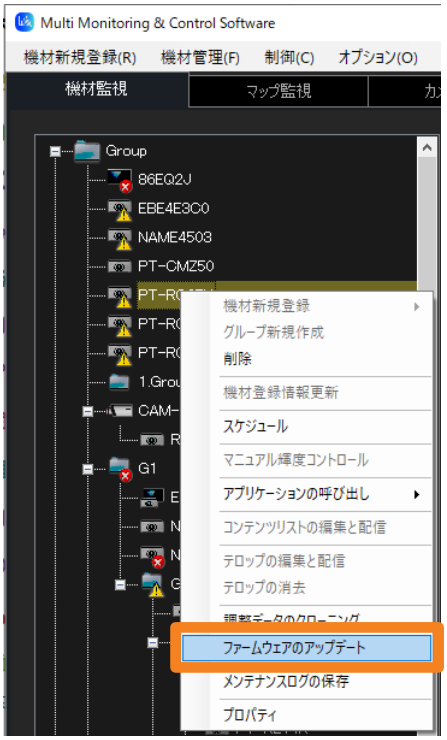
ファームウェアを複数台同時にアップデートする

登録された機材のファームウェアを、複数台同時にアップデートすることができます。

お知らせ

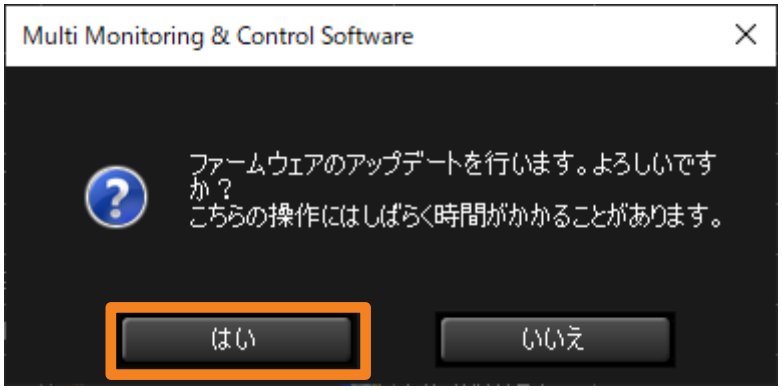
- 現在（2024 年 5 月時点）では、プロジェクターのみの対応となります。
- ご利用の機材が、ファームウェアの複数台同時アップデートに対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
- ファームウェアをアップデートする場合は、下記の WEB サイトから、アップデートしたい機材に対応したファームウェアアップデートツール（zip 形式の圧縮ファイル）をダウンロードしてください。ダウンロードした圧縮ファイルを解凍すると exe 形式の実行ファイルが生成されます。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector/pass

1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループを選び、右クリックで［ファームウェアのアップデート］を選択します。

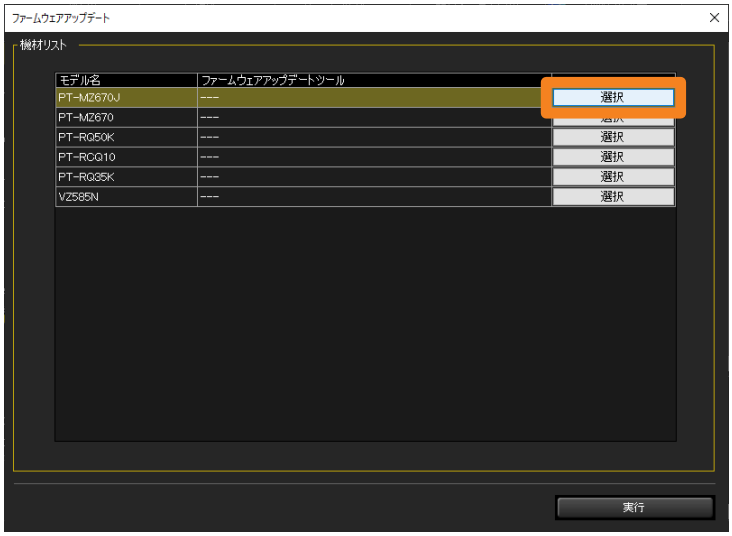


2 確認のメッセージが表示されたら［はい］をクリックします。

・［いいえ］を選ぶとファームウェアのアップデートを中断します。



3 機材リストが表示されたら、アップデートしたいモデルの［選択］をクリックします。



4 該当のファームウェアアップデートツール（exe 形式の実行ファイル）を選択し、［開く］をクリックします。

ファイル名：FirmUpdateTool_ モデル名 _ ファームウェアバージョン .exe

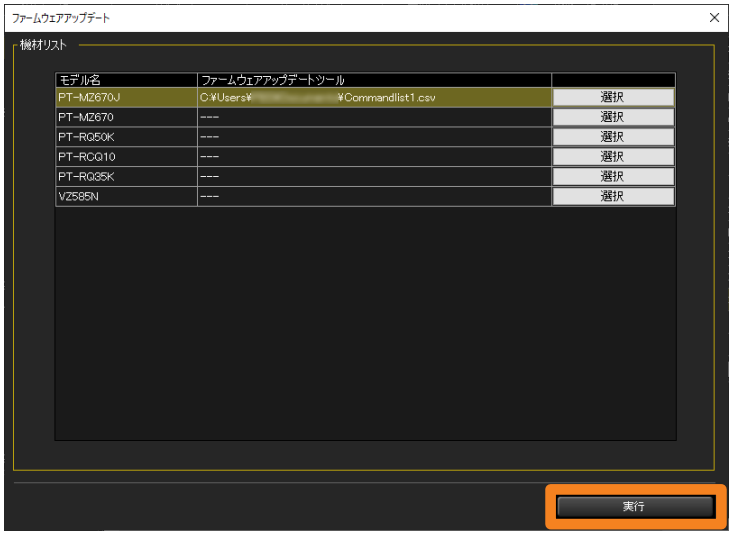
例）PT-RZ17K モデルの場合

FirmUpdateTool_RZ24K_102.exe

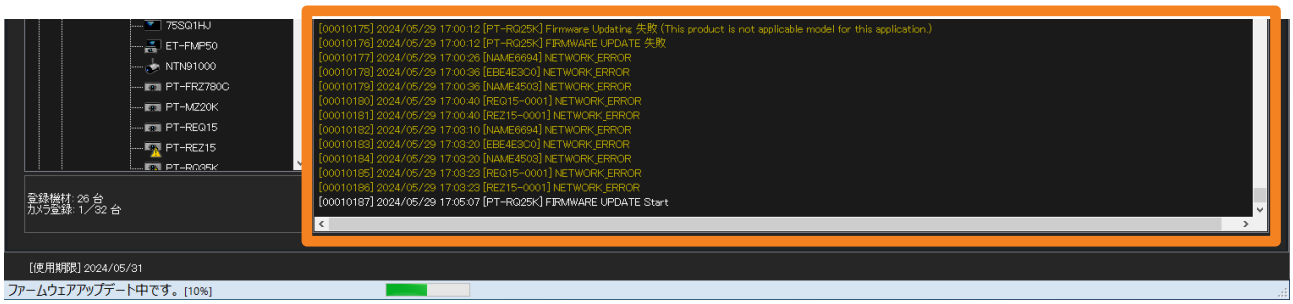
(バージョン 1.02 の PT-RZ24K/PT-RZ17K/PT-RZ14K 用アップデートツール)

簡易情報の表示について

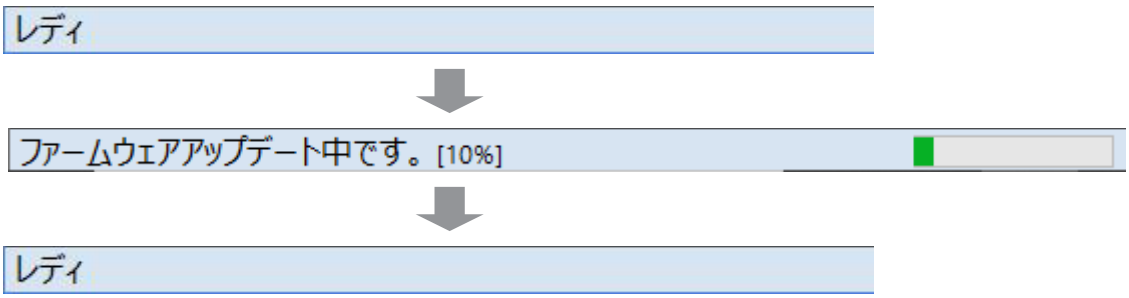
5 ［実行］をクリックします。



- ファームウェアのアップデート結果は機材監視画面のコマンド実行ログ表示部に表示されます。



機材監視画面（P.22）のステータスバーの表示が［レディ］から［ファームウェアアップデート中です。］に変わり、右側にプログレスバーが表示されたあと、再び［レディ］に戻った時点で機材のアップデートが完了します。



簡易情報の表示について

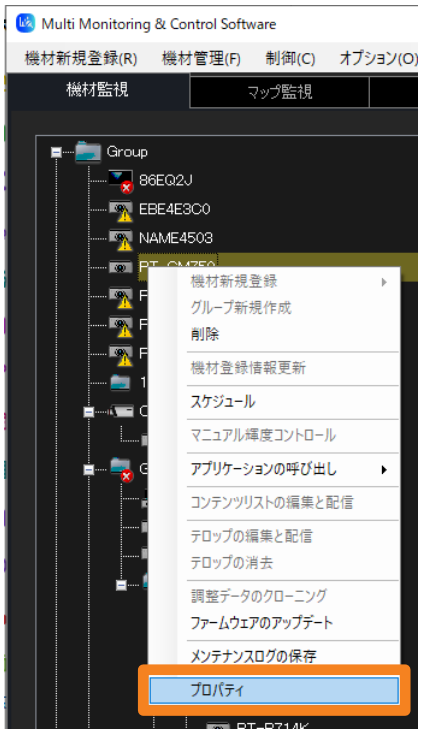
お知らせ

- アップデートの開始後、アップデートが完了するまで情報更新が停止されます。
- 複数台同時アップデートは、対象となっている機材に対して 100 台単位で実行されます。アップデートしたい機材が 100 台を超えている場合は、100 台ごとに複数回に分けてアップデート処理を行います。
- 機材のファームウェアがすでに最新バージョンになっている場合は、該当する機材のアップデート処理は行われず次の機材のアップデート処理へと進みます。
- アップデートしたい機材と異なるファームウェアアップデートツールを選択した場合は、アップデート処理は行われません。
- 複数台同時アップデートに対応していないモデルや異なるファームウェアアップデートツールを選択した場合は、該当モデルのアップデート処理は行われず、次のモデルのアップデート処理へと進みます。
  未処理のモデルがあると、すべての処理が完了した後［ファームウェアのアップデートに失敗しました。］のメッセージが表示されます。コマンド実行ログ表示部で［UPDATE 失敗］と表示された機材を確認してください。

詳細情報を表示する

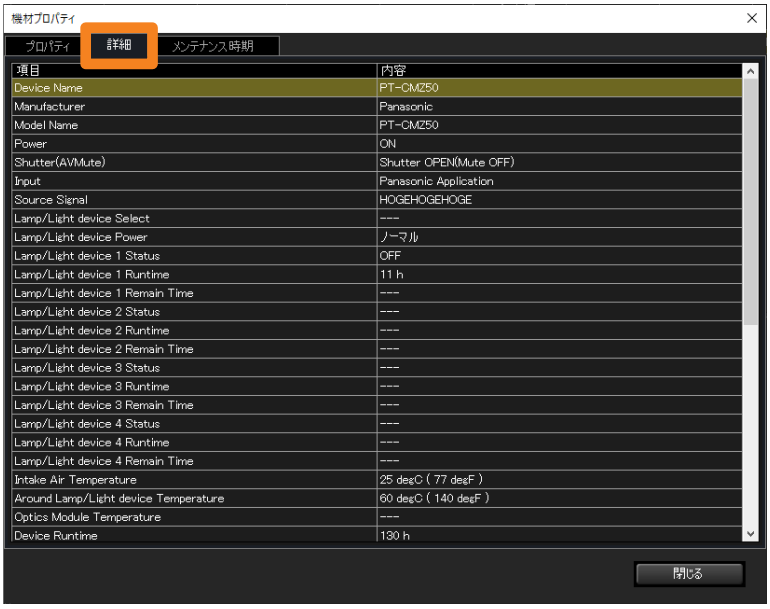
1 機材監視画面のツリー部から、詳細情報を表示したい機材を選び、右クリックで［プロパティ］を選択します。

- 以下の方法でも操作できます。
  - メニューから［機材管理］→［プロパティ］を選択します。
  - 簡易情報表示部に表示された機材を右クリックし、表示されるメニューから［プロパティ］を選択します。



2 ［詳細］タブを開き、詳細情報を確認します。

- ［閉じる］をクリックすると詳細情報表示を終了します。



詳細情報を表示する

表示される項目について

詳細情報表示で表示される項目は以下の表のとおりです。

項目	意味
Device Name	機材名
Manufacturer	メーカー名
Model Name	モデル名
Power	電源の状態
Shutter(AVMute)	シャッターの状態／AV ミュート
Input	入力端子
Source Signal	入力信号
Lamp/Light device Select	ランプ / 光源選択
Lamp/Light device Power	ランプ / 光源出力（光源パワー / 運用モード）
Lamp/Light device 1 Status	ランプ / 光源 1 点灯状態
Lamp/Light device 1 Runtime	ランプ / 光源 1 使用時間
Lamp/Light device 1 Remain Time	ランプ / 光源 1 残時間
Lamp/Light device 2 Status	ランプ / 光源 2 点灯状態
Lamp/Light device 2 Runtime	ランプ / 光源 2 使用時間
Lamp/Light device 2 Remain Time	ランプ / 光源 2 残時間
Lamp/Light device 3 Status	ランプ / 光源 3 点灯状態
Lamp/Light device 3 Runtime	ランプ / 光源 3 使用時間
Lamp/Light device 3 Remain Time	ランプ / 光源 3 残時間
Lamp/Light device 4 Status	ランプ / 光源 4 点灯状態
Lamp/Light device 4 Runtime	ランプ / 光源 4 使用時間
Lamp/Light device 4 Remain Time	ランプ / 光源 4 残時間
Intake Air Temperature	吸気温度
Around Lamp/Light device Temperature	ランプ / 光源周辺温度（排気温度）

項目	意味
Optics Module Temperature	光学モジュール温度
Device Runtime	機材使用時間
Main Version	メインマイコン ソフトウェアバージョン
Sub Version	サブマイコン ソフトウェアバージョン
Network Version	ネットワークマイコン ソフトウェアバージョン
Serial Number	シリアル番号
Self Test	自己診断結果
Fan Status(FP)	FAN の回転状態
H Clock	入力信号の水平周波数
V Clock	入力信号の垂直周波数
Power Save Setting(FP)	消費電力低減設定
Board Temperature(FP)	基板温度
Exhaust Temperature(FP)	排気温度
Intake Air Temperature(FP)	吸気温度
Panel Temperature(FP)	パネル温度
Light Device 1 Runtime	光源 1 使用時間
Light Device 2 Runtime	光源 2 使用時間
Light device Temperature 1	光源温度 1
Light device Temperature 2	光源温度 2
USB Memory Capacity	USB メモリーの容量
AC Voltage	AC 電圧
Geometry	幾何学歪補正の設定

お知らせ

- 詳細情報表示で表示する項目は、オプションの設定画面［詳細情報］（P.149）で変更することができます。
- 詳細情報表示で表示される各項目欄で、表示内容が表示領域に収まらない場合は、マウスポインターを該当の［項目］に重ねることで、その内容をツールチップで表示することができます。
- 詳細情報表示で、ランプ寿命の警告を検出した場合、問題があるランプの行に表示された残時間が黄色に変わります。また、ランプ寿命のエラーを検出したときは赤色に変わります。
- 接続する機材によっては表示できない項目があります。この場合、“---”と表示されます。
- ランプ出力を Hi/Low（高 / 低またはノーマル / エコ）に設定することができるプロジェクターの場合、ランプの使用時間は、Low（低）に設定して使用した時間を Hi（高）で使用した時間に換算した合計時間が表示されます。

ネットワークカメラの映像を表示する

登録したネットワークカメラの映像を画像として表示することができます。

お知らせ

- ネットワークカメラの登録について、詳しくは以下のページをご覧ください。
  - ネットワークカメラを登録する（P.38）
  - ネットワークカメラと機材をリンクさせる（P.40）

■リンクした機材を選んで表示する

準備：

- 簡易情報表示部に［カメラ］の項目を表示させる（P.149）

1 機材監視画面のツリー部から、（ネットワークカメラ）または ネットワークカメラとリンクした機材、グループのアイコンを選びます。

2 簡易情報表示部で をクリックします。

ネットワークカメラの画像が表示されます。

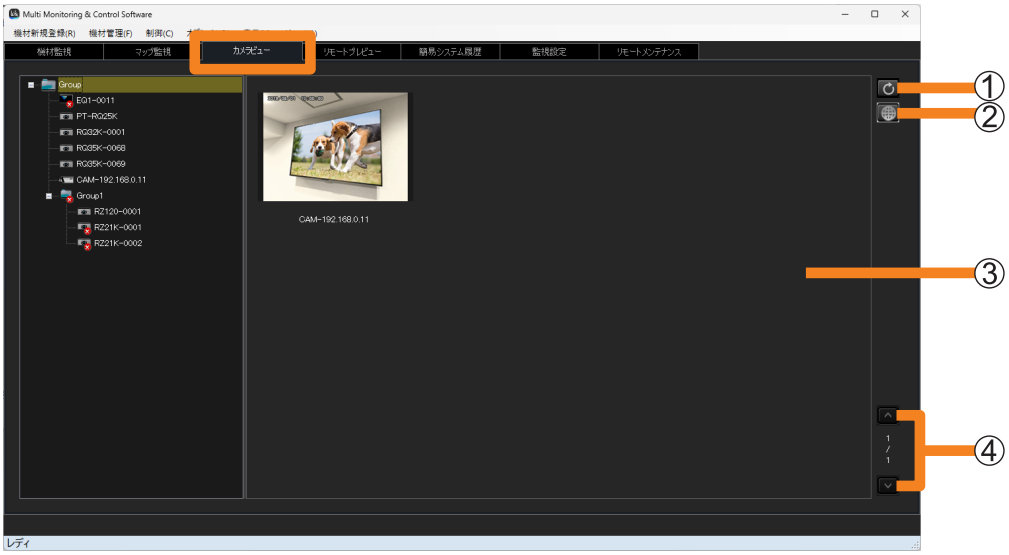
- ネットワークカメラと機材がリンクしていない場合は“--”と表示されます。
- 画像が取得できなかった場合は、［映像が取得できません。］のメッセージが表示されます。

ネットワークカメラの映像を表示する

■一括で表示する

1 機材監視画面で［カメラビュー］タブをクリックします。

・カメラ監視画面が表示されます。



① 更新ボタン

画像表示部が最新の状態に更新されます。（自動更新間隔：5 秒）

② カメラ設定ボタン

ネットワークカメラ本体の設定画面を表示することができます。

・ご使用環境によっては、ネットワークカメラの設定画面を表示するために、必要なプラグインソフトウェアのインストールを要求される場合があります。画面に従いプラグインソフトウェアをインストールしてください。

・プラグインソフトウェアがインストールできない場合は、お使いのコンピューターの WEB ブラウザーを使用して、ネットワークカメラの設定画面を表示してください。

③ 画像表示部

登録したすべてのネットワークカメラの画像が表示されます。

・ツリー部で選択されている機材の画像は、黄色の囲みで示されます。

・問題が発生した場合は［映像が取得できません。］のメッセージと以下のアイコンが表示されます。

- （エラー）：カメラがネットワークに接続されていません。
- （警告）：ネットワークに接続されている状態ですが、画像が取得できません。

④ ページ切り換えボタン／ページ数

表示部の画像が 1 ページで収まらない場合、をクリックしページを移動します。

機材に入力された映像を表示する

リモートプレビュー機能またはリモートプレビューライト機能に対応した機材に入力されている映像を画像として表示します。

お知らせ

- ご利用の機材が、リモートプレビュー機能またはリモートプレビューライト機能に対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software

■機材を選んで表示する

準備：

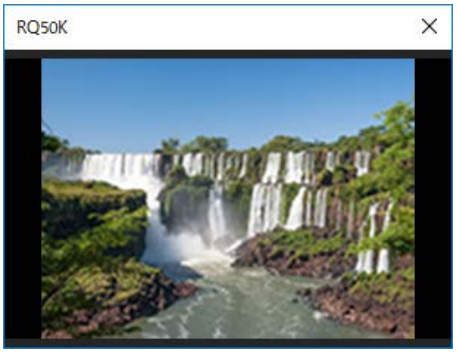
- 簡易情報表示部に［リモートプレビュー］の項目を表示させる（P.149）

1 機材監視画面のツリー部から、リモートプレビュー機能またはリモートプレビューライト機能に対応している機材アイコンを選びます。

2 簡易情報表示部で をクリックします。

機材に入力されている映像が画像として表示されます。

- リモートプレビュー機能またはリモートプレビューライト機能に対応していない機材は、“--” と表示されます。
- 画像が取得できなかった場合は、［映像が取得できません。］のメッセージが表示されます。

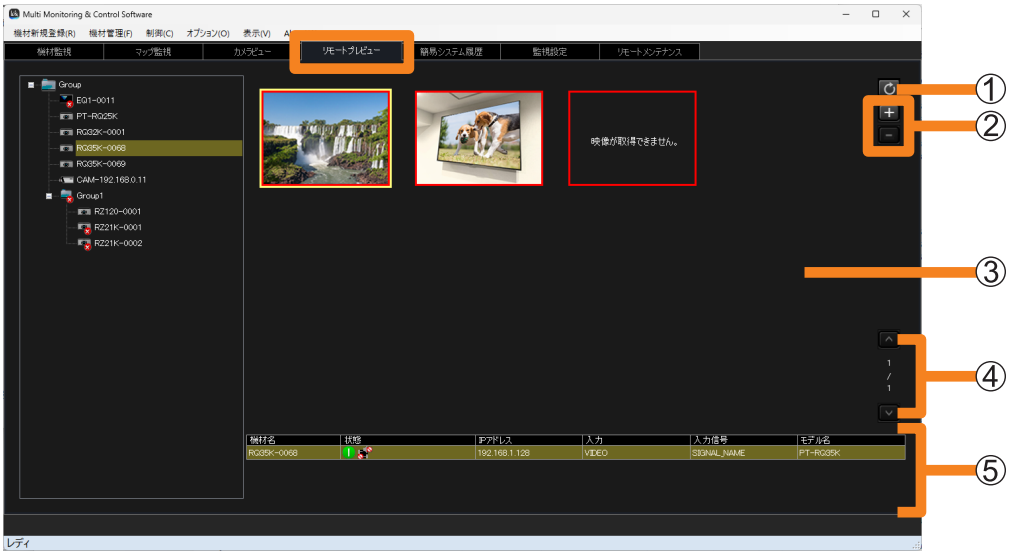


機材に入力された映像を表示する

■一括で表示する

1 機材監視画面で［リモートプレビュー］タブをクリックします。

・リモートプレビュー画面が表示されます。



① 更新ボタン

画像表示部が最新の状態に更新されます。

・機材の稼働状態により、画像が更新されない場合があります。しばらく（5 秒程）待ってから、もう一度更新ボタンをクリックしてください。

② 拡大／縮小ボタン

選択した画像（黄色の囲み）のサイズを５段階に拡大／縮小します。

・イメージサイズ幅は、200 × 150 から 400 × 300 の５段階で切り換えできます。
・マウスのスクロールで変更することもできます。

③ 画像表示部

機材に入力されている映像が画像として表示されます。

・ツリー部で選択されている機材の画像は、黄色の囲みで示されます。
・選択したサムネイルをドラッグすると、画像表示部内で移動（レイアウト変更）することができます。
・画像の他に以下のメッセージが表示されることがあります。
  - ［映像が取得できません。］：画像が取得できなかった場合
  - ［プレビューのアスペクト比は映像と異なっています。］：機材で画面モードなどの設定を変更した場合
  - ［テストパターン表示中］：機材でテストパターンが表示中の場合
  - ［起動中です。］：機材の電源が入り、起動中の場合
  - ［信号が入力されていません。］：機材に信号入力がされていない場合
  - ［著作権保護のため表示できません。］：機材でデジタル著作権管理で保護された映像が入力されている場合
  - ［機材本体が HTTPS 設定のため表示できません。］：機材で HTTPS 設定を有効にしている場合

機材に入力された映像を表示する

④ ページ切り換えボタン／ページ数

表示部の画像が 1 ページで収まらない場合、 ^ v をクリックしページを移動します。

⑤ 機材情報表示部

機材の状態および映像の入力情報が表示されます。

お知らせ

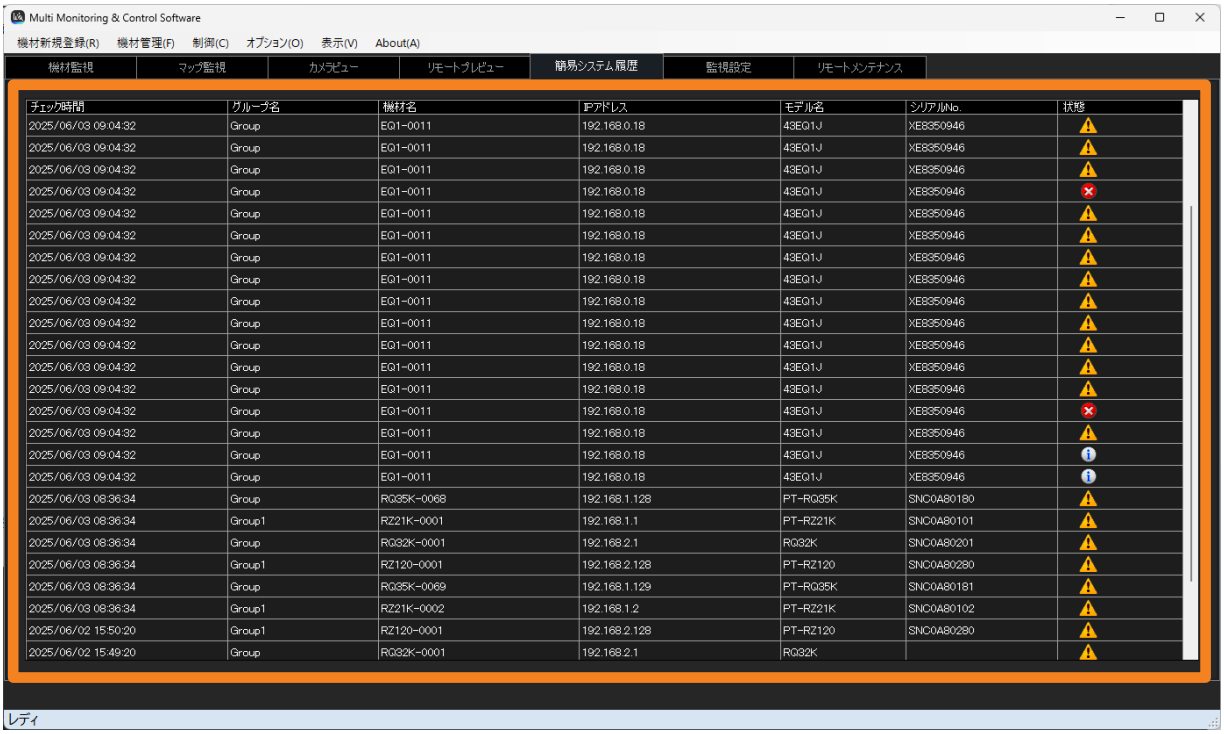
- 実際の画面上の表示が更新される間隔は、ネットワーク環境やコンピューターの性能、登録されている機材の台数などの影響を大きく受けます。
- 機材本体のメニューに「コマンドプロテクト」がある場合は、その設定を有効にしてご使用ください。設定を無効にしていると、リモートプレビュー画面の画像表示部に画像が表示されないことがあります。
  「コマンドプロテクト」メニューについては、使用している機材の取扱説明書を確認してください。

簡易システム履歴情報を表示する

1 ［簡易システム履歴］タブをクリックします。

システム履歴情報を一覧表形式で表示します。

・表示される情報は、メニューの［オプション］→［設定］→［一般］タブの［システム履歴の保存件数］に相当する件数分のシステム履歴です。（P.144）



チェック時間	グループ名	機材名	IPアドレス	モデル名	シリアルNo.	状態
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	✕
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	✕
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	⚠
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	ℹ
2025/06/03 09:04:32	Group	EQ1-0011	192.168.0.18	43EQ1J	XE8350946	ℹ
2025/06/03 08:36:34	Group	RQ35K-0068	192.168.1.128	PT-RQ35K	SNC0A80180	⚠
2025/06/03 08:36:34	Group1	RZ21K-0001	192.168.1.1	PT-RZ21K	SNC0A80101	⚠
2025/06/03 08:36:34	Group	RQ32K-0001	192.168.2.1	RQ32K	SNC0A80201	⚠
2025/06/03 08:36:34	Group1	RZ120-0001	192.168.2.128	PT-RZ120	SNC0A80280	⚠
2025/06/03 08:36:34	Group	RQ35K-0069	192.168.1.129	PT-RQ35K	SNC0A80181	⚠
2025/06/03 08:36:34	Group1	RZ21K-0002	192.168.1.2	PT-RZ21K	SNC0A80102	⚠
2025/06/02 15:50:20	Group1	RZ120-0001	192.168.2.128	PT-RZ120	SNC0A80280	⚠
2025/06/02 15:49:20	Group	RQ32K-0001	192.168.2.1	RQ32K		⚠

簡易システム履歴情報表示部

検出したシステム履歴情報について、以下の情報が表示されます。

［チェック時間］*	警告およびエラーを検出した日時が表示されます。
［グループ名］*	対象の機材の属しているグループ名が表示されます。（ツリー部のグループフォルダーが の場合は、ネットワークカメラ登録時に設定したカメラ名、または CAM-XXX（XXX：ネットワークカメラの IP アドレス）がグループ名として表示されます。）
［機材名］*	対象の機材名（またはホスト名）が表示されます。
［IP アドレス］*	機材の IP アドレスが表示されます。
［モデル名］*	機材のモデル名が表示されます。
［シリアル No.］*	機材のシリアル番号が表示されます。
［状態］	機材に発生している状態がアイコンで表示されます。 アイコンの内容については簡易情報表示（P.60）をご覧ください。
［詳細］	通知の内容が表示されます。

*：降順または昇順で表示することができます。

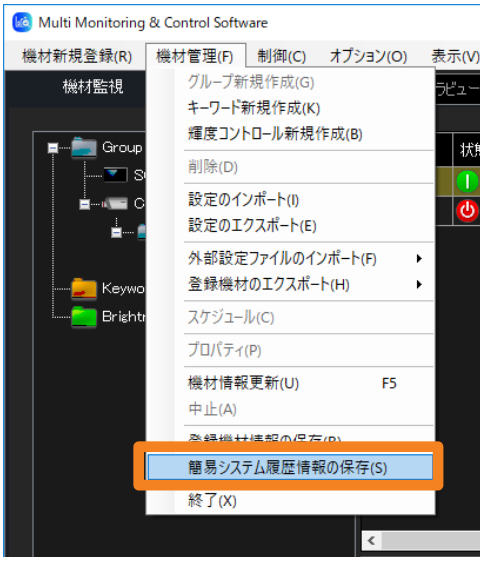
お知らせ

- 機材に発生している警告情報およびエラー情報は、［機材プロパティ］画面→［詳細］タブの［Self Test］の項目で確認できます。（P.72）
- フラットパネルディスプレイは、簡易システム履歴情報表示画面の［状態］に警告またはエラーのアイコンが表示されていても、［Self Test］の項目に警告情報およびエラー情報が表示されません。機材本体で確認してください。
- フラットパネルディスプレイの機種によっては、本体に警告またはエラーが発生している場合でも、簡易システム履歴情報表示画面の［状態］に表示されるアイコンが表示されないモデルがあります。
- 同時刻に複数のエラー警告が発生した場合、［状態］に同じアイコンが表示されることがあります。
- システム履歴情報の詳細を確認したい場合は、［機材管理］→［簡易システム履歴情報の保存］を選択し、ファイルを出力（P.80）して確認してください。

簡易システム履歴情報をファイル保存する

簡易システム履歴情報をファイルに出力する場合は次の手順で行います。

1 メニューから［機材管理］→［簡易システム履歴情報の保存］を選択します。



2 保存先とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

簡易システム履歴情報は CSV 形式で保存されます。テキストエディタや Microsoft Excel などで参照することが可能です。

簡易システム履歴情報を表示する

■保存データ例

簡易システム履歴情報ファイルは次のような記述になっています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
① 1	Multi Monitoring & Control Software									
② 2	Version	V*.**								
③ 3	Time	****/**/** 9:33:31								
4										
④ 5	Device Name	Manufacturer	Model Name	IP Address	Serial Number	Checked Time	Error Status	Self Diagnosis	Detail Infomation	Self Test
6	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 15:15:29	3	OK	映像停止検出のお知らせ	0
7	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 9:58:27	1	OK	機材LAN接続警告	0
8	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 9:58:27	1	OK	機材LAN接続警告	0
9	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 10:48:51	3	OK	映像停止検出のお知らせ	0
10	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 10:58:45	3	OK	映像停止検出のお知らせ	0
11	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 14:58:59	3	OK	映像停止検出のお知らせ	0
12	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 13:43:04	3	OK	映像停止検出のお知らせ	0
13	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 15:02:55	3	OK	映像停止検出のお知らせ	0
14	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	SERIALNUM	****/**/** 9:11:46	1	OK	機材LAN接続警告	0
15	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 9:11:46	1	OK	機材LAN接続警告	0
16	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 9:11:47	1	OK	機材LAN接続警告	0
17	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 10:09:24	1	OK	機材LAN接続警告	0
18	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 9:44:44	1	OK	機材LAN接続警告	0
19	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	SERIALNUM	****/**/** 9:44:44	1	OK	機材LAN接続警告	0
20	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 9:44:44	1	OK	機材LAN接続警告	0
21	49XF1HJ	Panasonic	49XF1HJ	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 15:11:49	1	OK	機材LAN接続警告	0
22	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	SERIALNUM	****/**/** 15:11:49	1	OK	機材LAN接続警告	0
23	PT-RQ22K	Panasonic	PT-RQ22K	***.***.***.***	012345ABC	****/**/** 15:11:49	1	OK	機材LAN接続警告	0
⑤ 24	[EOF]									

① ソフトウェア名

② バージョン

③ ファイル保存日時

④ 記述項目：機材名
メーカー名
モデル名
IP アドレス
シリアル No.
エラー発生を検出した日時
エラー情報（6 桁）
エラーの内容
エラーの詳細情報
自己診断情報（16 桁、32 桁、または 64 桁：機種によって異なります。）

⑤ ファイル終端表示

メンテナンスログを保存する

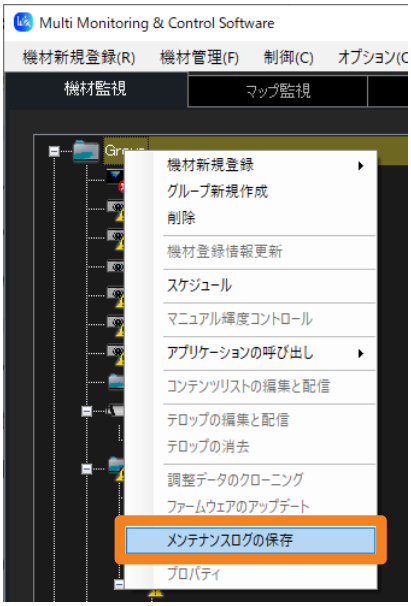
本ソフトウェアで監視・制御中の機材の動作状態を記録したログ情報を、ファイルとして保存できます。
不具合が発生した際に、このログファイルをサービスマンにお渡しいただくと、解析情報として活用できます。

お知らせ

- メンテナンスログ保存機能を使用できるプロジェクターが対象です。ご利用のプロジェクターが対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application

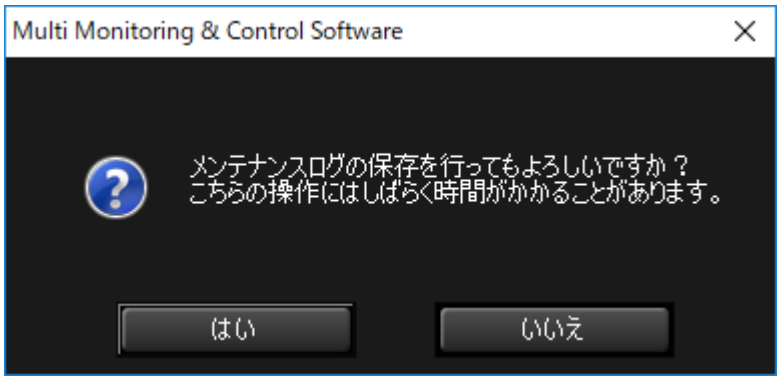
1 機材監視画面のツリー部から、ログを保存したい機材またはグループフォルダーを選び、右クリックで［メンテナンスログの保存］を選択します。

- 対象プロジェクターのすべてのログを一括で保存する場合は、親グループ（[Group] フォルダー）を選び、右クリックで［メンテナンスログの保存］を選択します。



2 確認メッセージが表示されます。メッセージの内容に従って操作してください。

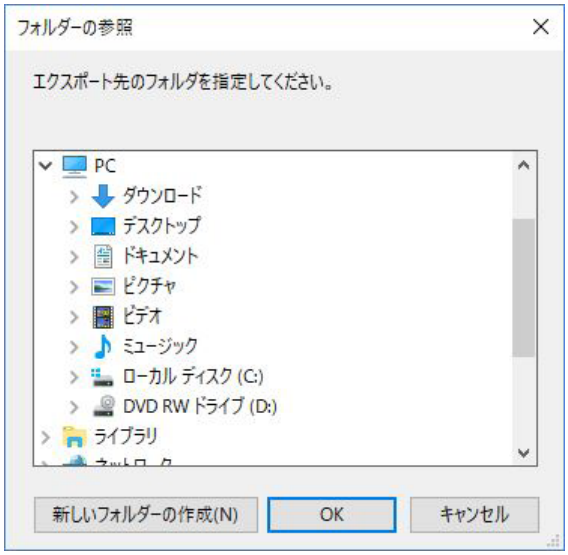
［はい］をクリックするとメンテナンスログの取得を開始します。
メンテナンスログの取得を取りやめる場合は［いいえ］をクリックします。



3 メンテナンスログを保存するフォルダーを選択し、［OK］をクリックします。

監視･制御している機材のメンテナンスログ（システムログ／光源ログ／輝度センサーログ）の取得を開始します。

- 新規フォルダーに保存する場合は、［新しいフォルダーの作成］をクリックして新規フォルダーを作成してください。



メンテナンスログは、機材によって次のいずれかの形式で保存されます。

保存形式	ログの種類	ファイル名
ログを個別に保存	システムログ	モデル名 _ シリアル No_System_log（拡張子なし）
	光源ログ	モデル名 _ シリアル No_Lamp_log（拡張子なし）
	輝度センサーログ	モデル名 _ シリアル No_BrightSensor_log（拡張子なし）
ログを一括で保存 *1	一括ログ	日時 _ 機材名 _ モデル名 _ シリアル No（拡張子：.log/.bin）

*1 一括ログには、システムログ、光源ログ、輝度センサーログがまとめて保存されています。

4 確認のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

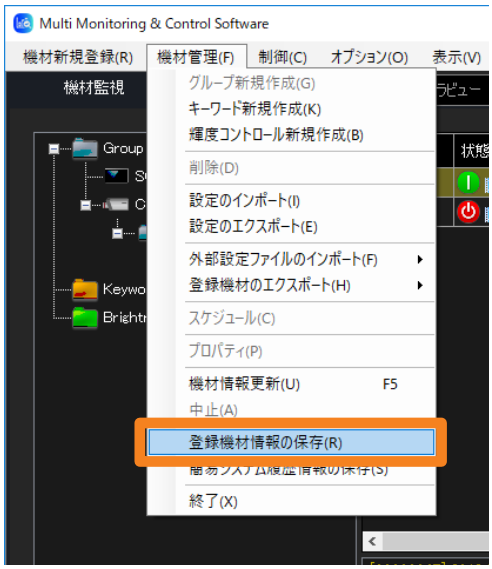
お知らせ

・メンテナンスログはバイナリ形式で保存されます。
・メンテナンスログの情報は、サービスマンのみ確認することができます。
・メンテナンスログは対応している機種のみ取得できます。

登録機材情報を保存する

登録したすべての機材情報を CSV ファイルに出力することができます。機材情報を出力する場合は次の手順で行います。

1 メニューから［機材管理］→［登録機材情報の保存］を選択します。



2 保存先とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。

登録した機材情報は、ファイルを保存した年月日時分秒のファイル名で自動生成されます。ファイル名を変更したい場合は任意のファイル名を入力してください。

- 登録された機材情報は CSV 形式で保存されます。テキストエディタや Microsoft Excel などで参照することが可能です。

3 保存成功のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

登録機材情報を保存する

■保存データ例

登録された機材情報の保存ファイルは次のような記述になっています。

	A	B	C	D	E	F	
① 1	Multi Monitoring & Control Software						
② 2	バージョン情報	V *****					
③ 3	保存日時	****/*/** 15:42:29					
4							
④ 5	機材名	グループ名	状態	カメラ	リモートプレビュー	ECO設定レベル	画像配信
6	Name1235	Group:CAM-A	電源オフ(スタンバイ):Audio+Videoミュートオフ	***.***.***.***	0	---	未配信もし
7	SQ1-000	Group:G2	電源オン:Audio+Videoミュートオフ	---	0	---	---
8	Name6212	Group:CAM-& ***.***.***.***	電源オフ(スタンバイ):Audio+Videoミュートオフ	***.***.***.***	0	---	未配信もし
9	NAME2747	Group:CAM-& ***.***.***.***	電源オン:Audio+Videoミュートオフ:	***.***.***.***	0	---	未配信もし
10	NAME7159	Group	電源オン:Audio+Videoミュートオフ	---	0	---	画像配信
11	49XF1HJ	Group	未接続	---	0	---	---
12	PT-RQ22K	Group	未接続	---	1	---	---
⑤ 13	[EOF]						

…

① **ソフトウェア名**

② **バージョン**

③ **ファイル保存日時**

④ **記述項目**：機材名

グループ名（ツリー部のグループフォルダーが の場合は、ネットワークカメラ登録時に設定したカメラ名、または CAM-XXX（XXX：ネットワークカメラの IP アドレス）がグループ名として表示されます。）

状態（現在の状態、エラー／警告情報）

カメラ

リモートプレビュー

ECO 設定レベル（数値で表示）

IP アドレス

ランプ（ランプ 1 ～ランプ 4）/ 光源使用時間

Closed Caption

入力

入力信号

モデル名

無線設定

吸気温度

光学モジュール温度

排気温度

OSD メニュー設定

AC 電圧

シリアル No.

幾何学歪補正

基板温度（FP）

排気温度（FP）

吸気温度（FP）

パネル温度（FP）

⑤ **ファイル終端表示**

登録機材情報を保存する

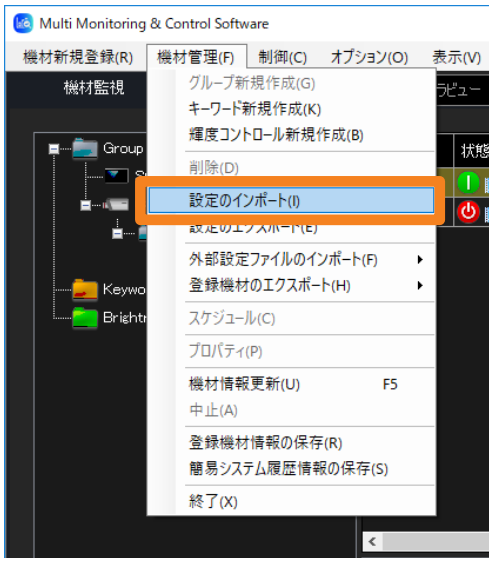
お知らせ

- 表示される記述項目の内容は、簡易情報表示部に現在表示されている項目のみです。
  簡易情報表示部で表示させる項目や表示順序を変更するには、P.149 をご覧ください。
- 未対応または情報を取得できない場合は“---”表示になります。

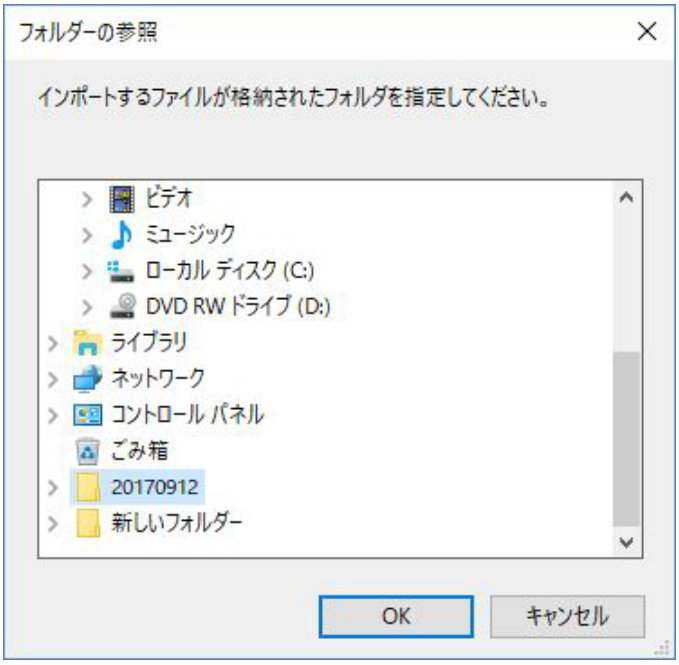
機材の登録情報をインポートする

本ソフトウェアを用いて作成されたエクスポートデータをインポートすることができます。
この機能は、本ソフトウェアがインストールされた別のコンピューターから設定情報を移行するときに便利です。
・インポートを実行できるのは、管理者権限のあるユーザーのみです。

1 メニューから［機材管理］→［設定のインポート］を選択します。



2 インポートするファイルが格納されたフォルダーを選択し、［OK］をクリックします。



3 インポート実行の確認メッセージが表示されます。メッセージの内容に従って操作してください。

［はい］をクリックするとインポートを実行します。

4 インポート成功のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

- ソフトウェアが自動で再起動を行い、機材、グループ、キーワード、輝度コントロール、スケジュール、ユーザー選択によるマップイメージなど、インポートしたコンピューターの各種設定情報が更新されます。

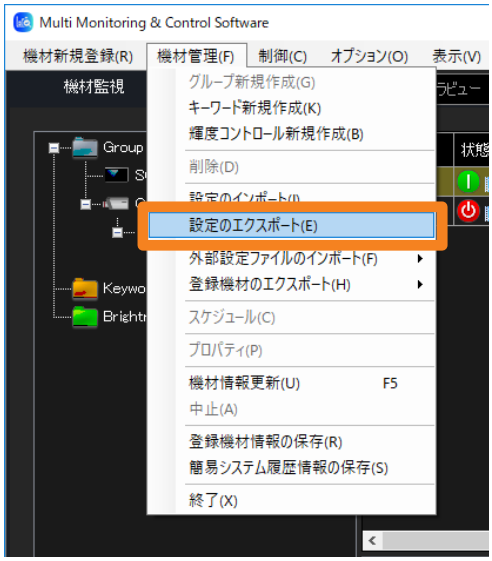
お知らせ

- 機材、グループ、キーワード、輝度コントロール、スケジュール、ユーザー選択によるマップイメージ、設定情報以外の項目はインポートされません。
- 複数台プロジェクター監視制御ソフトウェアの Ver 1.* で作成されたエクスポートデータも、本ソフトウェア（複数台監視制御ソフトウェア）にインポートすることができます。
- インポートされるデータは、監視制御機能で使用するデータのみです。

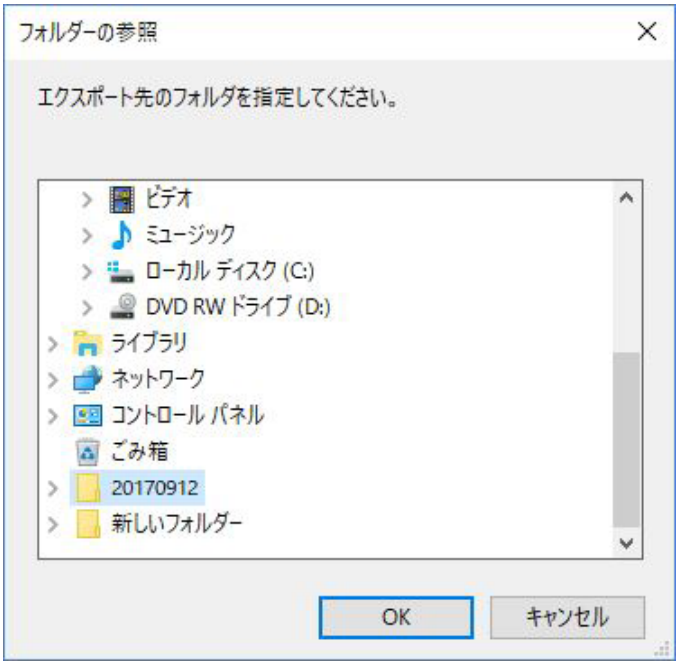
機材設定情報をエクスポートする

本ソフトウェアに設定されている機材、グループ、キーワード、輝度コントロール、スケジュール、設定情報をファイルへエクスポート（出力）することができます。
この機能は、別のコンピューターに設定情報を移行するときに便利です。

1 メニューから［機材管理］→［設定のエクスポート］を選択します。



2 エクスポート先を選択し、［OK］をクリックします。



3 マップイメージもエクスポートするかの確認メッセージが表示されます。メッセージの内容に従って操作してください。

［はい］をクリックすると各グループに登録されたマップイメージをローカルにコピーしてエクスポートします。

4 エクスポート成功のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

年月日時分秒のフォルダー名でエクスポート指定先にフォルダーが生成され、その中にエクスポートデータが作成されます。

例）2017 年 1 月 13 日 19 時 56 分 48 秒にエクスポートを実施した場合のデータ名：
20170113195648

お知らせ

- 本機能では、機材、グループ、キーワード、輝度コントロール、スケジュール、設定情報、ユーザー選択によるマップイメージ以外の項目は、エクスポートされません。
- 本ソフトウェア（複数台監視制御ソフトウェア）で作成したエクスポートデータを、複数台プロジェクター監視制御ソフトウェアの Ver 2.0、Ver 2.5、Ver 2.6、Ver 2.7、Ver 2.8、Ver 2.9、Ver 3.0、Ver 3.1 および、複数台監視制御ソフトウェア Ver 1.0 にインポートしないでください。ソフトウェアが動作しなくなるおそれがあります。

制御コマンドを実行する

機材単体またはグループ、キーワード、輝度コントロールごとに、機材を操作することができます。

お願い

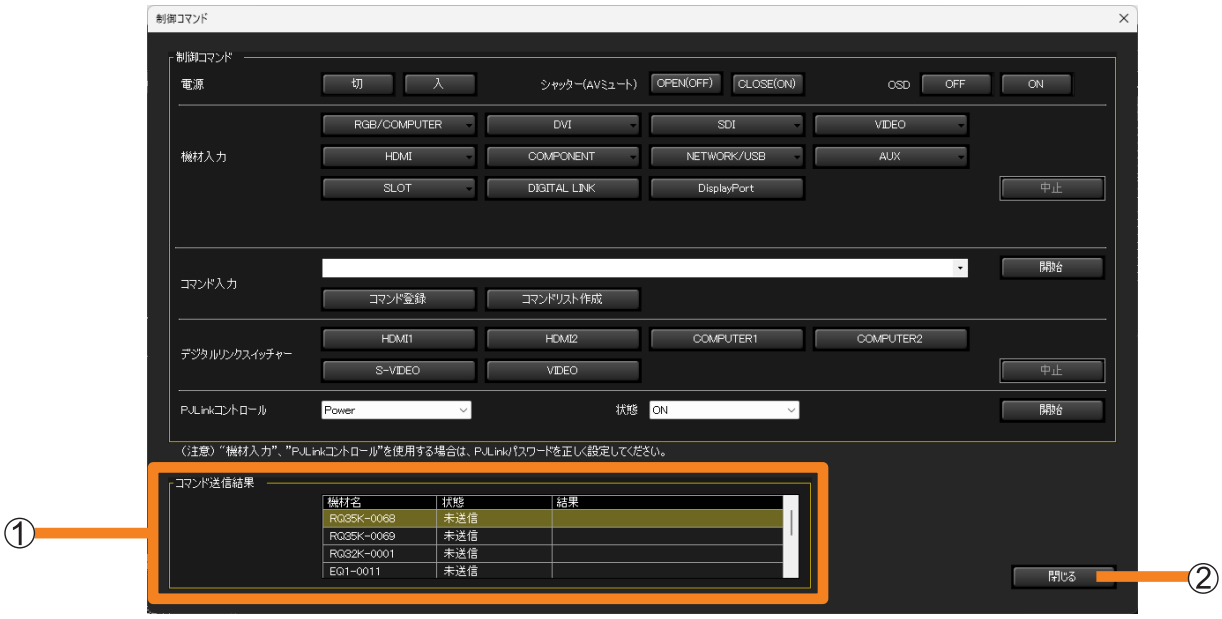
- プロジェクターの電源を入れる操作をする際は、プロジェクター周辺の人の目に突然光源からの光が入ることがないよう注意してください。

1 機材監視画面のツリー部から、制御コマンドを実行したい機材、グループ、キーワード、または輝度コントロールのアイコンを選びます。

2 メニューから［制御］→［制御コマンド］を選択します。

3 実行するコマンドを選び、クリックします。

- コマンド操作を繰り返すことで、繰り返し制御コマンドを実行することができます。
- 制御コマンドの実行結果は、［コマンド送信結果］（①）と「コマンド実行ログ表示部」（P.22）に表示されます。無効な制御コマンドを実行した場合や、タイムアウトした場合は、［失敗］と表示されます。



[電源]	**使用コマンド：PJLink コマンド *2** 電源切／入を制御します。
[シャッター（AV ミュート)]	**使用コマンド：PJLink コマンド *2** シャッターの開／閉または AV ミュートのオフ／オンを制御します。
[OSD]	**使用コマンド：独自コマンド** プロジェクターの OSD 情報の表示／非表示を制御します。
[機材入力]	**使用コマンド：PJLink コマンド** 入力端子をクリックして選択します。（[▼] がある項目は、マウスポインターを重ねると選択肢が表示されます。） ・[機材入力] にある項目以外の操作は、[PJLink コントロール] と [状態] を組み合わせて行います。
[コマンド入力]*1	**使用コマンド：独自コマンド** コマンドを入力し [開始] をクリックします。入力したコマンド内容で機材を制御します。（登録済みのコマンドはプルダウンから選択することができます。） **[コマンド登録]**：よく使うコマンドを登録します。（P.94） **[コマンドリスト作成]**：リストを作成して、簡単なシーケンス制御を行うことができます。（P.95） ・ソフトウェア起動後、機材情報の更新をせずにコマンドの [開始] はできません。機材情報の更新を行ってから、コマンドの [開始] を実行してください。（P.92） ・デジタルインターフェースボックスおよびデジタルリンクスイッチャーの入力切り換えには、対応していません。
[デジタルリンクスイッチャー]	**使用コマンド：独自コマンド** デジタルリンクスイッチャーの入力切り換えを選択します。
[PJLink コントロール] ／ [状態]	**使用コマンド：PJLink コマンド *2** [PJLink コントロール] と [状態] の組み合わせにて、実行する操作を選びます。 ・組み合わせ内容については、P.98 をご覧ください。

*1 [コマンド入力] を行えるのは、「コマンド送信機能」に対応した機材に限られます。
*2 PJLink に対応したパナソニック製ディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）であれば、該当の制御コマンド項目の操作ができます。

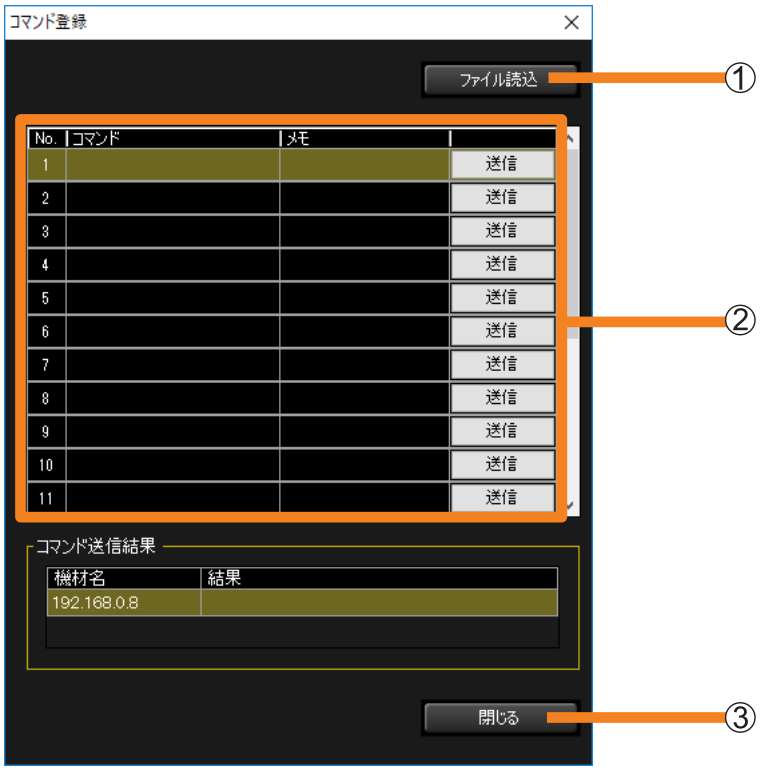
4 [閉じる]（②）をクリックして制御コマンド画面を終了します。

■コマンドを登録・送信する（最大 20 個）

1 ［コマンド入力］の［コマンド登録］をクリックします。

2 登録したいコマンドを入力します。

・［ファイル読込］（①）からコマンド情報（CSV 形式）を読み込む（P.97）と、読み込んだコマンドをプルダウンから選択することができます。



② **［コマンド］**：コマンドを直接入力するか、読み込んだコマンドをプルダウンから選択します。

［メモ］：　必要に応じて入力してください。（最大：半角 128 文字（全角 64 文字））

［送信］：　入力したコマンドを機材に送信します。

3 ［閉じる］（③）をクリックして終了します。

入力したコマンドが登録されます。

・登録したコマンドは［制御コマンド］画面でコマンド入力時にプルダウンから選択できます。

お知らせ

・ソフトウェア起動後、機材情報の更新をせずにコマンドの送信はできません。機材情報の更新を行ってから、コマンドの送信を実行してください。

■コマンドリストを作成・送信する（最大 100 個）

1 ［コマンド入力］の［コマンドリスト作成］をクリックします。

2 ［行追加］（①）で入力行を追加し、コマンドを入力します。

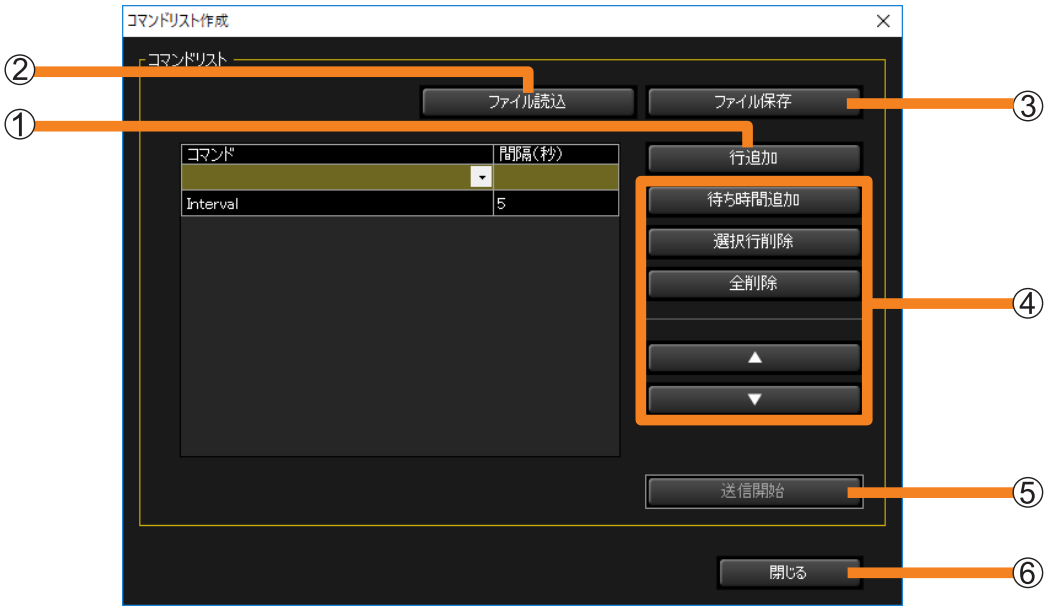
- お使いのコンピューターにインストールされているアプリケーションの実行ファイル名を入力すると、アプリケーションを起動することができます。（起動に失敗したときは何も表示されません。）

❶ @（アットマーク）の後、" "（ダブルクォーテーション）で囲み実行ファイルのフルパスを入力します。

❷ パラメーターが必要な場合は、❶の後、半角スペースを入力し、" "（ダブルクォーテーション）で囲み、パラメーターを追加します。
- パラメーターがファイルの場合は、フルパスで指定してください。

例）@"C:\Program Files\TEST\test.exe" "/P" "/B"
❶ ❷

- ［ファイル読込］（②）からコマンドリスト（CSV 形式）を読み込む（P.97）と、読み込んだコマンドをプルダウンから選択することができます。



④ **［待ち時間追加］**：Interval コマンド（待ち時間）が 1 行追加されます。Interval コマンドの前後の実行間隔を 0 ～ 999 秒の間で設定できます。

［選択行削除］：　選択中のコマンドを削除します。

［全削除］：　リスト上のすべてのコマンドを削除します。

［▲］/［▼］：　選択中のコマンドの順序を変更します。

3 [送信開始]（⑤）をクリックします。

コマンドリストの上から順に、対象機種にコマンドを送信します。

・[送信開始] をクリックせずに終了すると、作成したコマンドリストは削除されます。作成したコマンドリストを残したい場合は、[ファイル保存]（③）をクリックすると、CSV 形式で任意のフォルダーに保存できます。

4 [閉じる]（⑥）をクリックして終了します。

お知らせ

・ソフトウェア起動後、機材情報の更新をせずにコマンドの送信はできません。機材情報の更新を行ってから、コマンドの送信を実行してください。
・コマンドの入力やリストの読み込みは、スケジュール作成画面（P.108）からも行えます。スケジュール作成画面で作成したコマンドは、スケジュールに追加され、設定した日時に実行されます。

■コマンド情報を作成する

［コマンド登録］で読み込むコマンド情報は、以下の条件で作成してください。

- ファイル形式：CSV
- 文字コード：EUC / UTF-8 / Shift_JIS
- 読み込み可能なコマンド数は、最大 20 個です。
- コマンド情報の作成は 1 行 1 コマンドで、末尾に「,」をつけて改行してください。
- メモを付与する場合は末尾に「,」は入力しないでください。

例）電源を入れる
　　電源を切る

PON,電源オン［改行］
POF,［改行］

■コマンドリストを作成する

［コマンドリスト作成］で読み込むコマンドリストは、以下の条件で作成してください。

- ファイル形式：CSV
- 読み込み可能なコマンド数は、最大 100 個です。
- コマンド情報の作成は 1 行 1 コマンドで、末尾に「,」をつけて改行してください。
- コマンドごとの間隔を設定したい場合は、間隔を設定したいコマンドとコマンドの間に、間隔コマンド（"Interval,XX"（XX：待ち時間を 0 ～ 999 秒の範囲で入力））を追加してください。

例）電源を入れ、20 秒後に電源を切る

PON,［改行］
Interval,20［改行］
POF,［改行］

■[PJLink コントロール] と [状態] の組み合わせ

[PJLink コントロール]	[状態]	組み合わせ結果
[Power]	[OFF]	電源 切
	[ON]	電源 入
[Input RGB]	[1]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “11” に対応する RGB 入力への切り換え
	[2]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “12” に対応する RGB 入力への切り換え
	[3]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “13” に対応する RGB 入力への切り換え
	[4]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “14” に対応する RGB 入力への切り換え
	[5]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “15” に対応する RGB 入力への切り換え
	[6]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “16” に対応する RGB 入力への切り換え
	[7]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “17” に対応する RGB 入力への切り換え
	[8]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “18” に対応する RGB 入力への切り換え
	[9]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “19” に対応する RGB 入力への切り換え
	[A] ~ [Z]	PJLink 2 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “1A” ～ “1Z” に対応する RGB 入力への切り換え
[Input VIDEO]	[1]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “21” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[2]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “22” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[3]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “23” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[4]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “24” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[5]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “25” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[6]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “26” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[7]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “27” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[8]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “28” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[9]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “29” に対応する VIDEO 入力への切り換え
	[A] ~ [Z]	PJLink 2 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “2A” ～ “2Z” に対応する VIDEO 入力への切り換え

制御コマンドを実行する

[PJLink コントロール]	[状態]	組み合わせ結果
[Input DIGITAL]	[1]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “31” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[2]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “32” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[3]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “33” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[4]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “34” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[5]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “35” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[6]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “36” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[7]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “37” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[8]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “38” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[9]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “39” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
	[A] ~ [Z]	PJLink 2 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “3A” ～ “3Z” に対応する DIGITAL 入力への切り換え
[Input STORAGE]	[1]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “41” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[2]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “42” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[3]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “43” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[4]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “44” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[5]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “45” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[6]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “46” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[7]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “47” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[8]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “48” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[9]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “49” に対応する STORAGE 入力への切り換え
	[A] ~ [Z]	PJLink 2 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “4A” ～ “4Z” に対応する STORAGE 入力への切り換え

制御コマンドを実行する

[PJLink コントロール]	[状態]	組み合わせ結果
[Input NETWORK]	[1]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “51” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[2]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “52” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[3]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “53” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[4]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “54” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[5]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “55” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[6]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “56” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[7]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “57” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[8]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “58” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[9]	PJLink 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “59” に対応する NETWORK 入力への切り換え
	[A] ～ [Z]	PJLink 2 入力切り換えコマンド INPT のパラメーター “5A” ～ “5Z” に対応する NETWORK 入力への切り換え
[AVMute VIDEO]*	[ON]	AV ミュート（映像のみ）オン／シャッター閉
	[OFF]	AV ミュート（映像のみ）オフ／シャッター開
[AVMute AUDIO]*	[ON]	AV ミュート（音声のみ）オン
	[OFF]	AV ミュート（音声のみ）オフ
[AVMute VIDEO + AUDIO]	[ON]	AV ミュート（映像／音声とも）オン／シャッター閉
	[OFF]	AV ミュート（映像／音声とも）オフ／シャッター開

*パナソニック製の機材では、現在サポートされておりません。

お知らせ

- 機材ごとの対応機能については、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software
- それぞれの機能や機材側での操作については、機材または周辺機器の取扱説明書をご覧ください。
- 機種によって存在しない入力の入力切り換えコマンドを送信した場合は、［コマンド送信結果］と機材監視画面のコマンド実行ログ表示部に、「未対応」と表示されます。
- TH-D3500 は［機材入力］には対応していません。
- デジタルインターフェースボックスの入力切り換えは、DIGITAL LINK 対応の機材にデジタルインターフェースボックスが接続されているときのみ実行することができます。
- デジタルリンクスイッチャーの入力切り換えは、DIGITAL LINK 対応の機材にデジタルリンクスイッチャーが接続されているときのみ実行することができます。
- DIGITAL LINK に対応していない機材に対して、デジタルインターフェースボックスまたはデジタルリンクスイッチャー切り換えコマンドを送信した場合は、［コマンド送信結果］と機材監視画面のコマンド実行ログ表示部に、「未対応」と表示されます。

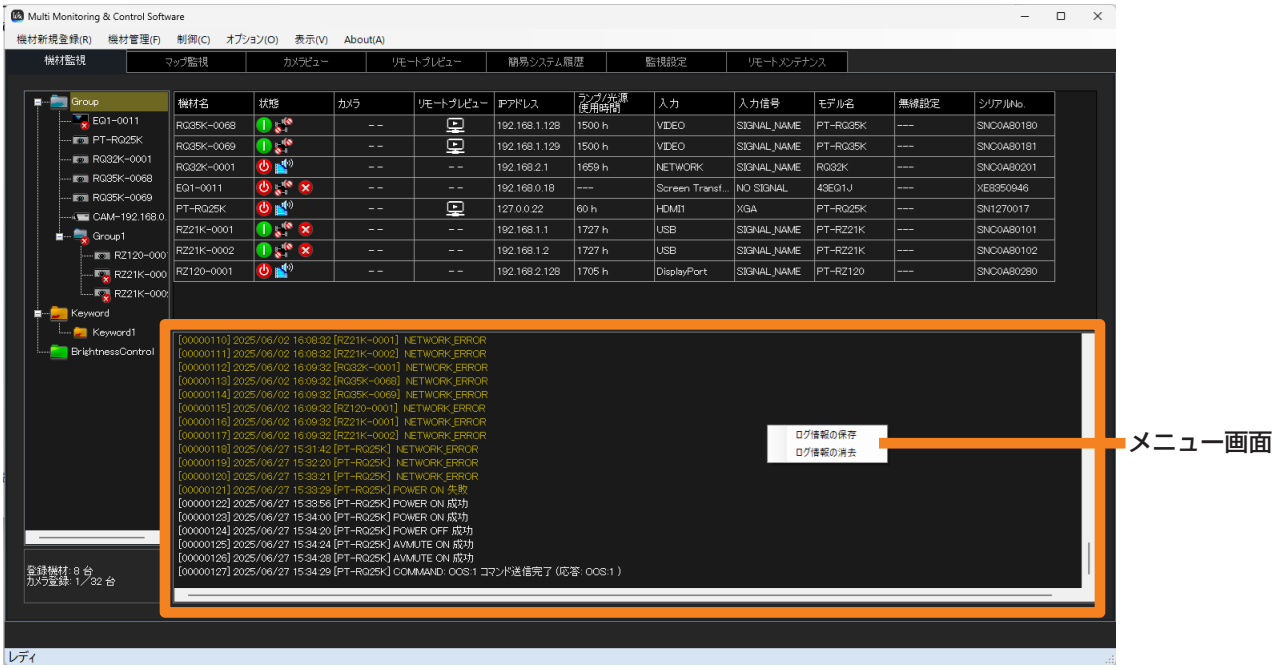
ログを保存・消去する

ログ表示部に表示されたログ情報の保存と消去を行うことができます。

お知らせ

・ログは最大 10 000 件保存します。10 000 件を超えた場合は、古いログから削除されます。

1 機材監視画面のコマンド実行ログ表示部上で右クリックし、メニュー画面を表示します。



2 ログ情報の保存、または消去を選択します。

[ログ情報の保存]： 所定フォルダーに CSV 形式のファイルで保存されます。
[ログ情報の消去]： ログ表示部に表示されたログ情報が消去されます。

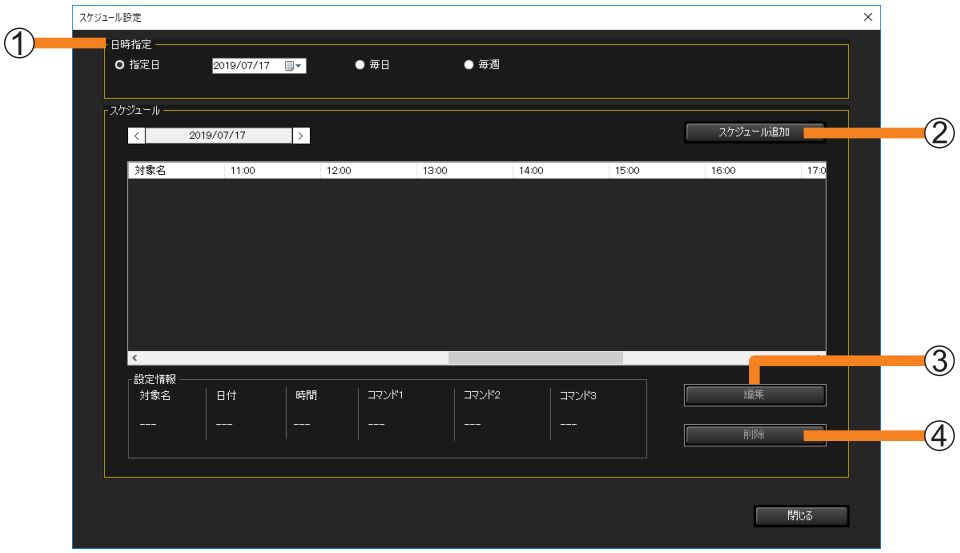
スケジュール機能を使用する

1 機材監視画面のツリー部から、スケジュールを設定する機材、グループ、機材を登録したキーワード、または機材を登録した輝度コントロールグループのアイコンを選び、右クリックで［スケジュール］を選択します。

・以下の方法でも操作できます。
　- メニューから［機材管理］→［スケジュール］を選択します。

2 スケジュール設定画面で、以下の操作を選びます。

① **[日時指定]**：　日時指定を選択することで、すでにスケジュールされている内容が確認できます。
② **[スケジュール追加]**：スケジュールを新規作成します。（P.103 手順 **3** へ）
③ **[編集]**：　選択したスケジュールを編集します。（P.103 手順 **3** へ）
④ **[削除]**：　選択したスケジュールを削除します。（P.103 手順 **4** へ）



3 日時、実行したい制御機能、操作を行う順番を選び、[OK]（⑤）をクリックします。

・以下は［スケジュール追加］選択時の画面です。［編集］からでも、設定項目は同じです。

[日時設定]	［指定日］／［毎日］／［毎週］（毎曜日）を選択したあと、［時間］を設定してください。（作成日時以前の時間指定はできません。）
[制御設定]	次のいずれかの項目を選び、実行内容を設定してください。 ・［操作設定］（P.105） ・［コマンド設定］（P.106） ・［コマンドリスト設定］（P.108） ・［テロップ配信］（P.110） ・［テロップの消去］（P.110） ・［輝度コントロール］（P.118） ・［コンテンツリスト配信］（P.121）

4 手順 2 の画面に戻り、［閉じる］をクリックします。

・スケジュール設定が完了すると、機材監視画面のツリー部に ⏲ が表示されます。設定したスケジュールを削除すると、⏲ の表示は消えます。

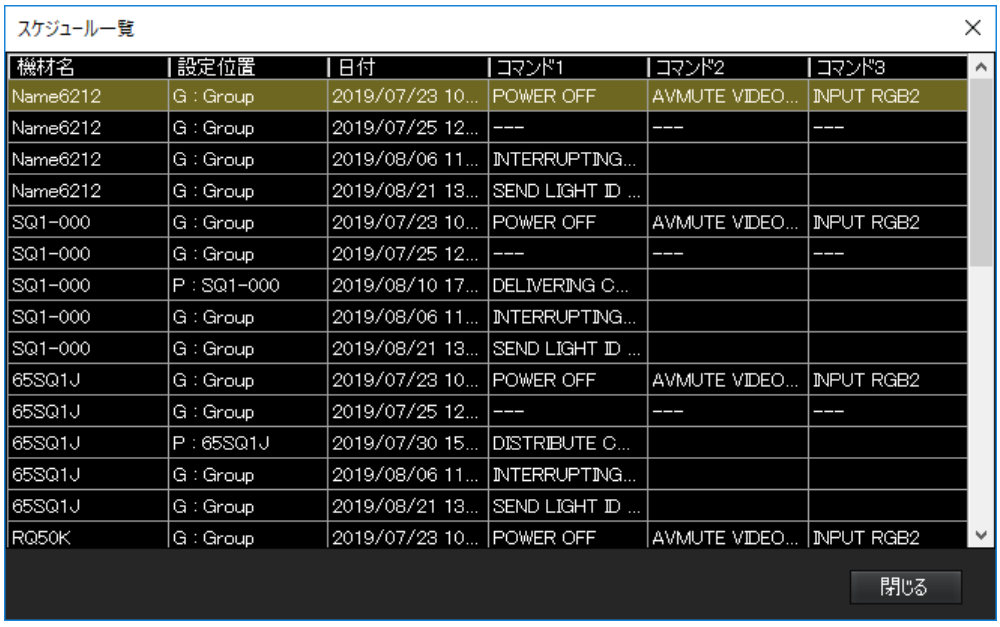
お知らせ

・スケジュール設定でプロジェクターの電源を入れる場合は、開始時にプロジェクターの光源からの光が周辺の人の目に直接入らない設置環境にある場合にのみ、設定を行うようにしてください。
・設定できるスケジュールは、100 件までです。
・使用している機材がそれぞれの制御機能に対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software

スケジュールの内容を確認する

設定したスケジュールを一覧で確認できます。

1 メニューから［オプション］→［スケジュール一覧］を選択します。



- 特定の機材に対して重複するスケジュールが存在する場合、それらの行全体が赤色で表示されます。スケジュールが重複（同一の機材に対して複数の制御設定を同じ開始時刻に指定）していると、その機材の動作は保証されません。スケジュールが重複した場合は、「スケジュール機能を使用する」手順 **2** で［編集］／［削除］のいずれかを選び、スケジュールを変更してください。（P.102）
- スケジュール一覧画面は、各機材に対して設定されているスケジュールを一覧表示します。一度に表示可能なスケジュールの数は機材 100 台分の予約までです。100 台を超えると、画面の下部にページを切り換えるためのボタンと、現在のページと総ページ数の情報が表示されます。

送信するコマンドを選択して制御する（[操作設定]）

■[スケジュール] で日時を指定して設定する

1 機材監視画面のツリー部から機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［スケジュール］を選択します。（P.102）

2 スケジュール設定画面で、［スケジュール追加］または［編集］をクリックします。

3 日時を指定し、［操作設定］を選びます。

・［指定日］／［毎日］／［毎週］（操作したい曜日）を選択したあと、［時間］を設定します。

4 制御を行う項目にチェックを入れて、設定内容を選択します。

[電源]	電源切／入を制御します。
[シャッター（AV ミュート）]	シャッターの開／閉または AV ミュートのオフ／オンを制御します。 ・AUDIO、VIDEO を個別に制御する場合は、プルダウンメニューの左側で、［VIDEO］／［AUDIO］／［VIDEO+AUDIO］のいずれかを選択し、右側で選択した内容の［ON］／［OFF］を選びます。
[入力]	**[機材入力]**：機材の入力切り換えを選択します。（[▼] がある項目は、マウスポインターを重ねると選択肢が表示されます。） **[デジタルリンクスイッチャー]**：デジタルインターフェースボックスまたはデジタルリンクスイッチャーの入力切り換えを選択します。 ・入力端子をクリックして選択します。 ・個別に制御したい場合は、［PJLink コントロール］と［状態］の組み合わせにて、実行する操作を選びます。 **[PJLink コントロール]** ／ **[状態]**：［PJLink コントロール］と［状態］の組み合わせにて、実行する操作を選びます。 ・組み合わせ内容については、P.98 をご覧ください。

5 ［順番］で、操作を行う順序を設定し、［OK］をクリックします。

設定した内容がスケジュールに追加されます。

コマンドを入力して設定する（[コマンド設定]）

使用している機材によって設定できるコマンドや、コマンド受付不可期間が異なります。詳細については、使用している機材の取扱説明書を確認してください。

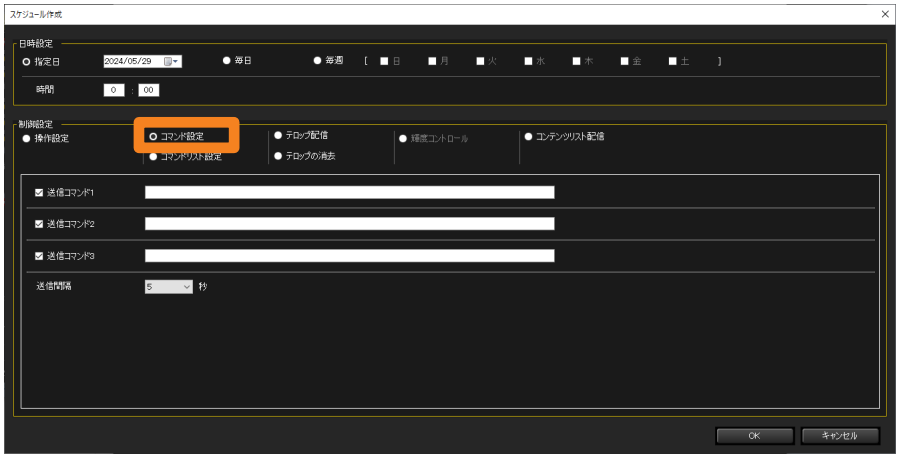
■[スケジュール] で日時を指定して設定する

1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［スケジュール］を選択します。（P.102）

2 スケジュール設定画面で、［スケジュール追加］または［編集］をクリックします。

3 日時を指定し、［コマンド設定］を選びます。

・［指定日］／［毎日］／［毎週］（操作したい曜日）を選択したあと、［時間］を設定します。



4 送信するコマンドを［送信コマンド］欄に入力します。

使用できる文字は半角のアルファベット（大文字 / 小文字）、数字、記号です。入力できる文字数は最大で 256 文字です。

・お使いのコンピューターにインストールされているアプリケーションの実行ファイル名を入力すると、アプリケーションを起動することができます。（起動に失敗したときは何も表示されません。）

❶［送信コマンド 1］に、@（アットマーク）の後、" "（ダブルクォーテーション）で囲み実行ファイルのフルパスを入力します。

❷ パラメーターが必要な場合は［送信コマンド2］、［送信コマンド3］に、@（アットマーク）の後、" "（ダブルクォーテーション）で囲み入力します。

例）［送信コマンド 1］：@” C:\Program Files***\test.exe”（実行ファイル）
［送信コマンド2］：@” /P”（パラメーター）
［送信コマンド3］：@ “C:\Document***\text.txt”（パラメーターがファイルの場合）

5 送信するコマンドにチェックを入れます。（デフォルトはすべてチェックが入った状態です。）

チェックボックスにチェックがあるコマンドを上から順に送信します。

6 [送信間隔] で、コマンドの送信間隔を設定します。

複数のコマンド（最大 3 つのコマンドが送信可能）の送信間隔を [5 秒]、[10 秒]、[15 秒]、[30 秒] から選択します。（デフォルト設定値：5 秒）

・[送信間隔] で秒数を選択しても、手順 **4** で実行ファイルの呼び出しコマンドを入力している場合は無効になります。

7 [OK] をクリックします。

設定した内容がスケジュールに追加されます。

コマンドリストを設定する（[コマンドリスト設定]）

作成したコマンドリスト（P.97）をスケジュールに登録することができます。

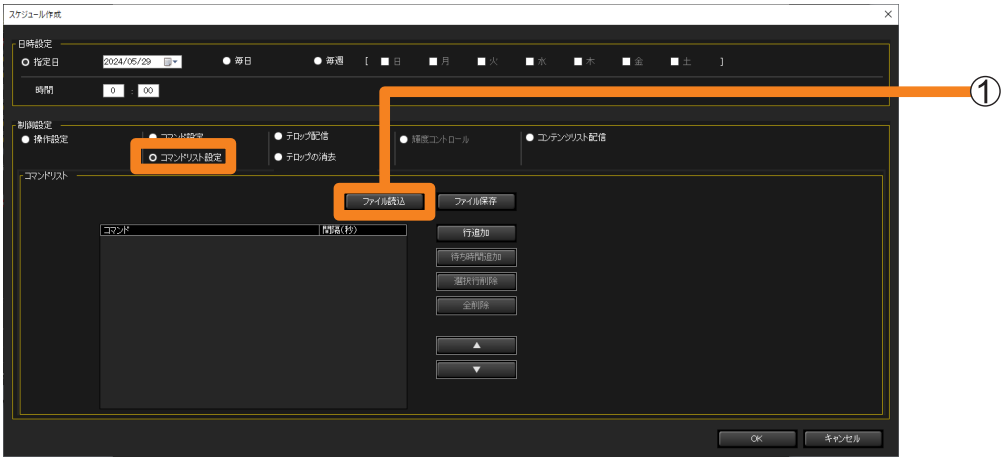
■[スケジュール] で日時を指定して設定する

1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［スケジュール］を選択します。（P.102）

2 スケジュール設定画面で、［スケジュール追加］または［編集］をクリックします。

3 日時を指定し、［コマンドリスト設定］を選びます。

・［指定日］／［毎日］／［毎週］（操作したい曜日）を選択したあと、［時間］を設定します。

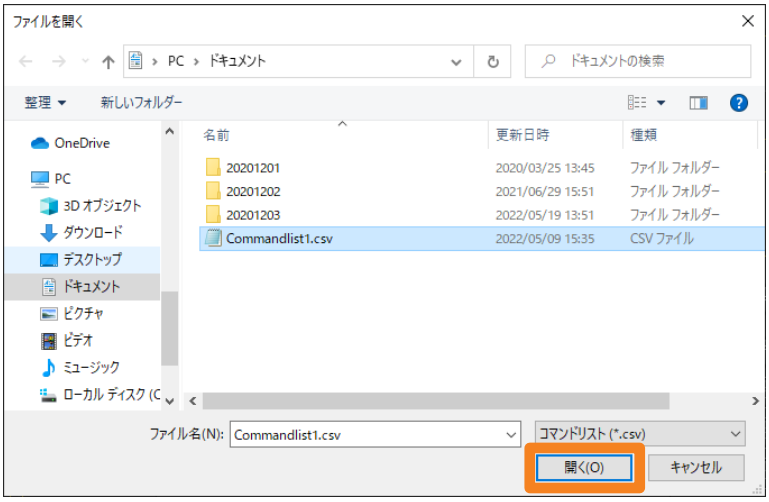


4 ［ファイル読込］（①）をクリックします。

・スケジュールに登録するコマンドリスト（CSV 形式）を読み込みます。（最大 100 リスト）

5 読み込みたいコマンドリストを選択し、［開く］をクリックします。

読み込み成功のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックしてください。

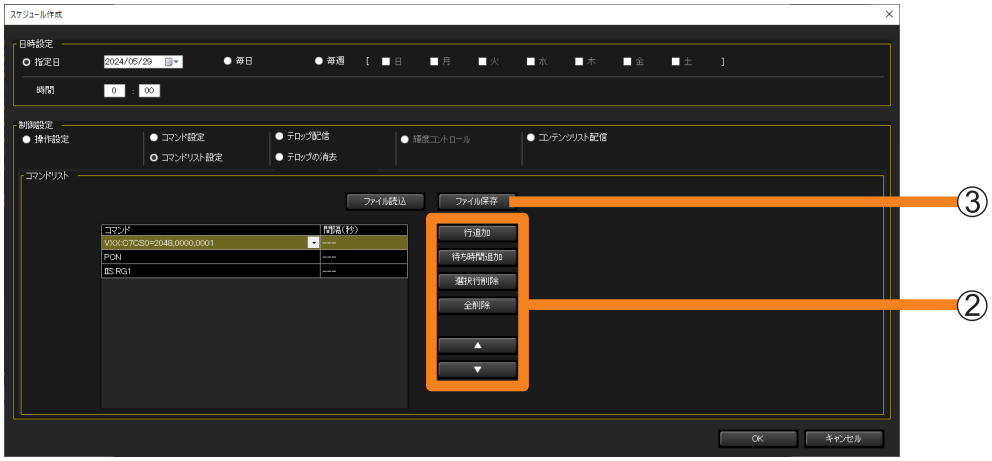


コマンドリストを設定する（[コマンドリスト設定]）

6 読み込んだコマンドリストから登録したいコマンドをプルダウンから選択します。

- 読み込んだコマンドの間隔調整や削除もできます（②）。

[行追加]： コマンド入力の行を追加できます。
[待ち時間追加]： Interval コマンド（待ち時間）が 1 行追加されます。
Interval コマンドの前後の実行間隔を 0 ～ 999 秒の間で設定できます。
[選択行削除]： 選択中のコマンドを削除します。
[全削除]： リスト上のすべてのコマンドを削除します。
[▲] / [▼]： 選択中のコマンドの順序を変更します。



7 [OK] をクリックします。

- 設定したコマンドリストがスケジュールに追加されます。
- [OK] をクリックせずに [キャンセル] をクリックすると、設定したコマンドリストが削除されます。設定したコマンドリストを残したい場合は、[ファイル保存]（③）をクリックすると、CSV 形式で任意のフォルダーに保存できます。

テロップを配信／停止する（[テロップ配信] ／ [テロップの消去]）

[テロップ配信]： テロップ再生機能を搭載したフラットパネルディスプレイに対して、ディスプレイ上の指定した位置に任意のテロップを配信できます。（P.114）

[テロップの消去]： 配信したテロップを削除します。（P.116）

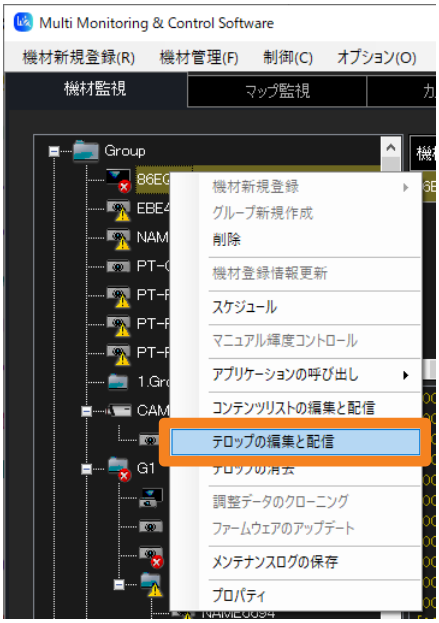
お知らせ

- ご利用の機材がテロップ再生機能に対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software
- お使いの機材の種類によっては、機材本体のメニューで [無信号自動オフ] の設定を有効にしていると、[テロップ配信] または [テロップの消去] を実行した時点から、[無信号自動オフ] に設定された時間が経過すると、配信された画像データが表示中であっても、機材の電源が切れてしまいます。本機能を使用する場合は、機材本体のメニューで [無信号自動オフ] の設定を無効にしてください。
- 文字フォントを指定した画像配信をスケジュール設定し、他のコンピューターにその機材設定情報をエクスポートしたとき、エクスポート先のコンピューターにそのフォントが存在しない場合は、OS のデフォルトフォントに変更されて表示されます。なお、デフォルトのフォントは OS・言語により異なります。
- 指定した文字フォントを使用してテロップ配信の設定状態をプレビュー表示します。プレビュー表示は動作確認の目安ですので、実際の機材で表示されるテロップ表示と異なる場合があります。

テロップリストを作成および編集する

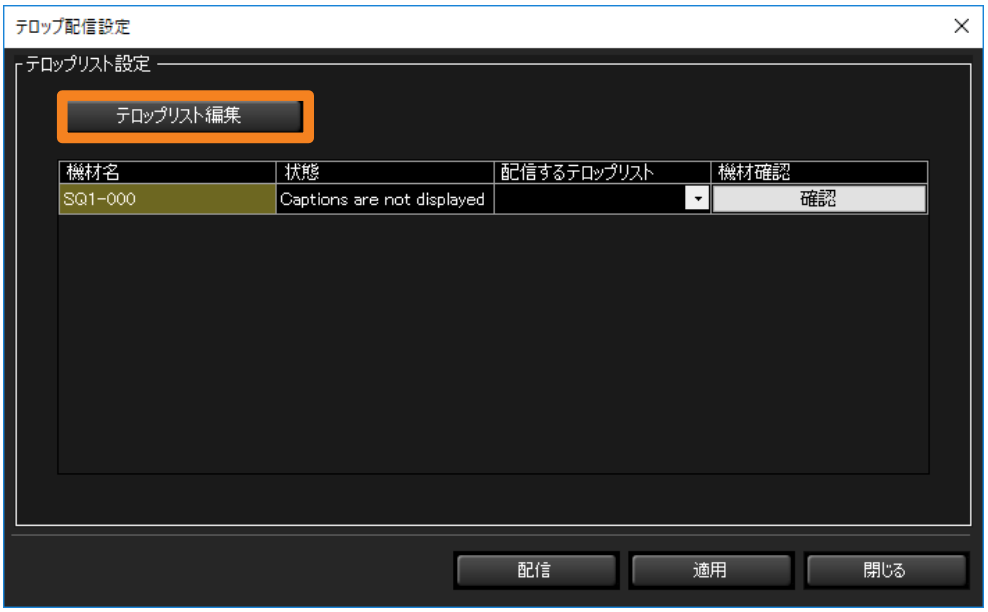
1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで [テロップの編集と配信] を選択します。

- 以下の方法でも操作できます。
  - P.102 手順 **1**、**2** でスケジュール設定画面を表示し、[スケジュール追加] または [編集] → [制御設定] の [テロップ配信] にチェックを入れます。



テロップを配信／停止する（[テロップ配信] ／ [テロップの消去]）

2 [テロップリスト編集] をクリックします。

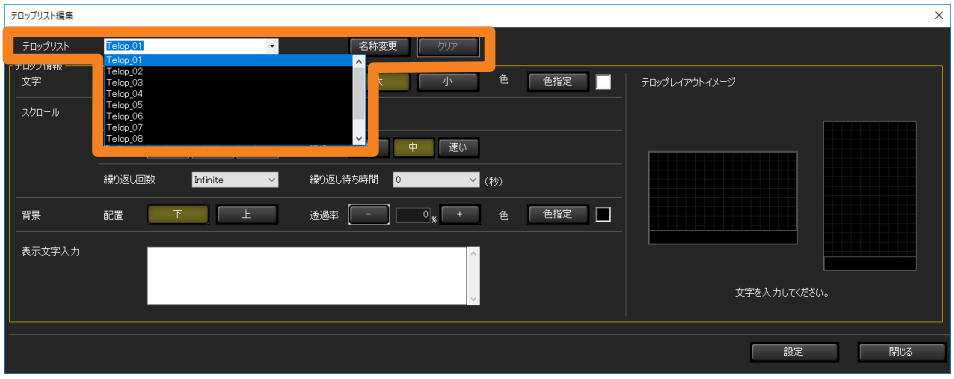


3 作成・編集するテロップを [テロップリスト] から選択します。

[テロップリスト]：新規作成する場合は、作成していない（または不要になった）リストを選びます。編集する場合は、編集したいリスト名を選びます。

[名称変更]：選んだリスト名を直接書き換えてからクリックすると、変更したリスト名が確定されます。入力できる文字数は英数文字（32 文字以内）です。

[クリア]：リスト名がデフォルトの状態に戻り、設定した [テロップ情報] の内容は破棄されます。



4 [表示文字入力]（①）に配信するテロップを入力します。

最大 512 文字を入力することができます。

5 [背景]（②）で、テロップの表示位置について設定します。

[配置]： 表示する位置を選択します。
[透過率]：背景色の透過率を設定します。
[色]： カラーパレットから背景色を選択します。

6 [スクロール]（③）の [表示] でテロップをスクロールさせるかどうか選びます。

・スクロールさせる場合は［する］をクリックし、以下の項目を設定します。

[配置]： 文字列を揃える位置を選択します。
[速度]： テロップがスクロールする速度を 3 段階から選択します。
[繰り返し回数]： テロップを何回繰り返して配信するかを設定します。
［Infinite］を選ぶと、配信中繰り返しし続けます。
[繰り返し待ち時間]：テロップとテロップの配信間隔を設定します。

7 [文字]（④）で文字スタイルを設定します。

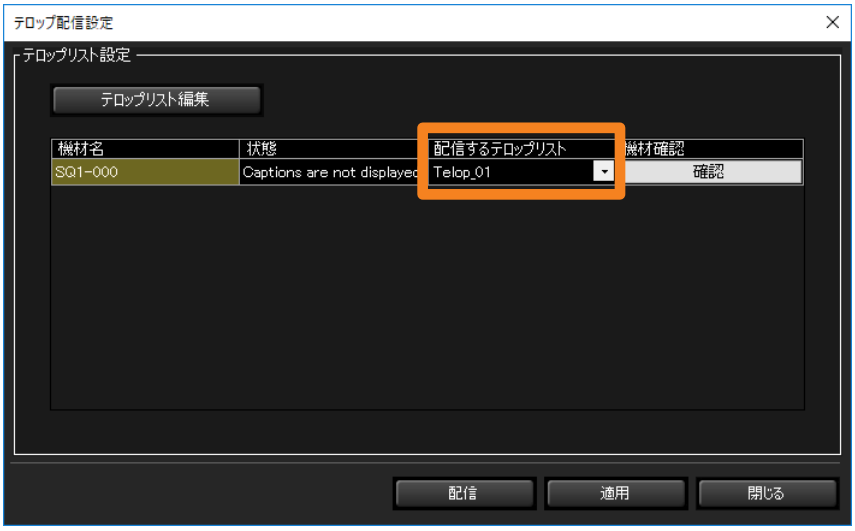
[フォント]：文字のフォントを設定します。
・ご使用のコンピューターに保存されているフォントのみ、選択することができます。
・プレビュー表示はイメージのため、実際に機材で表示されるテロップのフォントと異なる場合があります。

[サイズ]： 文字サイズを設定します。
[色]： カラーパレットから文字の色を選択します。

8 [設定]（⑤）をクリックします。

設定が完了し、作成したリストが［配信するテロップリスト］に表示されます。

- リストごとに［設定］クリックしてください。［設定］を押さずにリスト名を変更すると、［テロップ情報］で設定した内容は破棄されます。
- ［閉じる］（⑥）をクリックすると、設定した内容は破棄され、設定画面が閉じます。



テロップリストを配信する

お知らせ

- 配信時にネットワークに接続されていない機材に対しては、テロップリストは配信されません。
- テロップリストの配信が行われると、[機材リスト設定] で設定した内容が自動で保存されます。
  次回テロップリスト配信画面を起動したときに、自動で保存した設定内容が表示されます。
- 配信中に、機材本体の電源を切ったり、本体との接続が切れたりした場合は配信が失敗します。
  本体との接続状態を確認し、再度配信を実行してください。

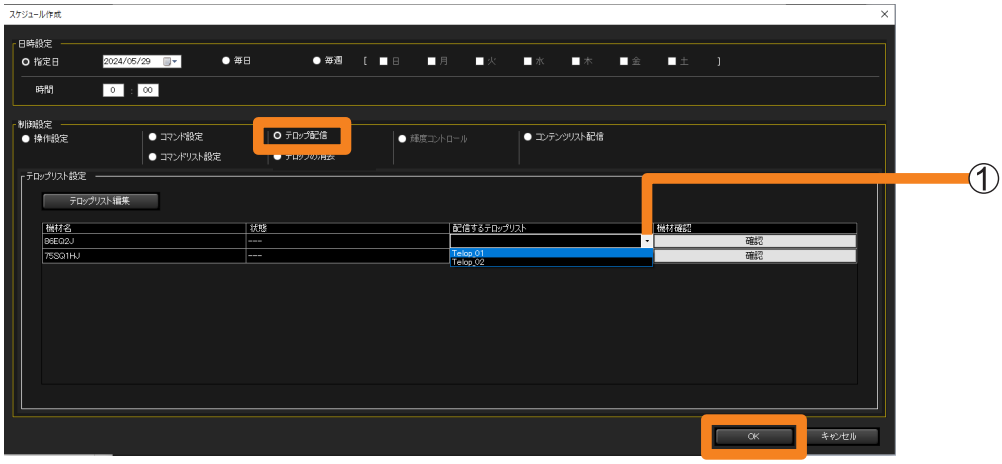
■[スケジュール] で日時を指定して設定する

1 機材監視画面のツリー部から、プロジェクター、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで [スケジュール] を選択します。（P.102）

2 スケジュール設定画面で、[スケジュール追加] または [編集] をクリックします。

3 日時を指定し、[テロップ配信] を選びます。

- [指定日] ／ [毎日] ／ [毎週]（操作したい曜日）を選択したあと、[時間] を設定します。



4 [配信するテロップリスト]（①）から配信するリストを選びます。

- 手順 **1** でグループまたはキーワードのアイコンを選択した場合は、個々の機材に対して異なるリストを選択できます。
- リストに何も表示されない場合は、テロップリストを作成する必要があります。（P.110）

5 [OK] をクリックします。

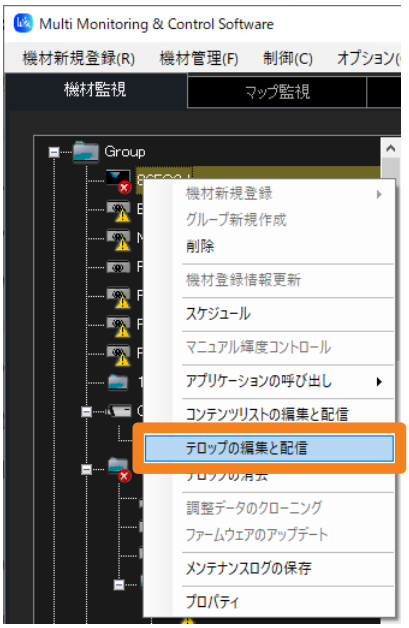
テロップリスト配信の設定が完了します。

- 設定完了後は、本ソフトウェアを起動した状態のままにしてください。ソフトウェアを終了したり、コンピューターがスリープ状態になったりすると、設定した日時にテロップリストの配信が行われません。

テロップを配信／停止する（[テロップ配信] ／ [テロップの消去]）

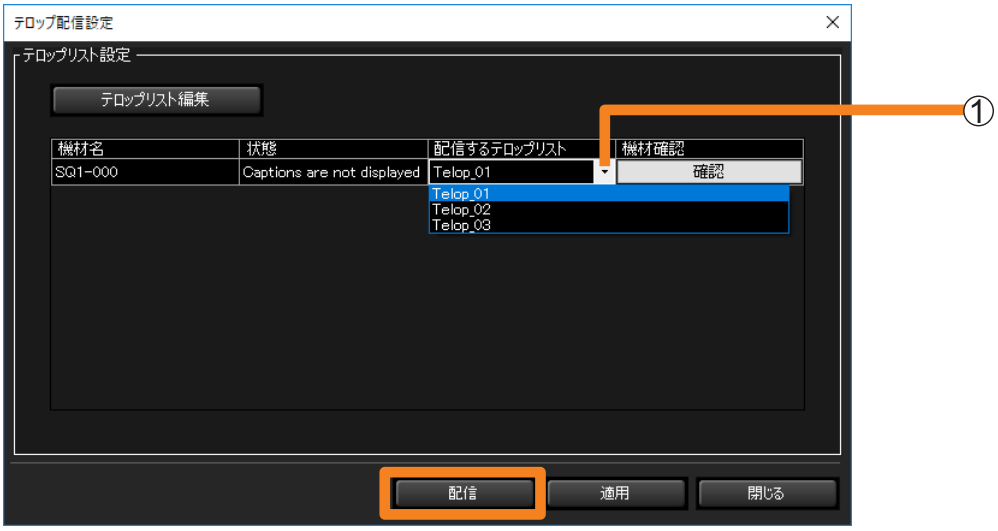
■メニューから直接設定する場合

1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［テロップの編集と配信］を選択します。



2 [配信するテロップリスト]（①）から配信するリストを選びます。

- 手順 **1** でグループまたはキーワードのアイコンを選択した場合は、個々の機材に対して異なるリストを選択できます。
- リストに何も表示されない場合は、テロップリストを作成する必要があります。（P.110）



3 [配信] をクリックします。

配信先の機材にリストの設定内容が LAN 経由で送付され、テロップリスト配信が実行されます。

- 設定した内容を保存するには、［適用］をクリックします。

配信したテロップを消去する

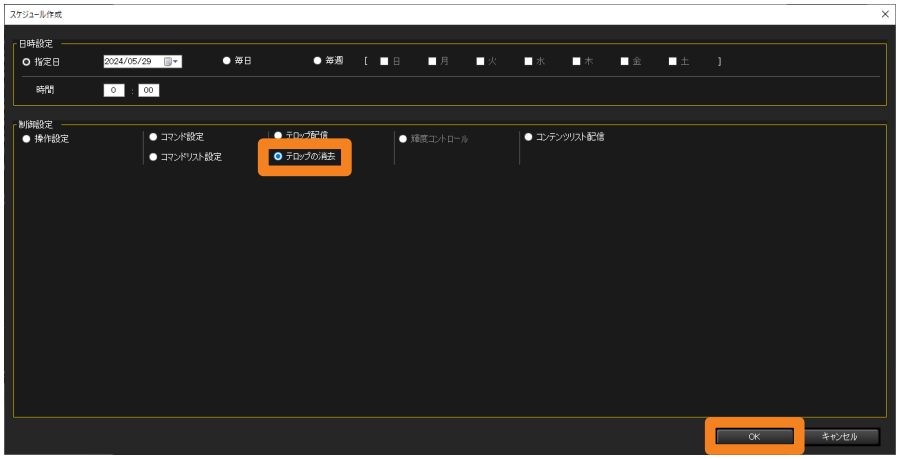
■[スケジュール］で日時を指定して消去する

1 機材監視画面のツリー部から、プロジェクター、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［スケジュール］を選択します。（P.102）

2 スケジュール設定画面で、[スケジュール追加］または［編集］をクリックします。

3 日時を指定して［テロップの消去］を選びます。

・[指定日］／［毎日］／［毎週］（操作したい曜日）を選択したあと、[時間］を設定します。



4 [OK］をクリックします。

配信設定が消去されます。

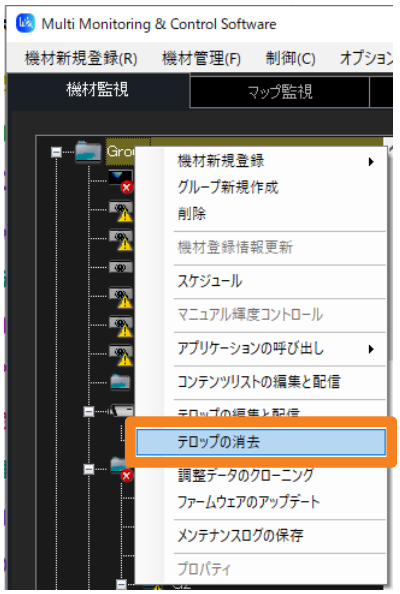
テロップを配信／停止する（[テロップ配信] ／ [テロップの消去]）

■メニューから直接消去する

配信中のテロップをメニューから直接消去します。

1 機材監視画面のツリー部から、画像を配信する機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［テロップの消去］を選択します。

配信設定が消去されます。



画面ごとの輝度を合わせる（[輝度コントロール]）

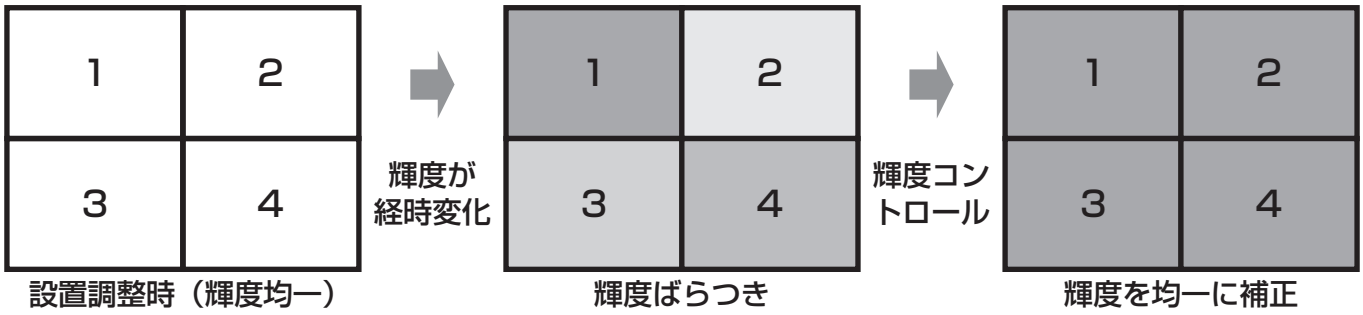
輝度コントロール機能を搭載した複数のプロジェクターでマルチ画面構成などにしたとき、画面間の輝度の均一性を維持するようにプロジェクターを自動制御します。

- 輝度コントロール機能は、複数台のプロジェクターで輝度の均一性を保つことをサポートする機能です。複数のプロジェクターの輝度が完全に一致することを保証するものではありません。

お知らせ

- ご利用の機材が［輝度コントロール］に対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application

輝度コントロールのイメージ



プロジェクターの設定

各プロジェクター本体のオンスクリーンメニューから、以下の設定を行ってください。

1 各プロジェクター間の輝度を合わせます。

2 ［メインメニュー］→［プロジェクターセットアップ］→［輝度コントロール］→［輝度コントロール設定］から、［モード］（あるいは［一定モード］）を［PC］に設定します。

お知らせ

- プロジェクターの輝度を調整する方法については、使用しているプロジェクターの取扱説明書を確認してください。

画面ごとの輝度を合わせる（[輝度コントロール]）

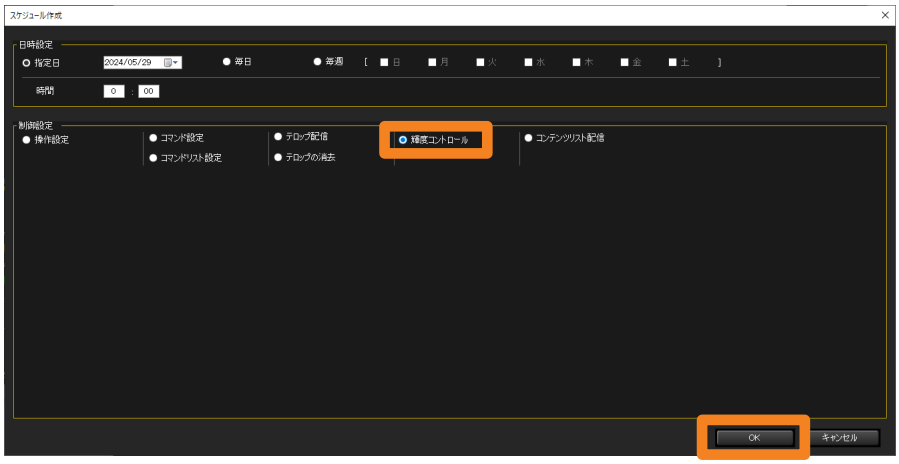
■[スケジュール] で日時を指定して実行する

1 機材監視画面のツリー部から、スケジュールを設定する輝度コントロールのアイコンを選び、右クリックで [スケジュール] を選択します。(P.102)

2 スケジュール設定画面で、[スケジュール追加] または [編集] をクリックします。

3 日時を指定し、[輝度コントロール] を選びます。

・[指定日] ／ [毎日] ／ [毎週]（操作したい曜日）を選択したあと、[時間] を設定します。



4 [OK] をクリックして設定を終了します。

■メニューから直接実行する

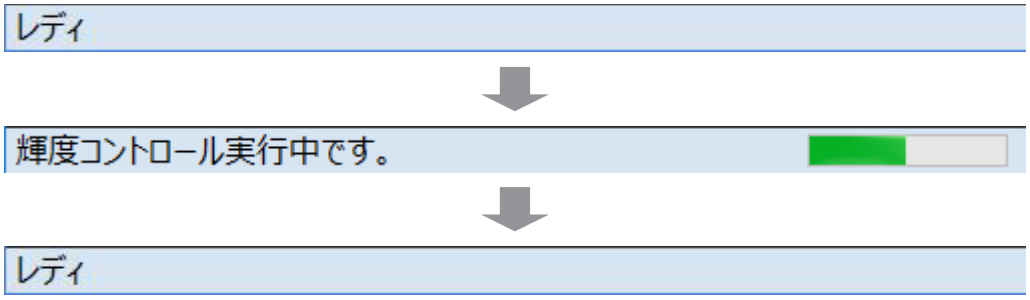
スケジュールで実行日時を設定せずに、メニューから直接 [輝度コントロール] を設定します。

1 機材監視画面のツリー部から、輝度コントロールのアイコンを選び、右クリックで [マニュアル輝度コントロール] を選択します。

輝度コントロール実行中の経過を確認する

輝度コントロールが実行されると、画面下のステータスバーの表示が、［レディ］から［輝度コントロール実行中です。］に変わり、右側にプログレスバーが表示されます。再び［レディ］に戻った時点で輝度コントロールの実行が完了します。

- 輝度コントロールが失敗したときは、ツリー部の輝度コントロールアイコンに警告マークが表示されます。



お知らせ

- プロジェクターが以下の状態のとき、輝度コントロールが正常に完了しない場合があります。プロジェクターの状態を確認したあと、再度輝度コントロールを実行してください。
  - プロジェクターがランプリレー中
  - プロジェクターがスタンバイ中（電源 OFF）
  - プロジェクターとコンピューターとの通信ができない（LAN ケーブルの接触不良など）

リストを作成して画像を配信する（[コンテンツリスト配信]）

コンテンツリスト配信機能とは、USB メディアプレーヤー機能を搭載したフラットパネルディスプレイ、または「メモリービューワー」の「シナリオ」再生を行う機能を搭載したプロジェクターに対し、USB メディアプレーヤー、またはシナリオ再生で再生できるコンテンツ（静止画／動画）およびその再生リストを配信する機能です。

お知らせ

- コンテンツリスト配信機能を使用する場合、機材本体にフォーマット済みの USB メモリーを挿入しておく必要があります。使用できる USB メモリーの仕様については、使用する機材の取扱説明書を確認してください。
- コンテンツリスト配信機能を使用すると、配信したコンテンツリスト（コンテンツと再生リスト）が機材本体に挿入されている USB メモリーに書き込まれます。すでに配信先の USB メモリーに同じファイル名のコンテンツまたは再生リストがあった場合でも、ライトプロテクトの設定にかかわらず上書きされます。
- コンテンツリスト配信機能を使用してコンテンツと再生リストを配信したあと、該当の USB メモリーに直接別のコンテンツを保存しても、再生リストに登録されていないそのコンテンツは再生されません。
- ご利用の機材が［コンテンツリスト配信］に対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software
- ポートレート設定の詳細については、ご使用のフラットパネルディスプレイの取扱説明書を確認してください。
- USB メディアプレーヤー機能の詳細については、ご使用のフラットパネルディスプレイの取扱説明書を確認してください。
- メモリービューワーのシナリオ再生機能の詳細については、ご使用のプロジェクターの取扱説明書を確認してください。

■配信できるコンテンツファイルの種類

静止画

○：対応　×：非対応

拡張子	フォーマット	制限事項 *1	プロジェクター	フラットパネルディスプレイ
jpg jpeg	JPEG	画素数：最大 4 096 × 4 096 YUV フォーマット：YUV444、YUV422 のみ対応 カラーモード：RGB のみ対応	○	○
jpe			×	○
bmp	Bitmap	画素数：最大 2 000 × 2 000 色ビット数：1, 4, 8, 16, 24, 32 bit 対応、	○	×

動画

拡張子	コーデック		制限事項 *2		プロジェクター	フラットパネルディスプレイ
	映像	音声	映像	音声		
mov	H.264	AAC、HE-AAC Linear PCM	解像度： 最大 1 920(W) × 1 080(H) (4K 対応フラットパネルディスプレイの場合は、最大 3 840(W) × 2 160(H)) フレームレート： 最大　30 fps (4K 対応フラットパネルディスプレイの場合は、最大 60 fps*3) ビットレート： 最大　40 Mbps (4K 対応フラットパネルディスプレイの場合は、最大 80 Mbps*3)	サンプルレート： 最大　48 kHz (Linear PCM の場合は、最大 16 kHz) チャンネル： 最大　2 ch ビットレート： 最大　384 kbps	○	○
avi	H.264、MPEG4 part2	MPEG1 Layer2 Linear PCM			○	○
mp4	H.264、MPEG4 part2	AAC			○	○
ts mts	H.264、MPEG4 part2	MP3 MPEG1 Layer2 HE-AAC			×	○
wmv	WMV9 VC-1 Simple & Main	WMA Standard WMA9/10 Pro			○	○
asf	H.264、MPEG4 part2 VC-1 Advanced AP@L3 VC-1 Simple & Main	WMA Standard WMA9/10 Pro			×	○
3gp	H.264、MPEG4 part2	AACHE-AAC			×	○
mkv	H.264、MPEG4 part2	MPEG1 Layer2 HE-AAC			×	○
flv f4v	H.264	MP3 AAC Linear PCM			×	○
mpg mpeg	MPEG2	MPEG1Layer2			○	×

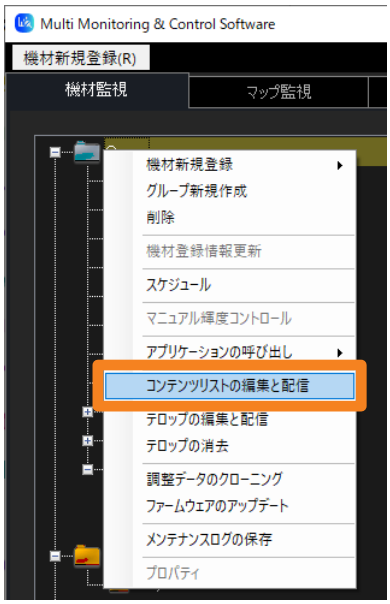
*1 プログレッシブ JPG は対応していません。
*2 以下の動画ファイルには対応していません。
- マルチアングル映像
- プロファイルが Advanced Simple Profile @ Level 0 または Advanced Simple Profile @ Level 1

*3 コーデックの種類によっては、制限事項の数値以内でも再生できないことがあります。

コンテンツリストを作成および編集する

1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［コンテンツリストの編集と配信］を選択します。

- 以下の方法でも操作できます。
  - P.102 手順 **1**、**2** でスケジュール設定画面を表示し、［スケジュール追加］または［編集］→［制御設定］の［コンテンツリスト配信］にチェックを入れます。



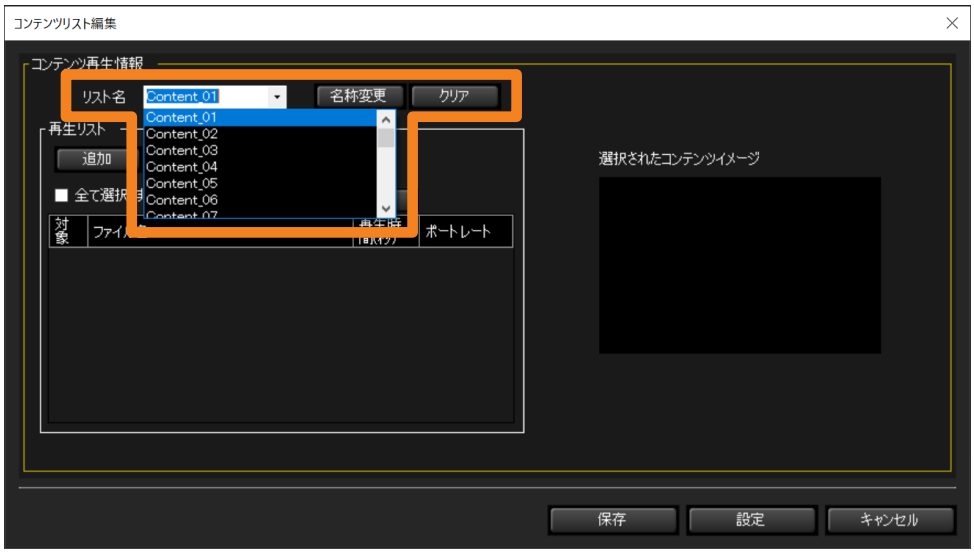
2 ［コンテンツリスト編集］をクリックします。

3 作成・編集するコンテンツリストを［リスト名］から選択します。

[リスト名]：新規作成する場合は、作成していない（または不要になった）リストを選びます。編集する場合は、編集したいリスト名を選びます。

[名称変更]：選んだ［リスト名］を直接書き換えてからクリックすると、変更したリスト名が確定されます。入力できる文字数は英数文字（32 文字以内）です。

[クリア]：［リスト名］がデフォルトの状態に戻り、設定した［再生リスト］の内容は破棄されます。



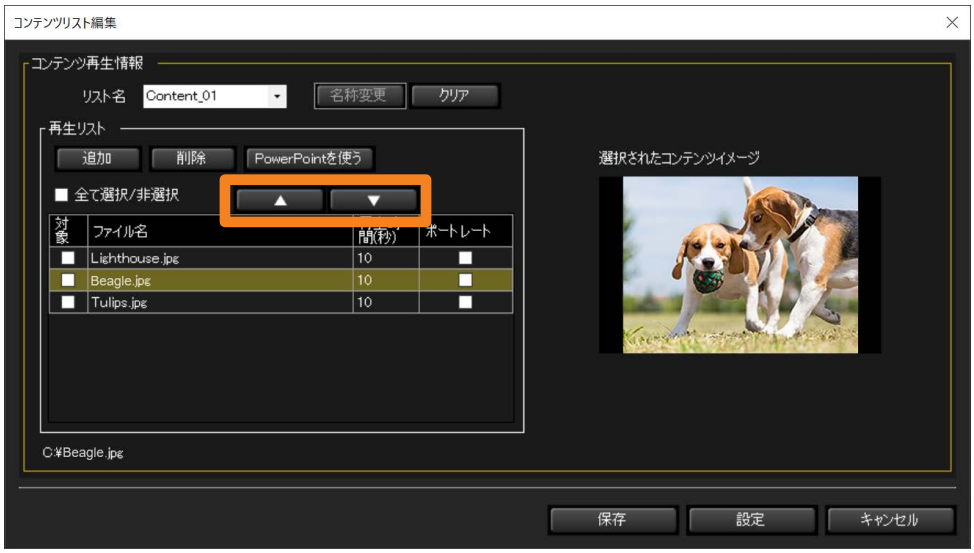
4 ［追加］をクリックし、再生するコンテンツを選択します。

ファイル選択画面が表示されます。登録するコンテンツのファイルを選択し、［開く］をクリックします。（Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらファイルをクリックすると、複数のファイルを選択することができます。）

- 選択したファイルが静止画の場合はその画像イメージが、動画の場合は動画を表すアイコンが ① に表示されます。
- ［再生リスト］に選択したファイル名が表示されます。

5 ［▲］/［▼］をクリックし、コンテンツを再生する順番を設定します。

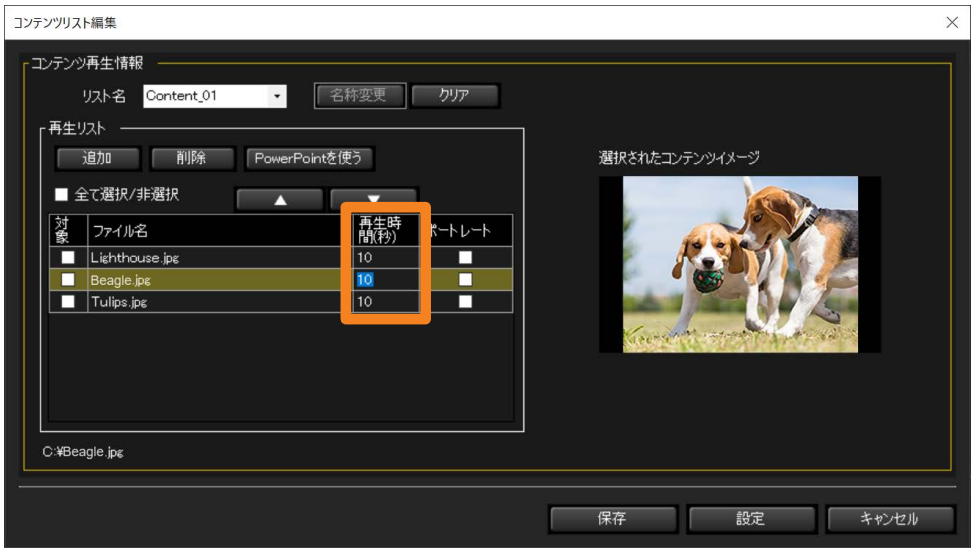
- ［再生リスト］に表示されているファイルが上から順に、USB メディアプレーヤーまたはメモリービューワーで再生されます。
- ［再生リスト］からファイルを削除する場合は、削除したいファイルの［対象］にチェックを入れ、［削除］をクリックしてください。



6 ［再生時間（秒）］に、それぞれのコンテンツを再生する時間（秒数）を入力します。

3 秒～ 86 400 秒（24 時間相当）の範囲で設定できます。

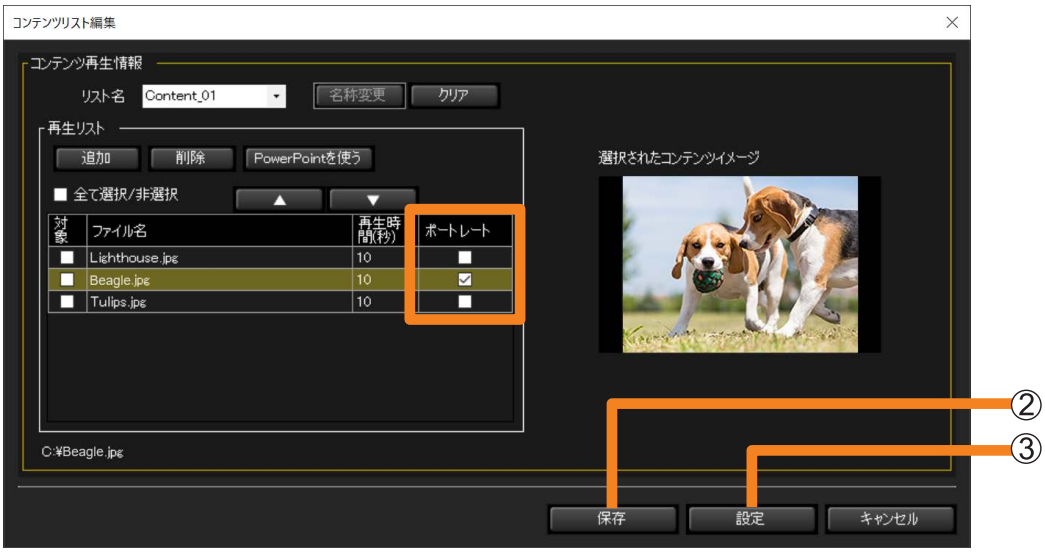
- 静止画の初期値は 10 秒です。動画の場合は、選択した動画ファイルの再生時間が初期値となります。選択した動画ファイルによっては、再生時間が取得できない場合があります。再生時間が取得できないときは、再生時間の初期値が 10 秒になります。



7（プロジェクター）
手順 8 へ進みます。

（フラットパネルディスプレイ）
ポートレート表示したいコンテンツにチェックを入れます。

チェックを入れると［シングル再生モード選択時、ポートレート設定は無効になります。］のメッセージが表示されます。
・チェックを入れると、機材で設定した「ポートレート設定」と関連付けられます。



8 保存と設定を行います。

（[保存］する）

コンピューターや外部メモリーなど、任意の場所に保存できます。USB メモリーに保存したコンテンツリストは、機材に直接挿入して利用することもできます。

❶ ［保存］（②）をクリックします。

❷ 再生モードを選択し、［保存］をクリックします。

［シングル再生］：単体の機材で再生を行う場合に選びます。
・［シングル再生］選択時は、手順 **7** でチェックを入れていてもポートレート表示はされません。

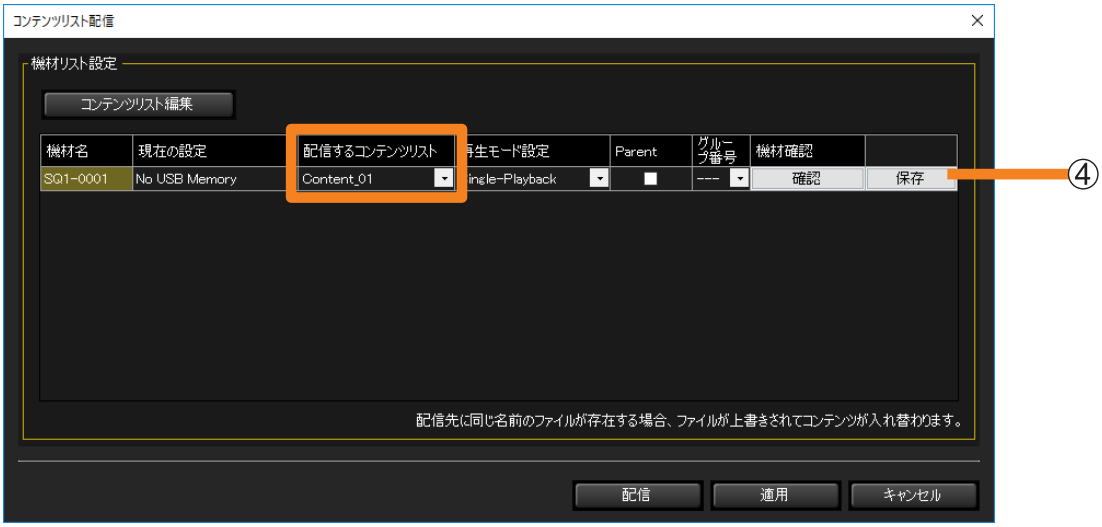
［マルチ再生（同期再生）］：複数の機材で同期再生を行う場合に選びます。
（[Parent]：設定機材を親機とする場合にチェックを入れます。）

❸ **保存先を指定して［OK］をクリックします。**
手順 ❶（P.126）の画面に戻ります。

（[設定] する）

作成した［再生リスト］が本ソフトウェアに保存されます。

❶ **［設定］（③）をクリックします。**
設定が完了し、作成したリストが［配信するコンテンツリスト］に表示されます。
- ［設定］をクリックせずに［リスト名］を変更する、または画面を閉じると、［再生リスト］で設定した内容は破棄されます。



- ［保存］（④）をクリックすると、手順 **8**（［保存］する）と同じ操作が、リストごとに行えます。（P.126）

お知らせ

- ［ポートレート］にチェックがあるコンテンツは、リスト保存時に書き出された「ファイルリスト（filelist.dat）」の該当行の末尾に「P」が付与されます。
- 保存時に［マルチ再生（同期再生）］を選択した場合は、必ず 1 台［Parent］にチェックを入れ、親機として設定してください。（［Parent］として設定する機材は、同じグループ番号内で 1 台のみとします）親機とした機材が再生を開始すると、同じグループ番号の他の機材（子機）も再生を開始します。
- 保存時に［マルチ再生（同期再生）］を選択した場合、ネットワークを分類するために使用されるグループ番号は「G01」に固定されます。グループ番号を変更するには、コンテンツリスト保存時に書き出された「ファイルリスト（filelist.dat）」を直接書き換える必要があります。
- 保存ファイルについて詳しくは、「メニューから直接設定する場合」手順 **5** の ③ をご覧ください。（P.133）

■PowerPoint で作成したファイルを用いて配信する場合

PowerPoint で作成したファイルを静止画または動画に変換してコンテンツとして配信することができます。

- PowerPoint で作成されたファイルを静止画、または動画に変換する場合、アニメーション効果／スライドの枚数によっては変換に時間がかかる場合があります。

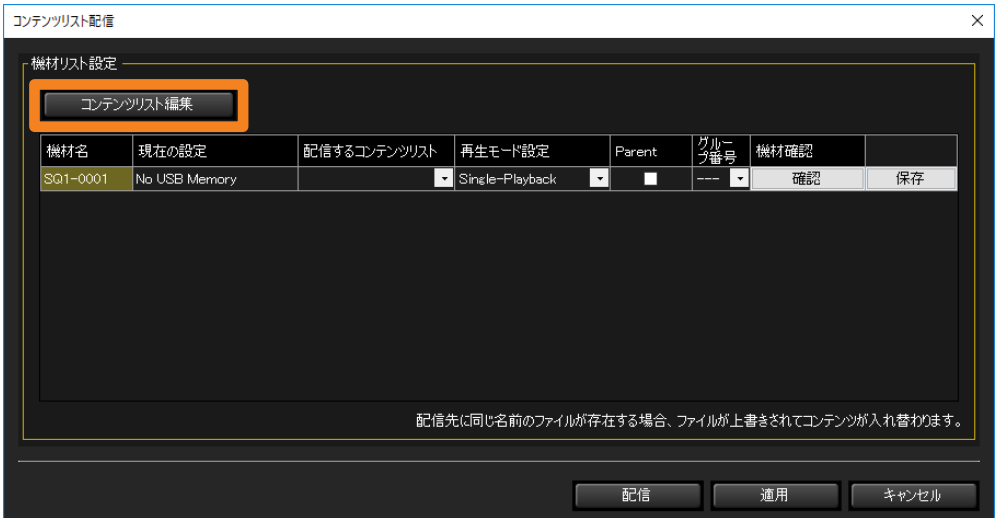
準備：

- 使用しているコンピューターに Microsoft PowerPoint がインストールされていることを確認してください。
- 対応バージョン：Microsoft PowerPoint 2010/2013

1 [コンテンツリスト編集] をクリックします。

以下の方法で画面を表示します。（P.123 手順 **1** と同じ）

- 機材監視画面のツリー部から機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで、[コンテンツリストの編集と配信] を選択します。
- P.102 手順 **1**、**2** でスケジュール設定画面を表示し、[スケジュール追加] または [編集] → [制御設定] の [コンテンツリスト配信] にチェックを入れます。



2 [PowerPoint を使う] をクリックします。

3 [選択] をクリックし、PowerPoint のファイルを選択します。

選択した PowerPoint スライドの 1 枚目の画像が ① に表示されます。

- ファイルを選択後に［新規／編集］（②）をクリックすると、選択したファイルが PowerPoint で開きます。ファイル選択前に［新規／編集］（②）をクリックすると、ファイルを新規作成することができます。

4 ③ の［変換（.JPG)］または［変換（.WMV)］をクリックします。

選択したファイルが静止画（JPG）または動画（WMV）に変換され、完了メッセージが表示されます。

- 静止画に変換する場合、アニメーション効果などは破棄されます。
- 静止画に変換する場合、［Size］で選択した解像度で変換することができます。［Default(PPT)］は、ご使用の PowerPoint プレゼンテーションツールの設定で変換されます。
- 動画に変換する場合、アニメーション効果、スライドの枚数などの設定状況により変換に時間がかかります。

5 [閉じる]（④）をクリックし、手順２の画面に戻ります。

選択した PowerPoint のファイルが［再生リスト］に表示されます。

6 再生順、再生時間、ポートレートを設定し、[設定] をクリックします。

詳しくは、「コンテンツリストを作成および編集する」手順 **5** ～ **8** をご覧ください。（P.125）

コンテンツリストを配信する

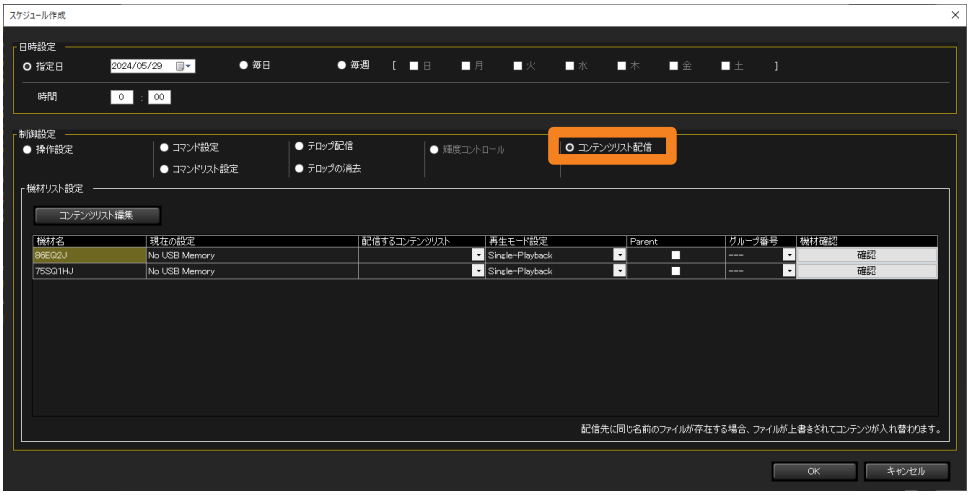
■[スケジュール] で日時を指定して実行する

1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［スケジュール］を選択します。（P.102）

2 スケジュール設定画面で、［スケジュール追加］または［編集］をクリックします。

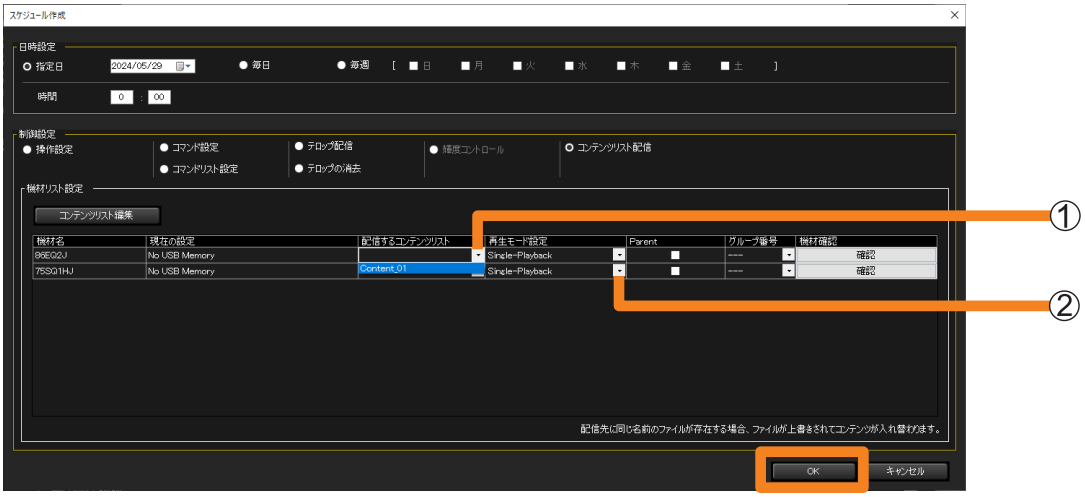
3 日時を指定し、［コンテンツリスト配信］を選びます。

- ［指定日］／［毎日］／［毎週］（操作したい曜日）を選択したあと、［時間］を設定します。



4 [配信するコンテンツリスト]（①）から配信するリストを選びます。

- 手順 **1** でグループまたはキーワードのアイコンを選択した場合は、個々の機材に対して異なるリストを選択できます。
- リストに何も表示されない場合は、コンテンツリストを作成する必要があります。（P.123）



5 [再生モード設定]（②）を選びます。

[Single-Playback]： 単独のプロジェクターまたはフラットパネルディスプレイで再生する場合

[Multi-Playback]： 複数のフラットパネルディスプレイで同時に再生を開始する場合

- 配信する機材がプロジェクターの場合は、[Multi-Playback] は選択できません。

6 手順 **5** で [Multi-Playback] を選んだ場合は、[Parent]、[グループ番号] を設定します。

- [グループ番号] は、USB メディアプレーヤーをマルチメディアプレーヤーとして使用する場合に、ネットワークを分類するために使用される「グループ ID」と同じです。
- 同一グループ内で Parent 設定のフラットパネルディスプレイを必ず 1 台設定してください。Parent 設定のフラットパネルディスプレイ（親機）が USB メディアプレーヤーの再生を開始すると、同じグループ ID の他のフラットパネルディスプレイ（子機）の USB メディアプレーヤーも再生を開始します。
- 同一ネットワーク上に、同じグループ ID で Parent 設定されているフラットパネルディスプレイがすでに存在している場合は、[Parent] を選択できません。
- 配信する機材の設置位置を確認したい場合、[確認] をクリックしてください。選択されたフラットパネルディスプレイの画面に、入力信号や画面モード（アスペクト）などの情報が表示されます。

7 [OK] をクリックします。

コンテンツリスト配信の設定が完了します。

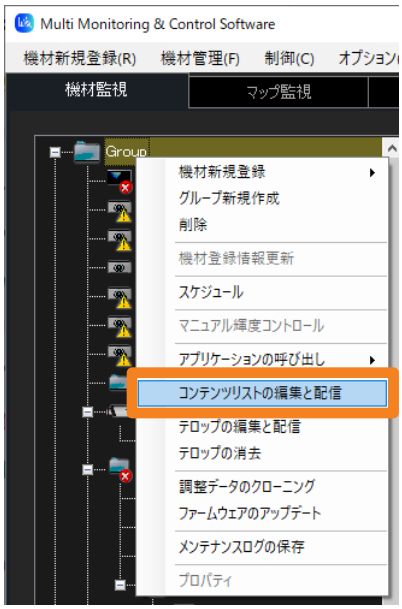
- 設定完了後は、本ソフトウェアを起動した状態のままにしてください。ソフトウェアを終了したり、コンピューターがスリープ状態になったりすると、設定した日時にコンテンツリストの配信が行われません。

お知らせ

- コンテンツのファイルサイズによっては、配信を開始後、完了までに時間がかかる場合があります。
- 配信時にネットワークに接続されていない機材に対しては、コンテンツリストは配信されません。
- コンテンツリストを配信中は、フラットパネルディスプレイの「パワーマネージメント設定」で設定した機能は無効になります。
- 配信対象のフラットパネルディスプレイが既存のコンテンツを USB メディアプレーヤーで再生している場合、コンテンツリストの配信が開始されると同時にその再生は停止し、配信完了後に新たなコンテンツで再生が再開されます。
- 配信対象のプロジェクターが既存のシナリオをメモリービューワーで再生している場合、コンテンツリストの配信が開始されると同時にその再生は停止し、配信完了後に新たなシナリオで再生が再開されます。
- コンテンツリストの配信が行われると、[機材リスト設定] で設定した内容が自動で保存されます。次回コンテンツリスト配信画面を起動したときに、自動で保存した設定内容が表示されます。
- 配信中に、機材本体の電源を切ったり、本体との接続が切れたりした場合は配信が失敗します。本体との接続状態を確認し、再度配信を実行してください。

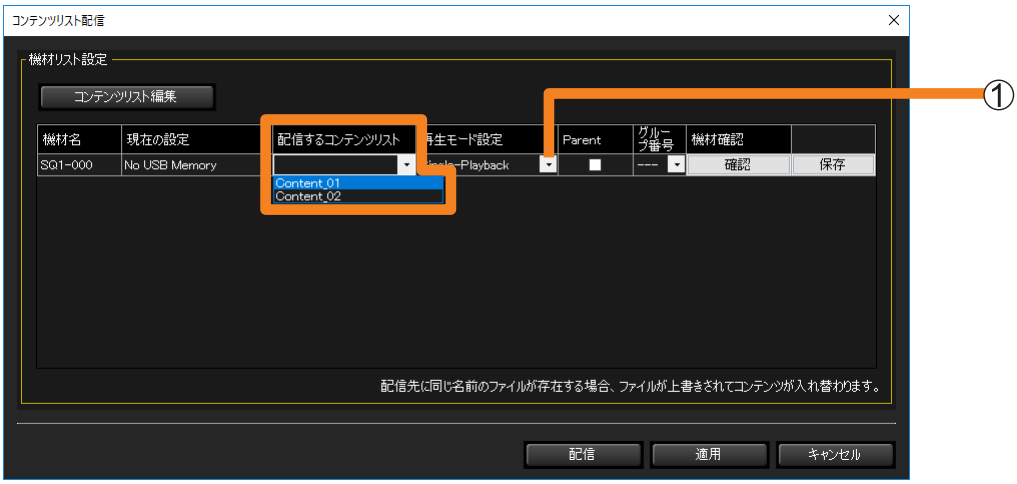
■メニューから直接設定する場合

1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［コンテンツリストの編集と配信］を選択します。



2 ［配信するコンテンツリスト］から配信するリストを選びます。

- 手順 **1** でグループまたはキーワードのアイコンを選択した場合は、個々の機材に対して異なるリストを選択できます。
- リストに何も表示されない場合は、コンテンツリストを作成する必要があります。（P.123）



3 ［再生モード設定］（①）を選びます。

［Single-Playback］：単独のプロジェクターまたはフラットパネルディスプレイで再生する場合

［Multi-Playback］：複数のフラットパネルディスプレイで同時に再生を開始する場合
- 配信する機材がプロジェクターの場合は、［Multi-Playback］は選択できません。

4 手順 **3** で［Multi-Playback］を選んだ場合は、［Parent］、［グループ番号］を設定します。

- ［グループ番号］は、USB メディアプレーヤーをマルチメディアプレーヤーとして使用する場合に、ネットワークを分類するために使用される「グループ ID」と同じです。
- 同一グループ内でParent設定のフラットパネルディスプレイを必ず 1 台設定してください。
- 同一ネットワーク上に、同じグループ ID で Parent 設定されているフラットパネルディスプレイがすでに存在している場合は、［Parent］を選択できません。
- 配信する機材の設置位置を確認したい場合、［確認］をクリックしてください。選択されたフラットパネルディスプレイの画面に、入力信号や画面モード（アスペクト）などの情報が表示されます。

5 コンテンツリストを配信または保存します。

② **[配信]**：配信先の機材に挿入されている USB メモリー上にファイルが保存され、コンテンツリスト配信が実行されます。

③ **[保存]**：使用しているコンピューターにコンテンツリストが保存されます。保存先を指定してください。コンピューターに機材で使用する USB メモリーを挿入しておけば、直接 USB メモリーに保存できます。

- コンテンツリストとして保存されるファイルは以下のとおりです。
  - **ファイルリスト（filelist.dat）：**
    再生するコンテンツのファイル名が記録されたファイルです。
  - **シナリオファイル（scenario.dat）：**
    それぞれのコンテンツの再生時間と、コンテンツの再生順序が記録されたファイルです。
  - **再生ファイル：**
    再生に使用する静止画 / 動画ファイルです。

- 編集中の機材リストを一時的に保存したい場合は、［適用］（④）をクリックしてください。次回起動時に編集中の機材リスト画面が表示されます。
- 作成中 / 編集中の機材リストを破棄する場合は、［キャンセル］（⑤）をクリックしてください。スケジュール作成画面、スケジュール編集画面、または機材監視画面に戻ります。

リストを作成して画像を配信する（[コンテンツリスト配信]）

お知らせ

- コンテンツのファイルサイズによっては、配信完了までに時間がかかる場合があります。
- コンテンツリストを配信中は、フラットパネルディスプレイの「パワーマネージメント設定」で設定した機能は無効になります。
- 配信対象のフラットパネルディスプレイが既存のコンテンツを USB メディアプレーヤーで再生している場合、コンテンツリストの配信が開始されると同時にその再生は停止し、配信完了後に新たなコンテンツで再生が再開されます。
- 配信対象のプロジェクターが既存のシナリオをメモリービューワーで再生している場合、コンテンツリストの配信が開始されると同時にその再生は停止し、配信完了後に新たなシナリオで再生が再開されます。
- コンテンツリストの配信を実行すると、［機材リスト設定］で設定した内容が自動で保存されます。次回コンテンツリスト配信画面を起動したときに、自動で保存した設定内容が表示されます。
- 配信中に、機材本体の電源を切ったり、本体との接続が切れたりした場合は配信が失敗します。本体との接続状態を確認し、再度配信を実行してください。

WEB 制御機能を呼び出す

機材の WEB 制御機能を本ソフトウェアから呼び出すことができます。

準備：

- WEB ブラウザーで「自動構成スクリプトを使用する」のチェックを外してください。
- WEB ブラウザーで「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックを外す、または機材の IP アドレスをプロキシ詳細設定の「例外」に設定してください。

1 機材監視画面の簡易情報表示部で、表示したい機材を選び、右クリックで［WEB 制御］を選択します。

- 選択した行をダブルクリックしても表示することができます。

WEB 制御機能を呼び出す

お知らせ

- WEB 制御機能について、詳しくは使用している機材の取扱説明書を確認してください。
- 使用している機材により、WEB 制御（WEB コントロール）画面の表示が異なります。
- WEB 制御機能を呼び出した場合、管理者アカウントのパスワード変更画面が表示される場合があります。管理者アカウントのパスワード変更を行った場合は詳細情報が取得できなくなりますので、機材を再登録する必要があります。「監視制御する機材や周辺機器を登録する」（P.24）に従い、再登録を行ってください。
- 機材本体で、HTTPS 通信を使用して接続する設定になっている場合は、本ソフトウェアから WEB 制御機能を呼び出すことはできません。その場合は、WEB ブラウザーの URL 入力欄に機材の IP アドレスを入力し、WEB 制御機能を呼び出してください。
- ［準備モード］中は、ロゴ転送アプリでロゴの転送はできません。

ECO マネージメント機能を使用する

［ECO マネージメント設定］画面を表示させた状態で WEB 制御（WEB コントロール）画面を呼び出します。［ECO マネージメント設定］では、プロジェクターの消費電力を低減させる設定を行うことができます。

・メニューの［WEB 制御］から WEB 制御（WEB コントロール）画面を表示した場合は、左側のメニューから［詳細設定］を選び、［ECO マネージメント設定］をクリックすると表示できます。（P.135）

準備：

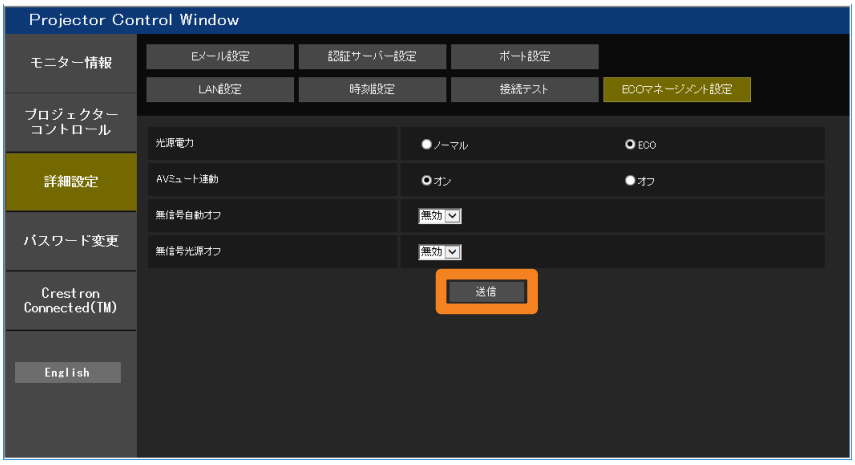
・WEB ブラウザーで「自動構成スクリプトを使用する」のチェックを外してください。
・WEB ブラウザーで「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックを外す、または機材の IP アドレスをプロキシ詳細設定の「例外」に設定してください。

1 機材監視画面の簡易情報表示部で、表示したい機材を選び、右クリックで［ECO 設定］を選択します。

2 設定を変更し、［送信］をクリックします。

プロジェクターに設定内容が反映されます。しばらくすると、手順 **1** で選択した行の［ECO 設定レベル］のアイコンが更新されます。更新にかかる時間は、［機材情報の取得時間］で設定した［取得間隔］により異なります。（P.143）

・使用しているプロジェクターにより、設定画面の表示内容が異なります。



お知らせ

・ECO マネージメント機能について、詳しくは使用している機材の取扱説明書を確認してください。

Geometry Manager Pro を呼び出す

コンピューターにインストールされている Geometry Manager Pro を本ソフトウェアから呼び出すことができます。

1 機材監視画面の簡易情報表示部で、表示したい機材を選び、右クリックで［Geometry Manager Pro］を選択します。

■メニューから直接呼び出す場合

1 機材監視画面のツリー部から、機材、グループ、キーワードのアイコンを選び、右クリックで［アプリケーションの呼び出し］→［Geometry Manager Pro］を選択します。

お知らせ

- Geometry Manager Pro を呼び出せるのは、[幾何学歪補正] に状態が表示されている機種のみです。
- 機種の認証設定状態によって Geometry Manager Pro の起動に失敗する場合があります。その場合は対象機種の認証情報の確認を行ってください。

マスター機材のデータを一括配信する

機材本体のメニューまたは専用のツールから実施していた LAN クローニング機能と同じく、1 台のマスターとなる機材のメニュー設定や調整値を複数台の機材にコピーします。

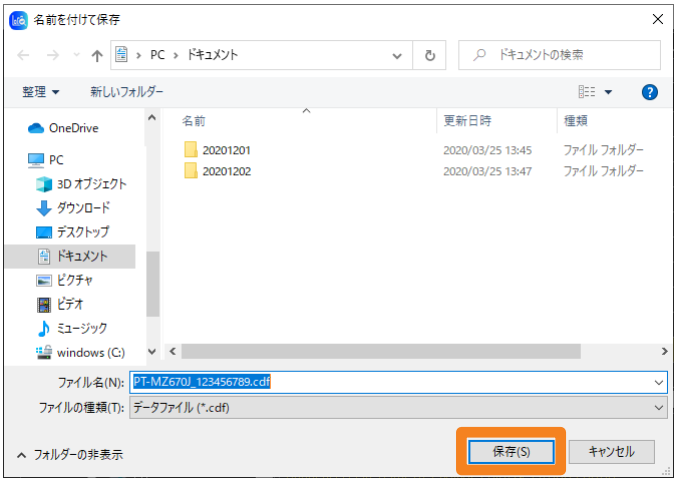
- 1 台のマスターとなる機材と同モデルの機種へのみ配信できます。
  ご利用のプロジェクターがデータクローニングに対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application

マスター機材のデータを取得する

1 機材監視画面の簡易情報表示部で機材を選び、右クリックで［調整データの取得］を選択します。

2 保存先を選択し、［保存］をクリックします。

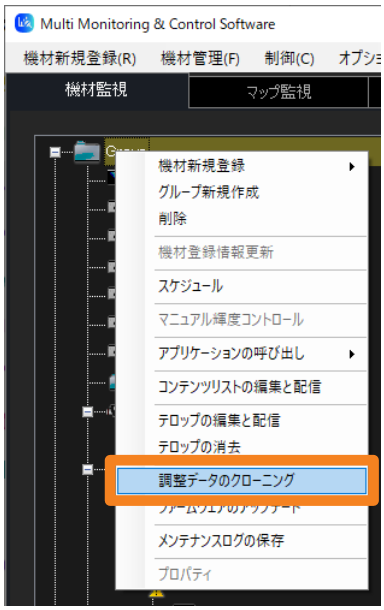
- 機材本体から直接行う USB クローニング用のデータファイルも同時に保存されます。
  デフォルトファイル名：モデル名＋シリアル No.cdf（本アプリケーション用）
  モデル名 _01.cdf（USB クローニング用は、「モデル名＋シリアル No」が付いたフォルダーに保存されます。）
- 保存成功のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックしてください。



取得した調整データを一括配信する

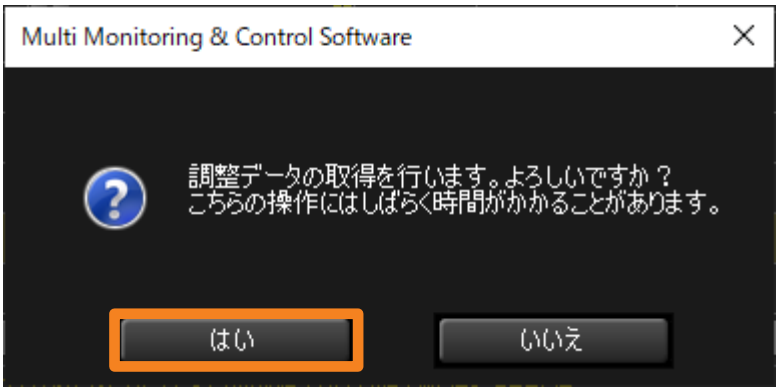
1 機材監視画面のツリー部から （グループフォルダー）を選び、右クリックで［調整データのクローニング］を選択します。

・選択したフォルダー内のすべての機材に対して配信を実行します。対象外の機種があれば、配信実行後に表示される配信結果にエラーとして表示されます。（P.141）



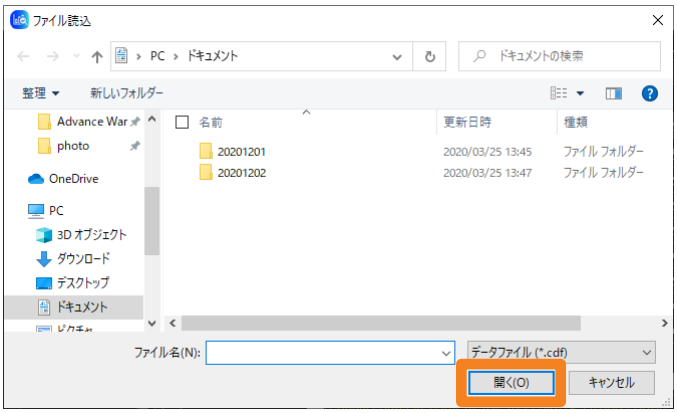
2 確認のメッセージが表示されたら［はい］をクリックします。

・［いいえ］を選ぶと配信を中断します。

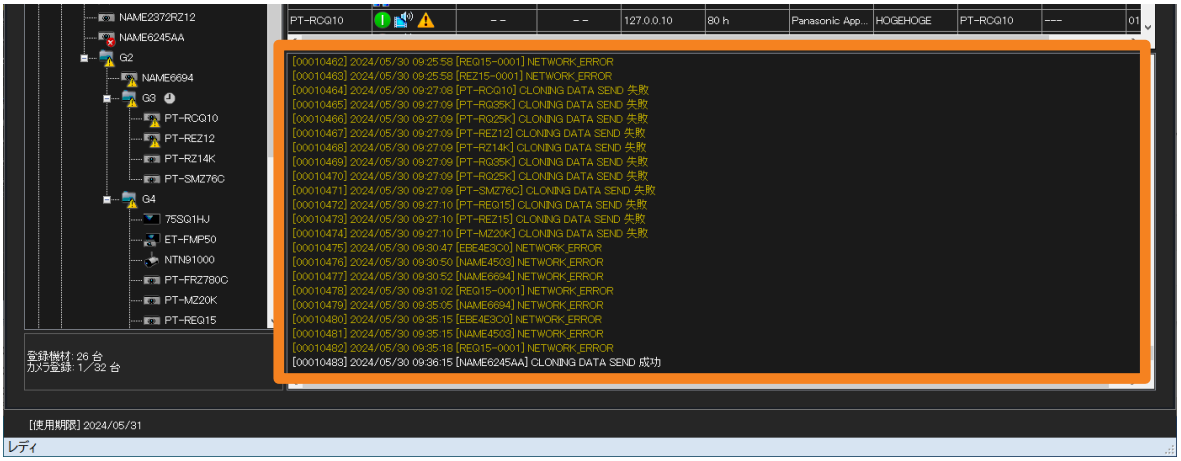


3 配信したい調整データのファイルを選択し、［開く］をクリックします。

- 「マスター機材のデータを取得する」（P.139）で取得したデータだけでなく、機材本体から、直接 USB メモリーに保存したクローニングデータも選択することができます。



- 配信結果は機材監視画面のコマンド実行ログ表示部に表示されます。
  - 配信成功：白色の文字で表示
  - 配信失敗：黄色の文字で表示

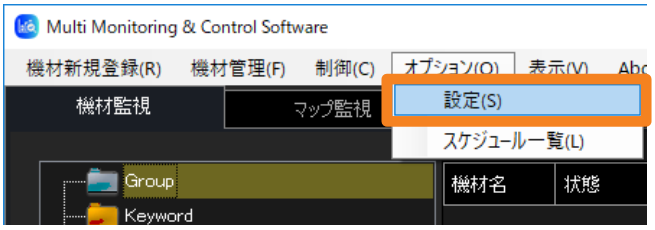


お知らせ

- データクローニングで取得できるデータや、機材本体から USB メモリーに保存する方法については、使用している機材の取扱説明書を確認してください。
- USB クローニング用に取得した調整データのファイル名は変更せず、取得時のファイル名のままご使用ください。変更できるのは、本アプリケーション用のファイル名のみです。（P.139）

監視制御のオプション機能を設定する

1 メニューから［オプション］→［設定］を選択します。



2 設定画面が表示されたら、変更したい設定のタブを選択し、詳細を設定します。

各項目の設定方法は、それぞれのページをご覧ください。

- **［一般］**
  - ［機材情報の取得間隔］（P.143）
  - ［システム履歴の保存件数］とシステム履歴の消去（P.144、145）
  - ［コマンドコントロール用のポート番号］（P.146）
  - ［状態通知（受信）用のポート番号（UDP)］（P.147）
- **［詳細情報］**（P.149）
- **［簡易情報］**（P.149）

3 設定終了後、［閉じる］をクリックして設定画面を終了します。

情報更新間隔の設定

監視・制御中の機材の情報を定期的に更新することができます。

1 ［一般］タブをクリックします。（P.142）

2 ［取得間隔］を設定します。

設定可能範囲は 1 分～ 90 分で、分単位で設定できます。

3 ［更新］をクリックします。

更新のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてください。

- ［取得間隔］に 1 ～ 90 以外の文字を入力、または文字を入力せずに［更新］をクリックした場合は次のメッセージが表示されます。

お知らせ

- 登録機材の台数が多く［機材情報の取得間隔］が短い場合は、すべての機材の情報が取得できない場合があります。［機材情報の取得間隔］を延ばしてください。

システム履歴の保存件数を設定する

システム履歴情報の保存件数を設定します。

1 ［一般］タブをクリックします。（P.142）

2 ［システム履歴の保存件数］を設定します。

プルダウンメニューから［500］［1000］［2000］のいずれかを選択してください。

3 ［更新］をクリックします。

更新のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてください。

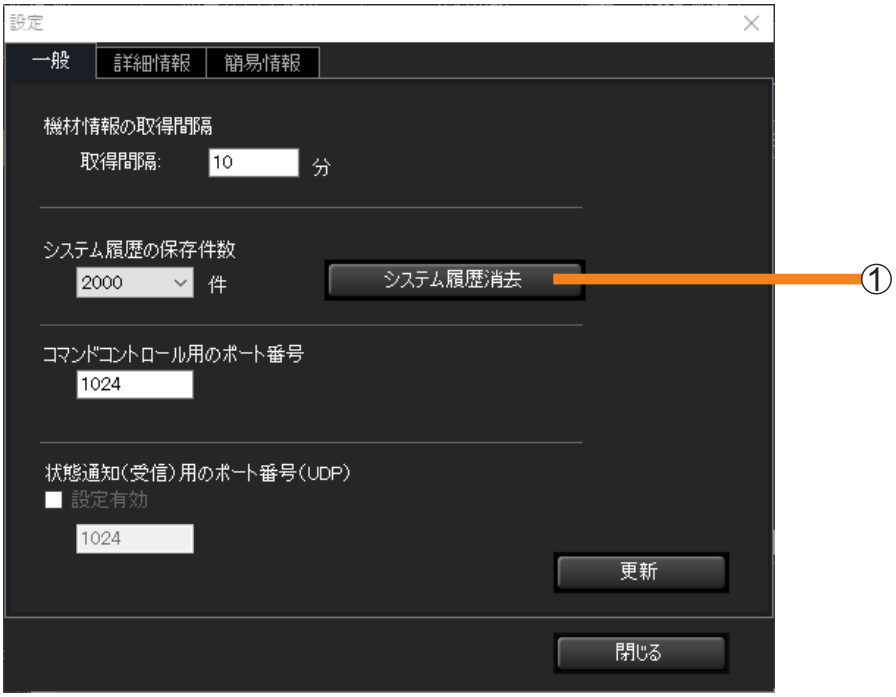
システム履歴情報を消去する

保存済みのシステム履歴情報を消去します。

1 ［一般］タブをクリックします。（P.142）

2 ［システム履歴消去］（①）をクリックします。

消去確認のメッセージが表示されますので、［はい］をクリックしてください。システム履歴情報が消去されます。



お知らせ

・システム履歴情報を消去すると、簡易システム履歴情報も消去されます。

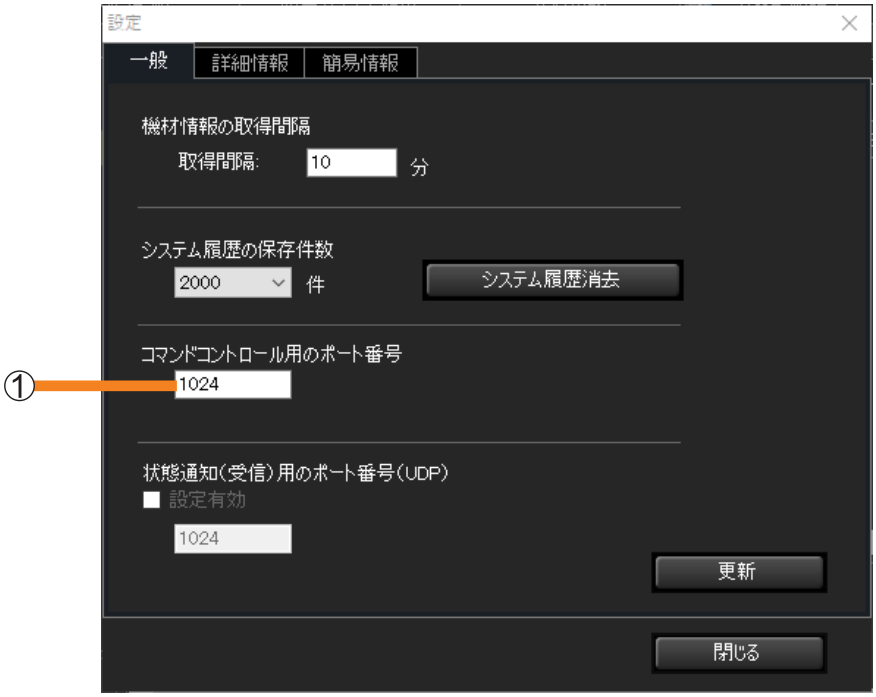
コマンドコントロール用のポート番号を設定する

機材との通信で使用するコマンドコントロールのポート番号を設定します。

1 ［一般］タブをクリックします。（P.142）

2 ① にコマンドコントロール用のポート番号を入力します。

・使用する機材の設定項目にコマンドコントロールのポート番号の設定がある場合はその設定に合わせます。（デフォルト設定値：1024）



3 ［更新］をクリックします。

設定が完了すると更新完了のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてください。

お知らせ

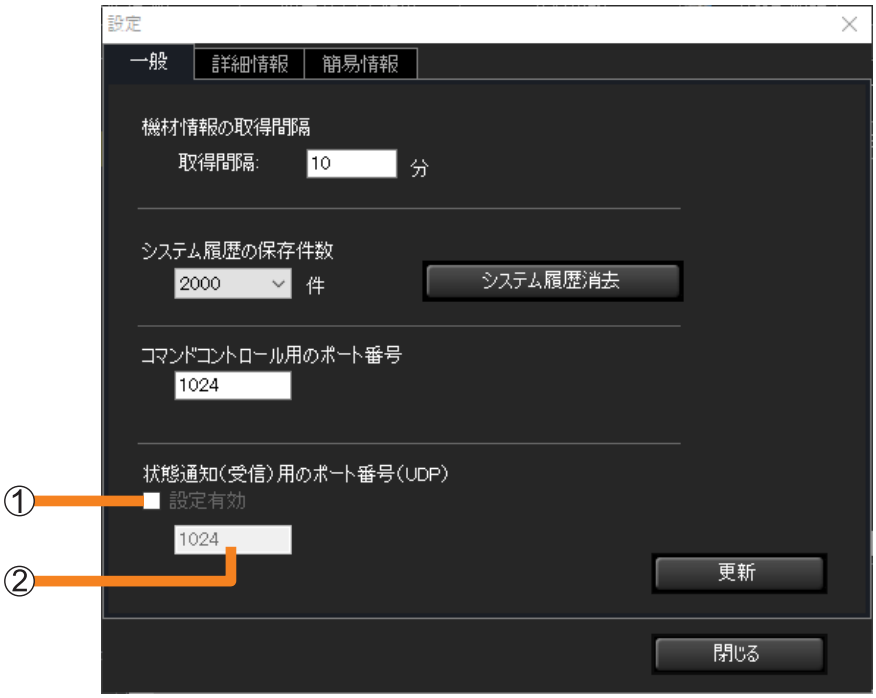
・複数の機材と接続する場合、すべての機材のポート番号を合わせる必要があります。
・ポート番号が間違っていると情報を取得することができません。

状態通知機能の設定をする

機材から状態通知を受信するためのポート番号を設定します。
状態通知機能を設定しておくと、設定した機材情報の取得間隔に関係なく迅速にエラー・警告情報が通知されます。フラットパネルディスプレイの故障で電源ランプが赤色点滅した場合、電源ランプを直接確認できない離れた場所からでも本ソフトウェアを介して故障内容を把握することができます。

1 ［一般］タブをクリックします。（P.142）

2 ［設定有効］（①）にチェックを入れます。



3 状態通知（受信）用のポート番号を②に入力します。

・デフォルト設定値：1024

4 ［更新］をクリックします。

設定が完了すると更新完了のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてください。

状態通知機能の設定をする

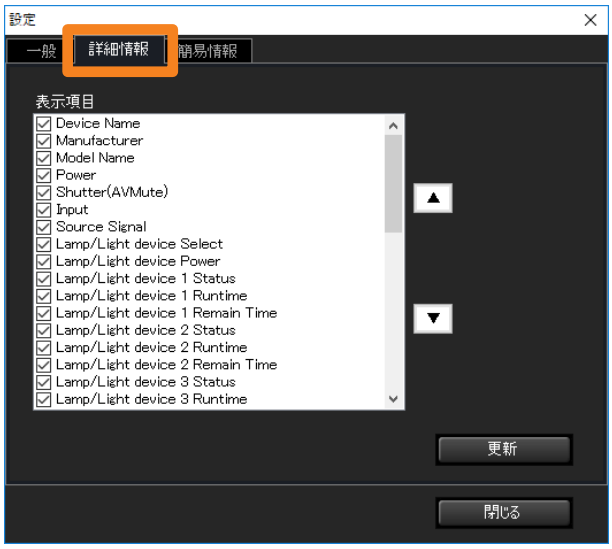
お知らせ

- 状態通知機能に対応しているフラットパネルディスプレイ、またはプッシュ通知機能が非対応のプロジェクターの場合、機材側の WEB 制御（WEB コントロール）画面（状態通知設定ページ）での設定が必要です。WEB 制御（WEB コントロール）画面の設定については、使用している機材の取扱説明書を確認してください。
- 入力したポート番号と機材に設定しているポート番号が異なると、機材からの状態通知を受信することはできません。
- 複数の機材と接続する場合は、すべての機材のポート番号を合わせる必要があります。
- 機材から受信した状態通知に基づくエラーは、簡易システム履歴に表示されます。エラー・警告が表示されたら、販売店にお知らせください。
- 状態通知機能を使用できる機材が対象です。ご利用の機材が対応しているかは、下記の WEB サイト内に掲載している、本アプリケーションソフトの「対応機種一覧表」をご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_application
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_software

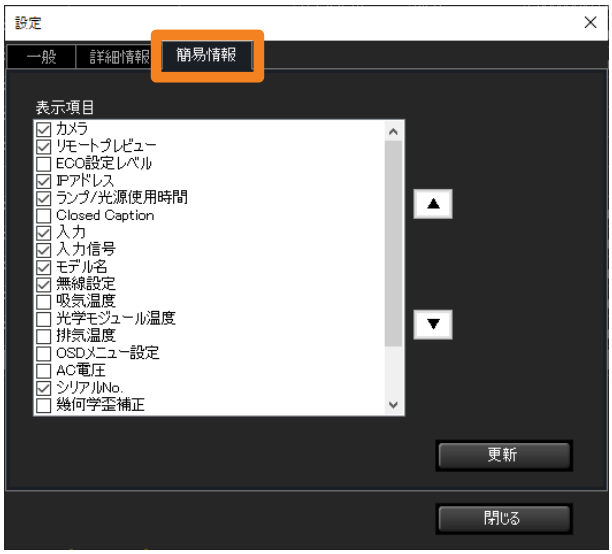
情報表示画面の表示内容を変更する

詳細情報表示（P.73）または簡易情報表示（P.64）で表示する項目と、項目の表示順序が変更できます。

1 ［詳細情報］または［簡易情報］タブをクリックします。



［詳細情報］画面



［簡易情報］画面

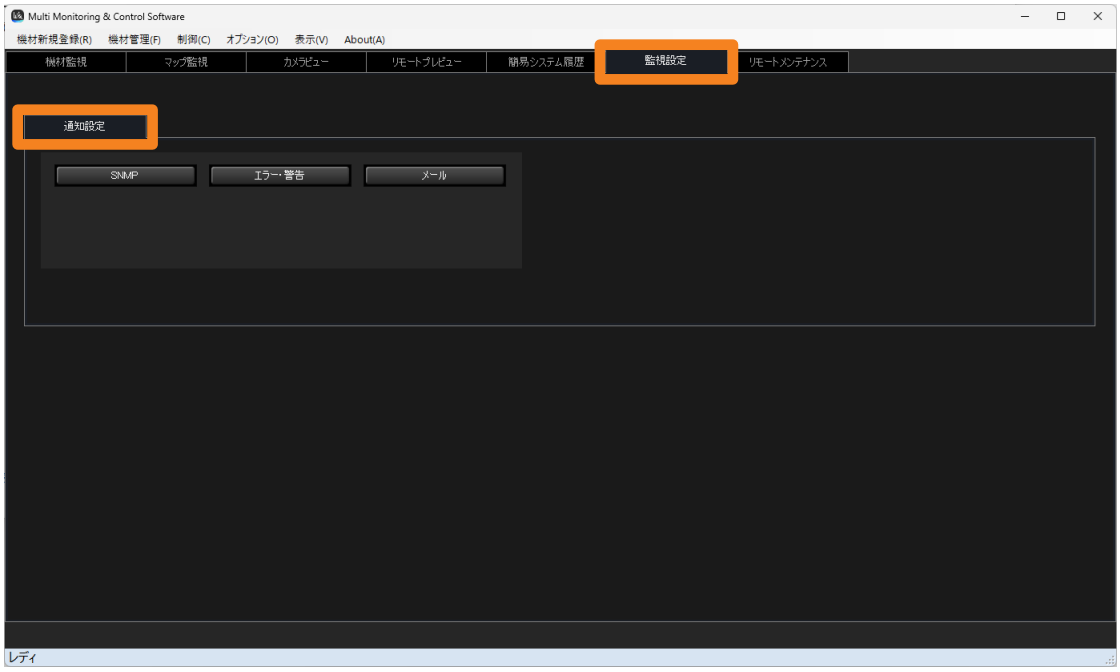
［表示項目］でチェックが入っている項目が、それぞれの画面で表示されます。項目を選択して［▲］/［▼］をクリックすると、項目が上下に移動して表示順序が変更されます。

2 ［更新］をクリックします。

更新のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてください。

監視制御の監視項目を設定する

1 ［監視設定］タブを開き、［通知設定］をクリックします。



各項目の設定方法は、それぞれのページをご覧ください。

- **［SNMP］**（P.151）
- **［メール］**（P.154）
- **［エラー・警告］**（P.158）

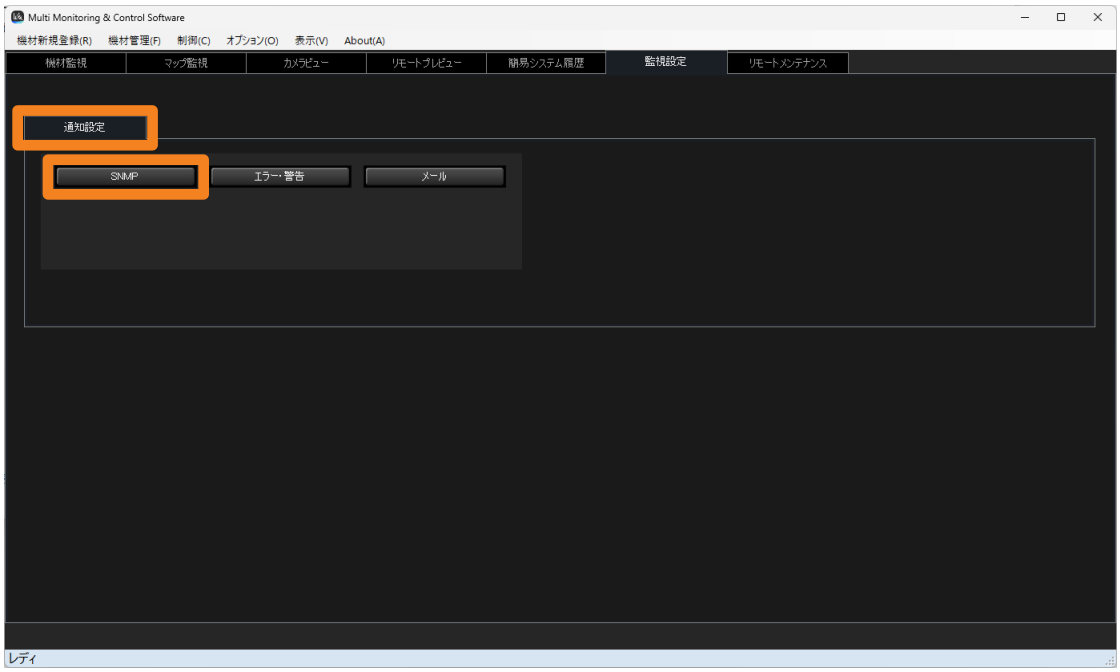
SNMP 通知の設定を行う

監視・制御端末と同じネットワーク上に SNMP マネージャーが設置されている場合は、機材のエラー・警告・お知らせが発生したことを SNMP Trap 送信を利用して、通知することができます。

送信される SNMP Trap の種類

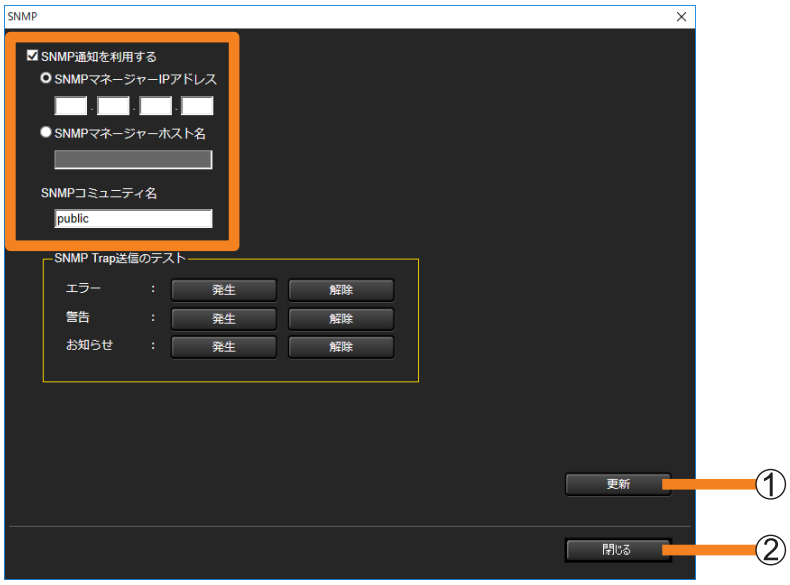
種類	OID	
	Enterprise	Specific-Trap
エラーが発生	1.3.6.1.4.1.258.1000.1.1	101
エラー解除	1.3.6.1.4.1.258.1000.1.1	102
警告が発生	1.3.6.1.4.1.258.1000.1.2	101
警告解除	1.3.6.1.4.1.258.1000.1.2	102
お知らせ発生	1.3.6.1.4.1.258.1000.1.3	101
お知らせ解除	1.3.6.1.4.1.258.1000.1.3	102

1 ［通知設定］タブ（P.150）を開き、［SNMP］をクリックします。



2 ［SNMP 通知を利用する］にチェックを入れ、通知に必要な設定を行います。

［SNMP マネージャー IP アドレス］：IP アドレスを入力します。
［SNMP マネージャーホスト名］：ホスト名を入力します。
［SNMP コミュニティ名］：SNMP マネージャーと本ソフトウェアの間の認証を行うためのコミュニティ名を入力します。

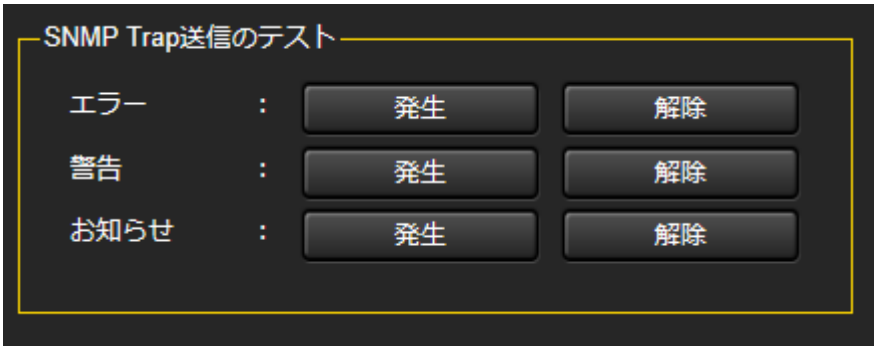


3 ［更新］（①）をクリックします。

更新成功のメッセージが表示されます。［OK］をクリックすると、設定が更新されます。
・更新を取りやめる場合は、［閉じる］（②）をクリックしてください。

4 ［SNMP Trap 送信のテスト］の［発生］／［解除］をクリックします。

エラー・警告・お知らせ各々の発生 / 解除時のテスト通知が送信されます。



SNMP 通知の設定を行う

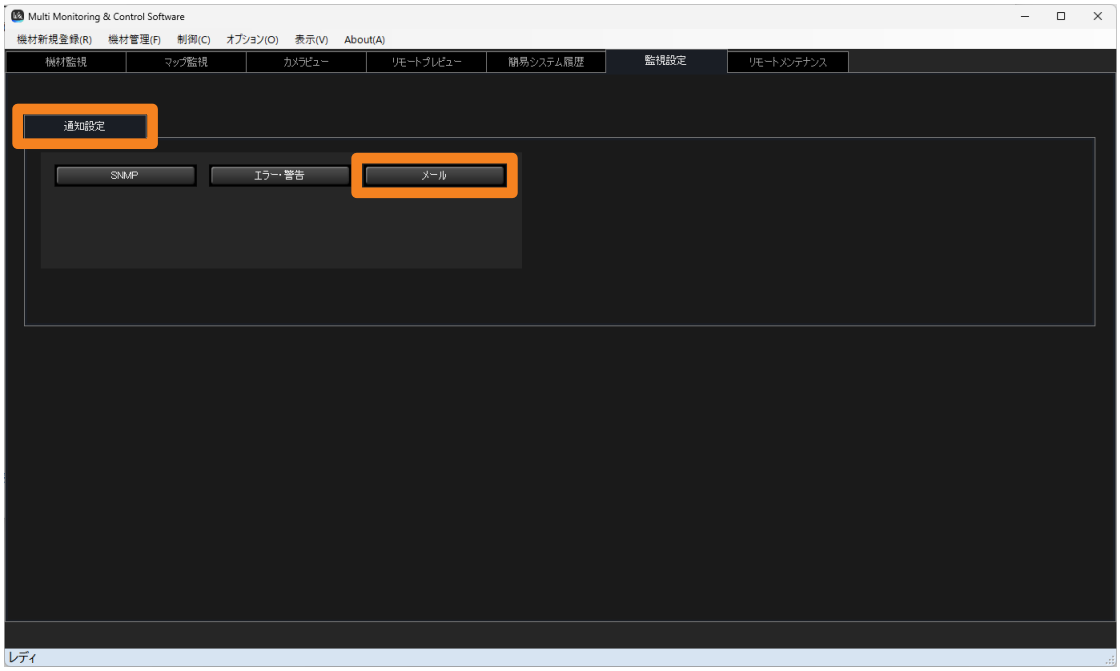
お知らせ

- お使いのシステム構成の中で、SNMP マネージャーが稼働している必要があります。
- 本ソフトウェアから通知する SNMP Trap 送信は、SNMPv1［RFC1155, RFC1157］の Trap コマンドにのみ対応しています。
- SNMP Trap 送信用の MIB（Management information Base）の取得方法は以下のとおりです。
  ① 下記の WEB サイトからの PASS にログインします。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector/pass
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays/pass
  ② サイドメニューから［ダウンロード］をクリックします。
  ③ ユーティリティーソフトウェア → 予兆監視ソフトウェア →［MIB］をクリックします。
  ④［ダウンロード］をクリックするとダウンロードが開始されます。
- SNMP マネージャーの設定については、ネットワーク管理者にご確認ください。

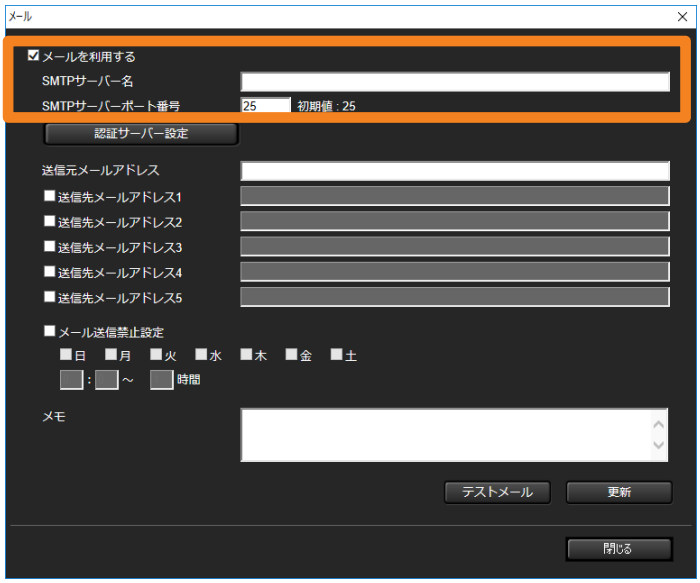
メール送信に必要な設定を行う

機材にエラー・警告・お知らせが発生したとき、本ソフトウェアで設定した E メールアドレスに該当内容をメールで送信することができます。

1 ［通知設定］タブ（P.150）を開き、［メール］をクリックします。



2 ［メールを利用する］にチェックを入れ、［SMTP サーバー名］、［SMTP サーバーポート番号］を入力します。

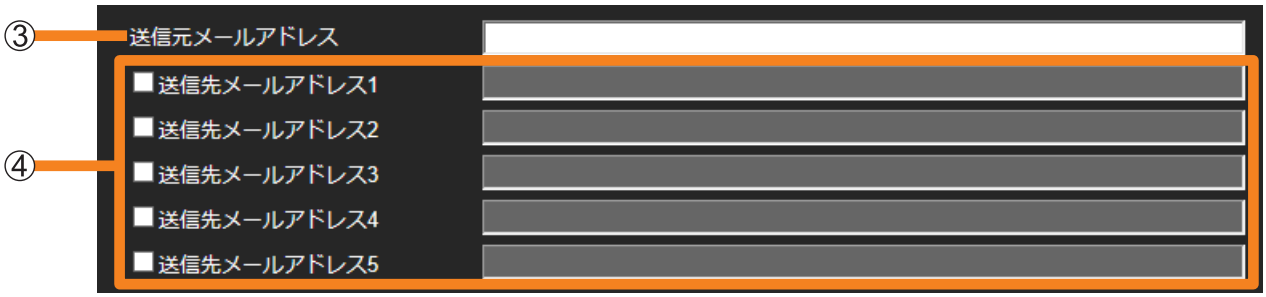


3 認証サーバーを設定する場合は、［認証サーバー設定］をクリックします。

認証サーバーの設定エリアが表示されます。メール送信時の認証方式を選んでください。
・認証サーバーを設定しない場合は、手順 **4** に進んでください。

① **[SMTP 認証]**：［PLAIN］、［LOGIN］、［CRAM-MD5］から認証方式を選択します。
② **[POP Before SMTP]**：［POP サーバー名］、［POP サーバーポート番号］、［ユーザー名］、［パスワード］を入力します。

4 送信元と、送信先のメールアドレスを入力します。



③ **[送信元メールアドレス]**：監視・制御端末用のメールアドレスを入力します。
④ **[送信先メールアドレス]**：チェックを入れ、同一ネットワーク内に存在する送信したいメールアドレスを入力します。（最大 5 個）

5 ［メール送信禁止設定］にチェックを入れ、メールの送信を禁止する期間を設定します。

⑤：メールの送信禁止を開始する曜日にチェックを入れます。

⑥：メールの送信禁止を開始する時刻を、「00：00」～「23：59」の範囲で入力します。

⑦：⑥ で設定した開始時刻から、送信禁止を終了するまでの時間を、「1」～「99」の範囲で入力します。

設定例）
毎火曜 21 時から木曜 9 時まで、および毎土曜 21 時から月曜 9 時までのメール送信を禁止する場合は、曜日の［火］と［土］のチェックボックスにチェックをし、時刻に「21:00」、時間に「36」を入力します。

6 ［メモ］を入力します。

・メール本文に記述する内容を入力します。必要に応じて入力してください。

7 ［テストメール］をクリックし、テストメールを送信します。

・手順 **4** で入力した送信先のメールアドレスに、テストメールを送信します。

送信例）
タイトル：Panasonic Device Report (Test)
送信内容：予兆監視ソフトウェアからのテストメールです。

8 ［更新］をクリックします。

更新成功のメッセージが表示されます。［OK］をクリックすると、設定内容が更新されます。

お知らせ

・ご使用になるメールアドレスは、「***（ローカル部）@***（ドメイン）」の形で入力してください。
・メール送信機能を利用する場合は、お使いのシステム構成の中で、メールサーバーが稼働している必要があります。また、監視・制御端末用のメールアドレスをメールサーバーに登録しておくことが必要です。
・メールサーバーへの登録や設定内容については、ネットワーク管理者にご確認ください。

■メール送信例

メールのタイトル：Panasonic Device Report(Error/Warning/Information)

○検出日時 : 2013/06/07 10:55:38

○機材情報 :

グループ名 : Group

機材名 : DZ21K

IP アドレス : ***.***.***.***

モデル名 : DZ21K

シリアル番号 : AB1234567

メイン Ver. : 1.00

サブ Ver. : 1.01

ネットワーク Ver. : 1.03

○検出内容 :

状態 : 警告

詳細 1 : カラープリズム 3 FAN エラー

処置 1 : 販売店にファンの点検を依頼してください。

カラープリズム冷却 3 ファン のレベルが閾値に達しました。

詳細 2 : プロジェクター LAN 接続エラー

処置 2 : LAN ケーブルの接続に問題がないか確認してください。

プロジェクターの主電源が入っているか確認してください。

電源 : On

セット使用時間 : 16984 H

光源 1 使用時間 : 4 H

光源 2 使用時間 : 3 H

光源 3 使用時間 : 3 H

光源 4 使用時間 : 3 H

光源 1 残り時間 : 1996 H

光源 2 残り時間 : 1996 H

光源 3 残り時間 : 1997 H

光源 4 残り時間 : 1997 H

電源 ON 回数 : 154 回

カラープリズム冷却 3 ファンレベル : 465

カラープリズム冷却 3 ファン情報 1 : 4CE
カラープリズム冷却 3 ファン情報 2 : 0AF

吸気温度 : 25 degC / 77 degF

排気温度 : 26 degC / 78 degF

光学モジュール周辺温度 : 30 degC / 86 degF

○メモ :

メールの送信日時

機材の設定情報

機材のエラー／警告／
お知らせの内容や処置情報

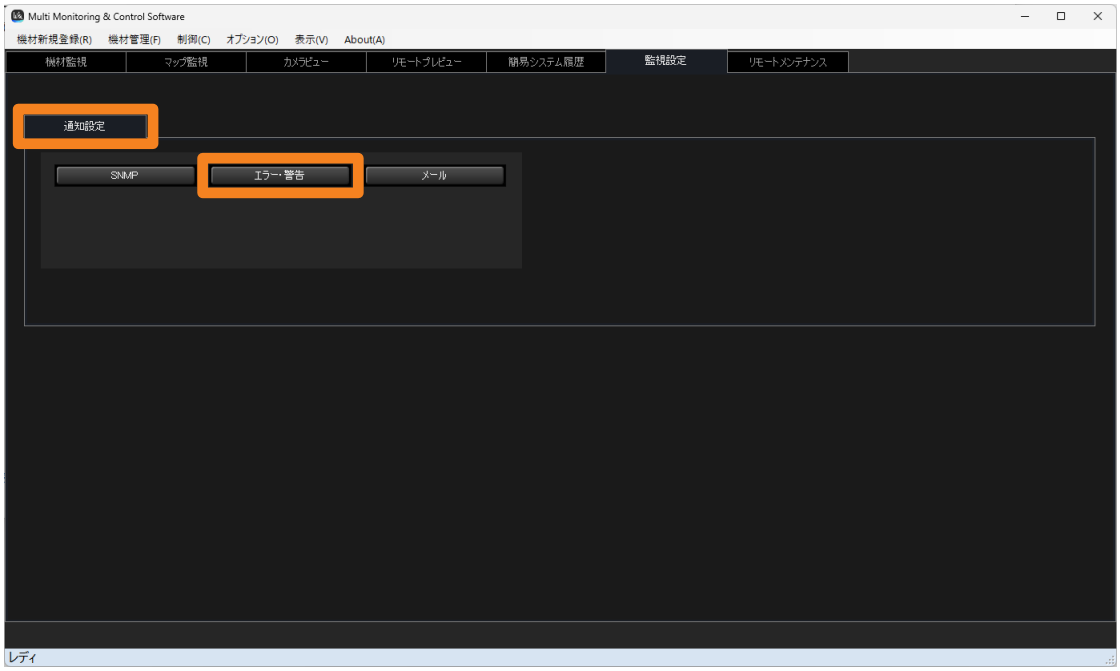
機材の光源使用時間や
残り時間、温度情報

メモ情報

機材が未接続時の警告の設定を行う

機材が何らかの理由でネットワークに接続されていないとき、警告することができます。機材の情報更新を所定の回数を実行しても、機材との接続が確認できないときに警告します。
また、所定の時間帯、特定の期間に機材が未接続状態になることが分かっている場合、該当の時間帯または期間に未接続警告をしないように設定することができます。

1 ［通知設定］タブ（P.150）を開き、［エラー・警告］をクリックします。



機材が未接続時の警告の設定を行う

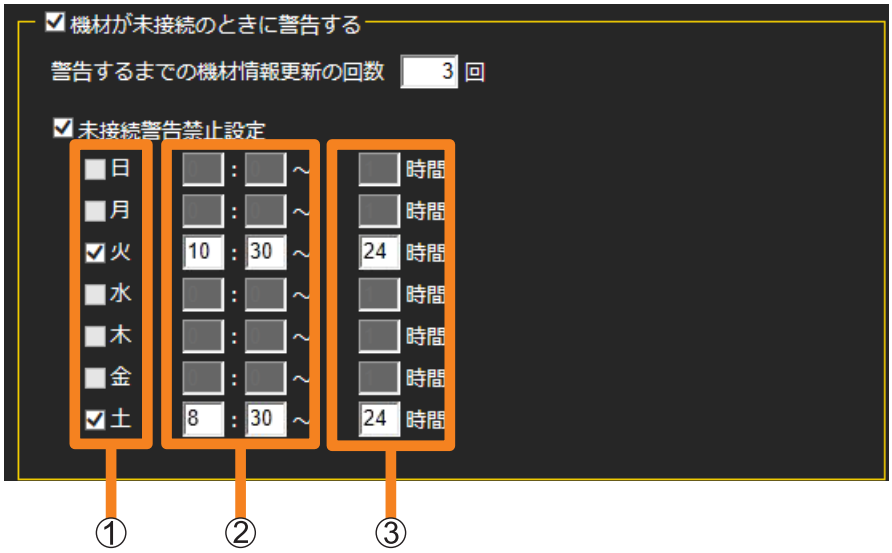
2 ［機材が未接続のときに警告する］にチェックを入れ、［警告するまでの機材情報更新の回数］を入力します。

「1」～「99」の範囲で入力してください。

- 警告までに機材情報の更新回数が多い場合は、未接続と判定するまでの時間が長くなります。

3 ［未接続警告禁止設定］にチェックを入れ、未接続警告を禁止する期間を設定します。

・未接続警告禁止期間を設けない場合は、［未接続警告禁止設定］のチェックを外し、手順 **4** に進んでください。



①：未接続警告を禁止する曜日にチェックを入れます。

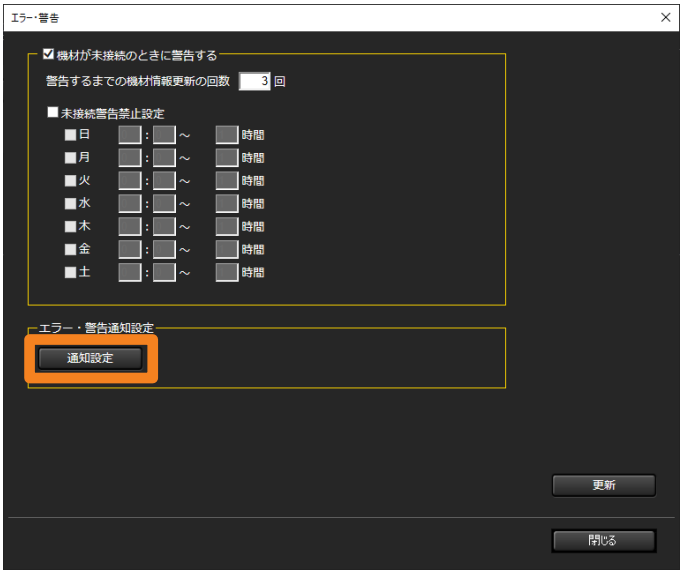
②：未接続警告の禁止を開始する時刻を、「00：00」～「23：59」の範囲で入力します。

③：② で設定した開始時刻から、警告の禁止を終了するまでの時間を、「1」～「48」の範囲で入力します。

設定例）
毎週火曜日の 10 時 30 分から水曜日の 10 時 30 分までの 24 時間と、毎週土曜日の 8 時 30 分から日曜日の 8 時 30 分までの 24 時間の未接続警告を禁止する場合は、上の画面のように設定します。

4 メール通知が不要なエラー・警告がある場合は、［エラー・警告通知設定］の［通知設定］をクリックします。

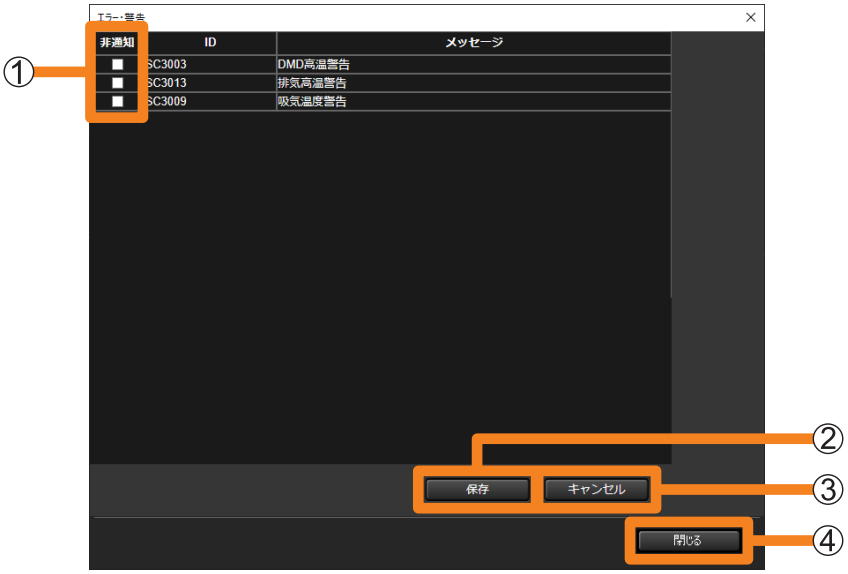
検出されたエラー・警告の内容と、その ID のリストが表示されます。



5 メール通知しない ID のチェックボックス（①）にチェックを入れ、［保存］（②）をクリックします。

チェックを入れた ID は、メール通知されなくなります。

・設定をもとに戻す場合は［キャンセル］（③）をクリックし、［閉じる］（④）をクリックしてください。



6 ［閉じる］（④）をクリックします。

7 ［更新］をクリックします。

更新成功のメッセージが表示されます。［OK］をクリックすると、設定内容が更新されます。

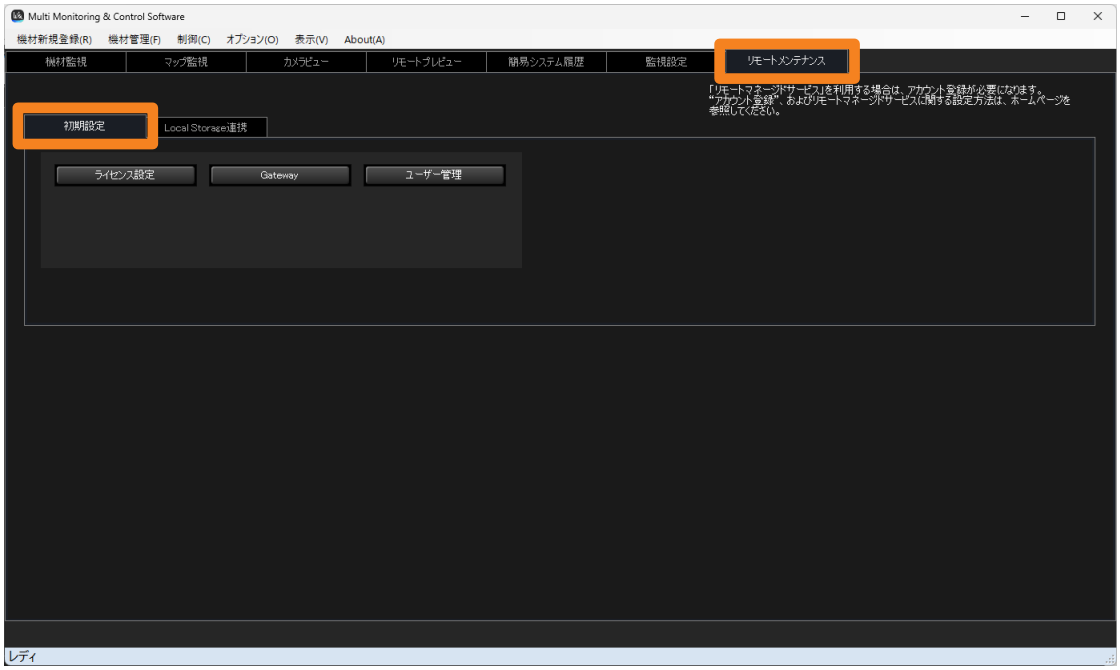
リモートマネージドサービスについて

リモートマネージドサービスを利用すると、クラウドサーバー上で機材管理を行うことができます。
リモートマネージドサービスを利用するには、アカウント登録が必要です。アカウント登録、およびサービスの詳細は下記の WEB サイトをご覧ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector/lineup/rms

リモートマネージドサービスを設定する

リモートマネージドサービスを利用して機材管理を行う場合は、あらかじめ本ソフトウェアで下記の設定を行う必要があります。

1 ［リモートメンテナンス］タブを開き、［初期設定］タブをクリックします。



2 リモートマネージドサービスを利用するのに必要な情報を設定します。

［ライセンス設定］： リモートマネージドサービスと紐づけるライセンス設定を行います。

［Gateway］： リモートマネージドサービスのクラウドサーバーに接続するための設定を行います。
リモートマネージドサービスの利用環境には次の２種類があります。それぞれの環境に合わせて設定してください。
- クラウドサーバーに直接接続して使用する。
- クラウドサーバーに直接接続せず、機材の監視データをローカル保存して使用する。この場合は「機材の監視データをエクスポートする」（P.163）に従った操作が必要。

［ユーザー管理］： 本ソフトウェアの WEB ブラウザー機能（http://localhost/ews）にログインするためのユーザー設定を行います。

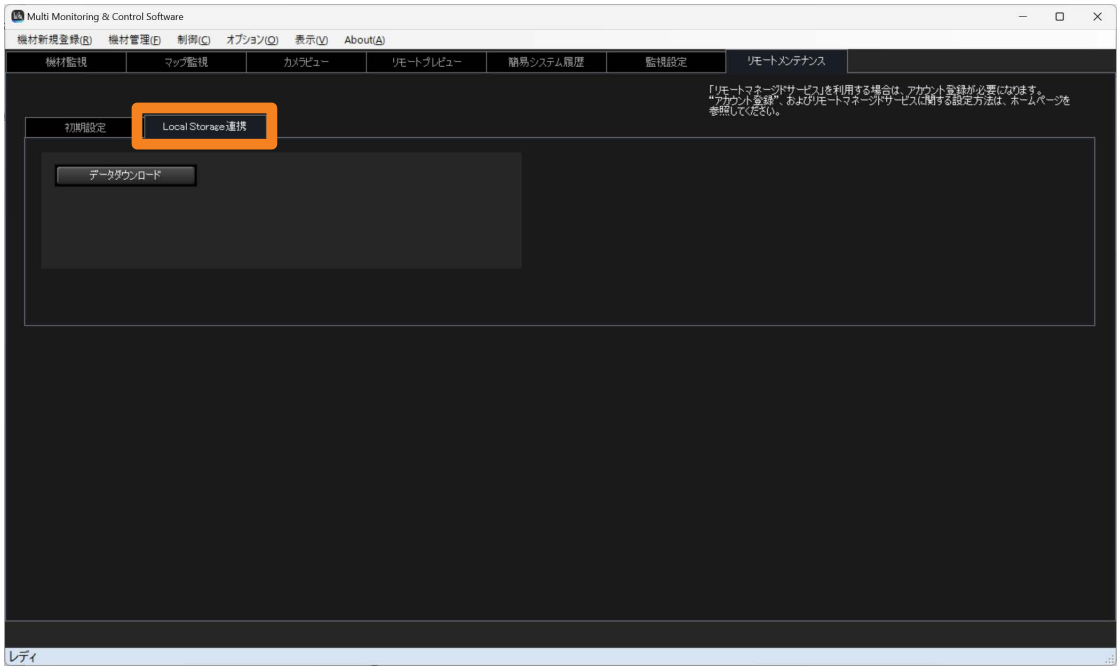
機材の監視データをエクスポートする

本ソフトウェアがインストールされているコンピューターが、リモートマネージドサービスのクラウドサーバーに直接接続できない環境で運用されている場合は、下記の手順に従って機材の監視データをエクスポートしてください。
エクスポートされた機材の監視データは、クラウドサーバーに直接インポート可能なファイル形式（zip 形式の圧縮ファイル）で保存されます。このファイルをクラウドサーバーにインポートすることで、クラウドサーバー上で機材の状態を確認できるようになります。

1 ［Local Storage 連携］タブをクリックします。

2 ［データダウンロード］をクリックして、機材の監視データをエクスポートします。

エクスポートした監視データは、ダウンロードフォルダーに保存されます。
監視データのファイル名：RMPF_Data_v2_ 日時時刻 _ 識別情報 _ ファイル総数 _ 連番 .zip
日時時刻：データ出力年月日と時分秒
識別情報：出力データに付与される一意のランダム値
（分割時はそれぞれに同じ識別情報を付与）
ファイル総数：分割データの総数。大きいデータが分割出力された場合に付与
連番：データが分割出力された場合に各データに付与される番号
例）RMPF_Data_v2_20250710155927_0E72_0011_0001.zip



お知らせ

- ［Local Storage 連携］タブでの設定についての詳細は、下記の WEB サイトをご覧ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector/lineup/rms

エラーメッセージについて

監視制御機能に関するエラーについて

■機材を登録できない

メッセージ	対処
機材の管理者権限ユーザーで登録してください。	機材本体の管理者権限のユーザー名、パスワードを指定して登録してください。
既に 2048 台の機材が登録されているため、これ以上登録することができません。	機材の最大登録台数は 2 048 台までです。その範囲内でご使用ください。
機材の登録に失敗しました。IP アドレス、ユーザー名、パスワードが正しいかご確認ください。	登録する機材に設定されている IP アドレス、ユーザー名、パスワードを確認してください。
機材の登録に失敗しました。機材との通信ができません。	LAN ケーブルの接続を確認するか、登録する機材に設定されている IP アドレス、ユーザー名、パスワードを確認してください。
同じ IP アドレスを持つ機材が既に登録されています。	情報更新する機材の IP アドレスを確認してください。
機材登録情報の更新に失敗しました。IP アドレス、ユーザー名、パスワードが正しいかご確認ください。	情報更新する機材に設定されている IP アドレス、ユーザー名、パスワードを確認してください。
IP アドレスが不正です。正しい IP アドレスを入力してください。	情報更新する機材の IP アドレスを確認してください。
管理者アカウントのパスワードが設定されていません。パスワードを設定しますか？	登録する機材の管理者アカウントを設定してください。

■グループ、キーワード、輝度コントロールを作成できない

メッセージ	対処
既に 100 個のグループが登録されているため、これ以上登録することができません。	機材の最大登録グループは 100 グループまでです。その範囲内でご使用ください。
既に 100 個のキーワードが登録されているため、これ以上登録することができません。	機材の最大登録キーワードは 100 個までです。その範囲内でご使用ください。
既に 100 個の輝度コントロールグループが登録されているため、これ以上登録することができません。	機材の最大登録輝度コントロールは 100 グループまでです。その範囲内でご使用ください。

エラーメッセージについて

■輝度コントロールの取得に失敗する

メッセージ	対処
機材の輝度コントロールの調整モードが“PC”になっているか確認してください。	機材の輝度コントロールの調整モードを“PC”に設定してください。
機材の輝度コントロールの調整モードが“PC”になっていないか、輝度コントロール非対応機種の可能性があります。確認してください。	機材の輝度コントロールの調整モードを“PC”に設定してください。輝度コントロール非対応機種の場合は、輝度コントロールグループから除外してください。
輝度コントロールグループに異なるモデルの機材が接続されているため、輝度コントロールを実行できません。	輝度コントロールグループに登録した機材と異なる機材が接続されています。正しい機材を接続するか、輝度コントロールグループから異なるモデルを除外してください。

■機材設定ファイルの更新、ネットワークカメラの登録ができない

メッセージ	対処
機材設定ファイルが正しいか確認してください。	正しい機材設定ファイルをご準備ください。
アップデートを行う機材設定ファイルのバージョンが、現在の機材設定ファイルのバージョンより古いまたは同じです。	最新の機材設定ファイルをご準備ください。
ネットワークカメラの IP アドレスが不正です。	登録するネットワークカメラの IP アドレスを正しく入力してください。
ネットワークカメラのユーザー名を入力してください。	ユーザー名が入力されていません。登録するネットワークカメラのユーザー名を入力してください。
ネットワークカメラの IP アドレス、ユーザー名、パスワードが正しいかご確認ください。	登録するネットワークカメラに設定されている IP アドレス、ユーザー名、パスワードを確認してください。
ネットワークカメラとの通信でエラーが発生しました。	ネットワークの接続を確認してください。
ネットワークカメラと通信ができません。	ネットワークの接続を確認してください。
既に同じネットワークカメラが登録されています。	すでに登録済みのネットワークカメラです。

困ったとき

もう一度次の点をお調べください。

「401 Unauthorized・・・」のエラーが表示され、WEB 制御（WEB コントロール）画面が表示できない

機材を登録したときのユーザー名が間違っていませんか。
・機材を本ソフトウェアに登録するときのユーザー名は、該当の機材本体の WEB 制御（WEB コントロール）画面を表示するために設定されているユーザー名と同じものである必要があります。

本ソフトウェアの制御画面の操作で入力切り換えできない

機材を登録したときのユーザー名が間違っていませんか。
・本ソフトウェアの制御画面の入力切り換えボタンを利用するためには、機材を本ソフトウェアに登録するときのユーザー名が、該当の機材本体の WEB 制御（WEB コントロール）画面を表示するために設定されているユーザー名（管理者権限）と同じものである必要があります。

情報が取得できない

機材監視画面のコマンド実行ログ表示部に「INFORMATION_ERROR」のエラーが表示される場合、機材の接続または認証情報を確認してください。

テロップ配信で、配信先の機材でのテロップ表示が文字化けする

テロップ編集で使用する文字フォントを再設定する必要があります。
・該当のテロップリストを選択し、テロップ編集画面にて文字フォントを変更したあとに、もう一度テロップの配信を実行してください。

コンテンツリスト配信で、PowerPoint からの静止画／動画の変換ができない

コンテンツリスト配信の画面を表示中に PowerPoint を起動していませんか。
・PowerPoint を終了してから、コンテンツリスト配信の画面を表示してください。
PowerPoint を終了しても改善しない場合は、一旦ソフトを終了し、再度コンピューターを起動してからご使用ください。

困ったとき

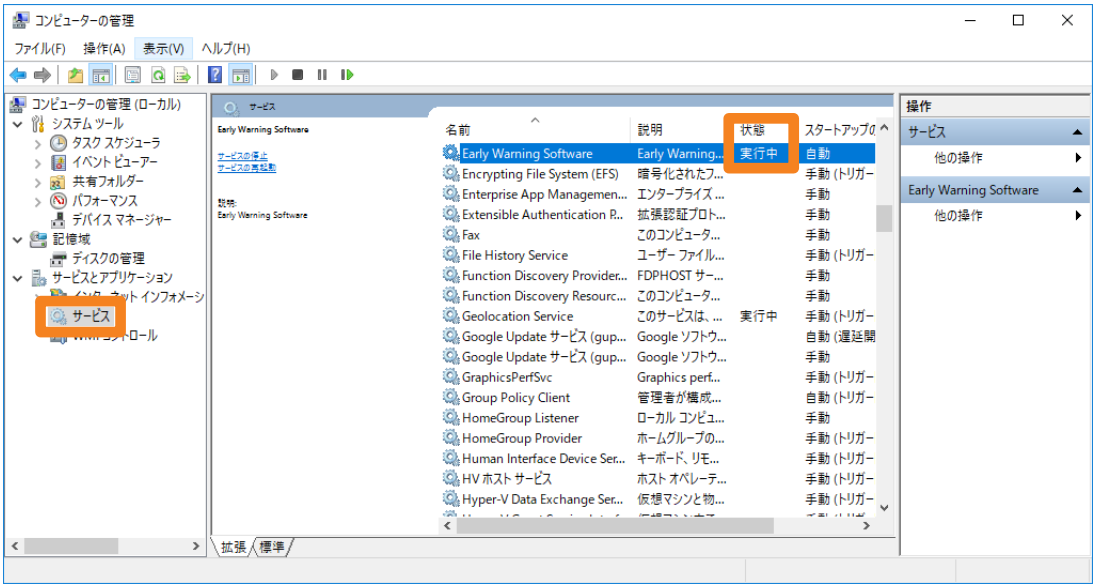
［監視サービスとの通信でエラーが発生しました］のエラーが表示され、本ソフトウェアが起動できない

Early Warning Software のサービスが実行中以外の状態になっていませんか。

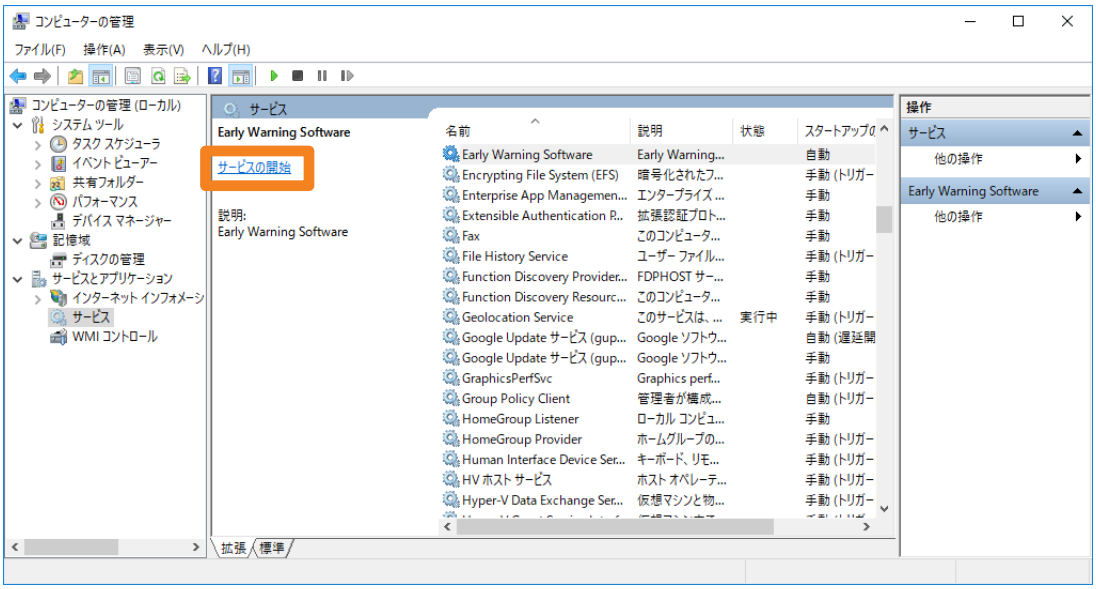
- 本ソフトウェアを起動するには、［Early Warning Software］サービスの状態が［実行中］になっている必要があります。

1. ［スタート］ボタンを右クリックし、［コンピューターの管理］を選びます。

2. ［サービスとアプリケーション］から［サービス］を選択し、［Early Warning Software］の状態が［実行中］になっていることを確認します。



- ［Early Warning Software］の状態が［実行中］になっていない場合は、［Early Warning Software］をクリックし、［サービスの開始］を選んで起動してください。

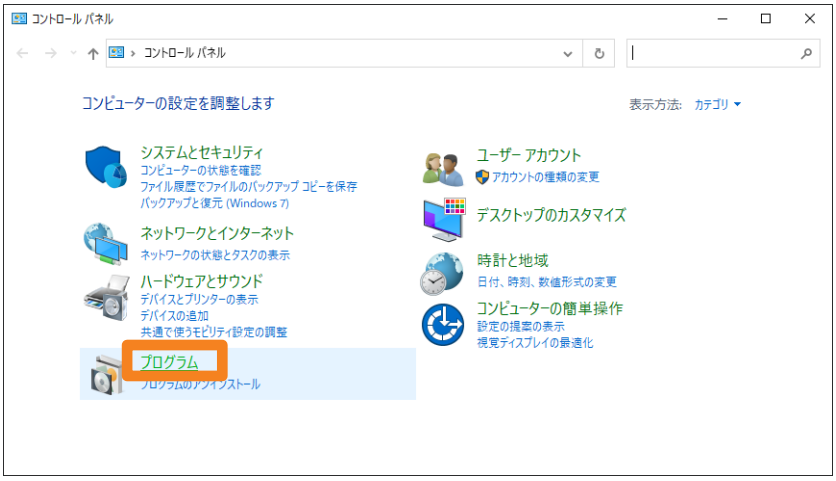


困ったとき

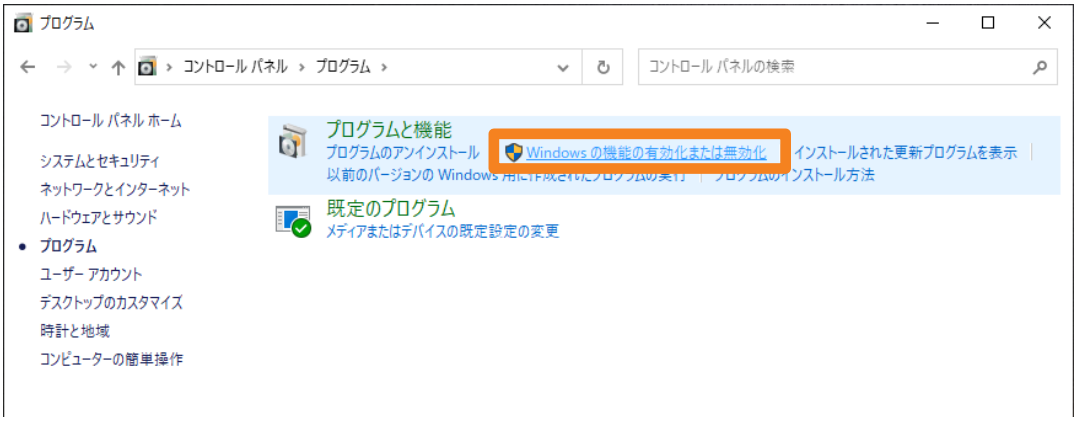
IIS（Internet Information Services）などは正しく設定されていますか。

1. 検索バーに“コントロール パネル”と入力し、コントロール パネルを起動します。

2. コントロール パネルの［プログラム］を選択します。

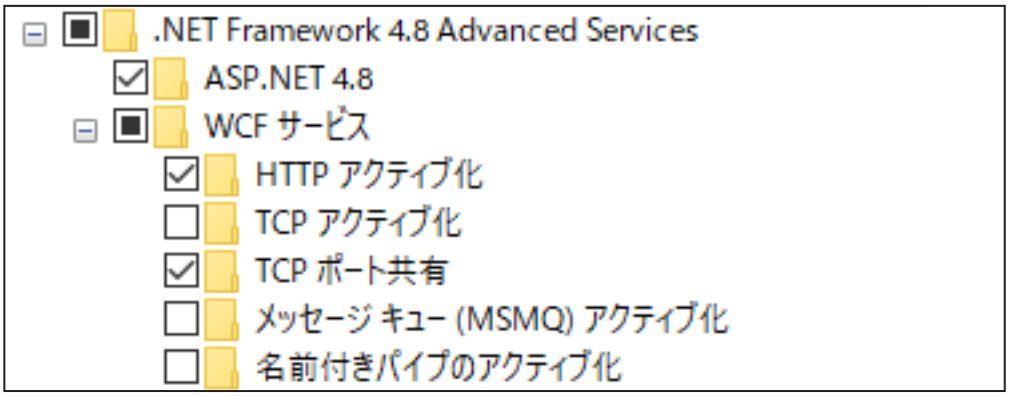


3. プログラムの [プログラムと機能] → [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。

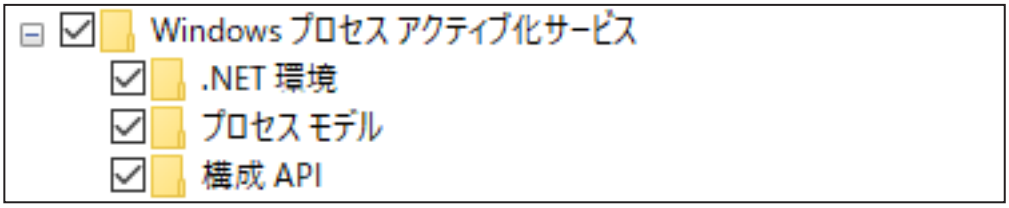


4. 次の３つの機能で、各項目が以下の設定と同じであることを確認し、[OK] をクリックします。

[.NET Framework 4.8 Advanced Services]



[Windows プロセス アクティブ化サービス]



困ったとき

［インターネット インフォメーション サービス］

- [x] インターネット インフォメーション サービス
  - [ ] FTP サーバー
    - [ ] FTP Service
    - [ ] FTP 拡張
  - [x] Web 管理ツール
    - [x] IIS 6 管理互換
      - [x] IIS 6 WMI 互換
      - [ ] IIS 6 スクリプト ツール
      - [ ] IIS 6 管理コンソール
      - [x] IIS メタベースおよび IIS 6 構成との互換性
    - [x] IIS 管理コンソール
    - [ ] IIS 管理サービス
    - [ ] IIS 管理スクリプトおよびツール
  - [x] World Wide Web サービス
    - [x] HTTP 共通機能
      - [x] HTTP エラー
      - [x] HTTP リダイレクト
      - [ ] WebDAV 発行
      - [x] ディレクトリの参照
      - [x] 既定のドキュメント
      - [x] 静的なコンテンツ
    - [x] アプリケーション開発機能
      - [x] .NET Extensibility 4.8
      - [x] .NET 拡張機能 3.5
      - [ ] Application Initialization
      - [ ] ASP
      - [x] ASP.NET 3.5
      - [x] ASP.NET 4.8
      - [ ] CGI
      - [x] ISAPI フィルター
      - [x] ISAPI 拡張
      - [ ] WebSocket プロトコル
      - [x] サーバー側インクルード
    - [x] セキュリティ
      - [ ] IIS クライアント証明書マッピング認証
      - [ ] IP セキュリティ
      - [ ] SSL 証明書の集中サポート
      - [ ] URL 承認
      - [ ] Windows 認証
      - [ ] クライアント証明書マッピング認証
      - [ ] ダイジェスト認証
      - [ ] 基本認証
      - [x] 要求のフィルタリング
    - [x] パフォーマンス機能
      - [x] 静的なコンテンツの圧縮
      - [ ] 動的なコンテンツの圧縮
    - [x] 状態と診断
      - [x] HTTP ログ
      - [ ] ODBC ログ
      - [ ] カスタム ログ
      - [ ] トレース
      - [ ] ログ ツール
      - [ ] 要求の監視

困ったとき

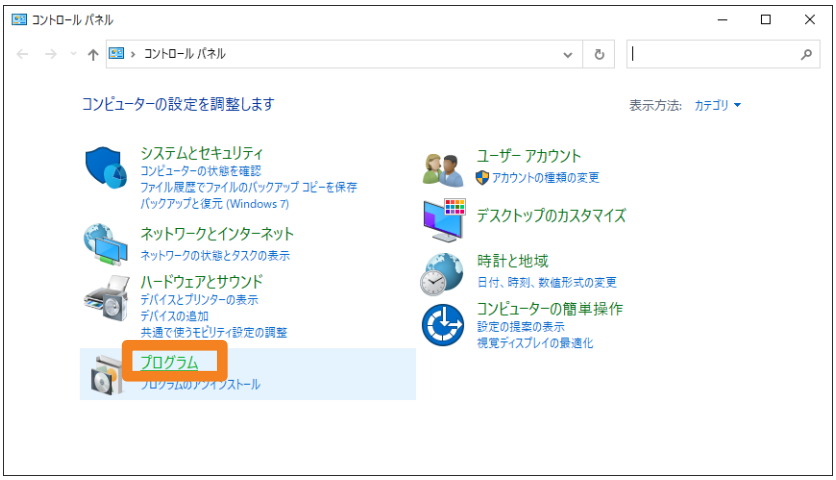
ソフトウェアをインストールできない

ご使用のコンピューターに Microsoft .NET Framework 4.8 がインストールされていますか。

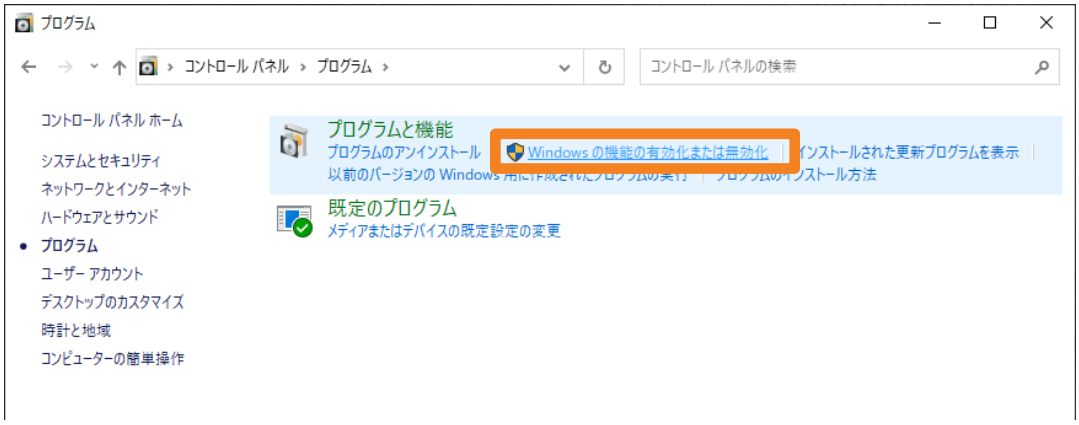
- 本ソフトウェアをインストールするには、ご使用のコンピューターにあらかじめ Microsoft .NET Framework 4.8 がインストールされている必要があります。

1. 検索バーに“コントロール パネル”と入力し、コントロール パネルを起動します。

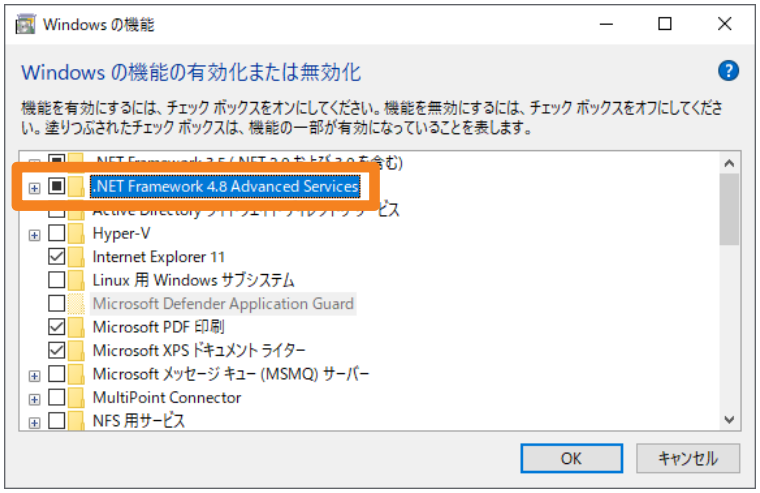
2. コントロール パネルの［プログラム］を選択します。



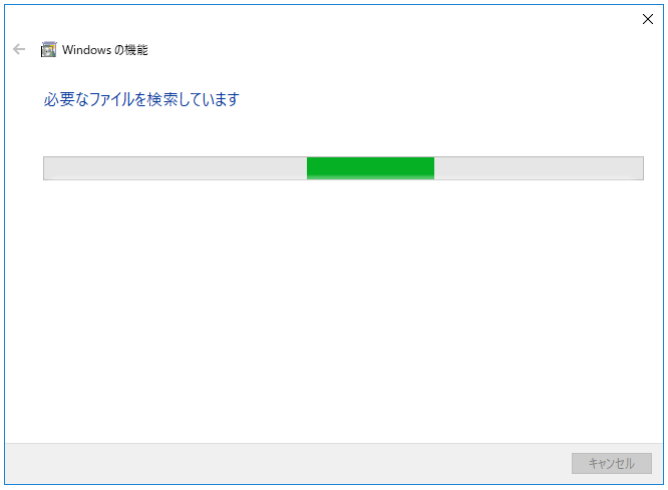
3. プログラムの [プログラムと機能] → [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。



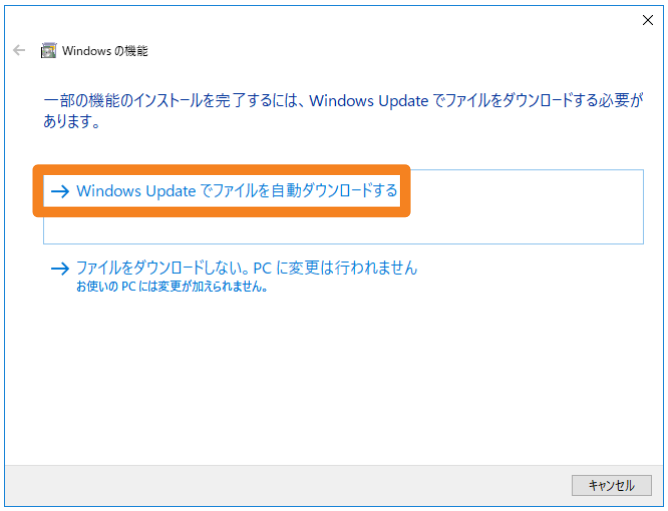
4. Windows の機能の「.NET Framework 4.8 Advanced Services」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。



5. 必要なファイルを検索し、Microsoft .NET Framework 4.8 がインストールされます。



6. ご使用のコンピューター上に Microsoft .NET Framework 4.8 をインストールするために必要なファイルがない場合は、次の画面が表示されます。[Windows Update でファイルを自動ダウンロードする] を選択してください。（この作業には、インターネット接続が必要です。）



7. インストール完了後、コンピューターを再起動してください。

本ソフトウェアをアンインストール、またはアップデートする際にメッセージが表示される

「警告 1910。ショートカット ...」というメッセージが表示されていませんか。

- コンピューターに NVIDIA 社提供のドライバーを入れていると、次のメッセージが表示されることがあります。

> 警告 1910。ショートカット Multi Monitoring & Control Software.lnk を削除できません。ショートカット ファイルが存在するか、またこのファイルへのアクセス権を持っているかどうかを確認してください。

[OK] をクリックすると、アンインストールおよびアップデート作業が継続されます。
本ソフトウェアをアンインストールした場合、デスクトップ上のショートカットアイコンが消えますが、次回コンピューター起動時に再度作成されるので、手動で削除してください。

困ったとき

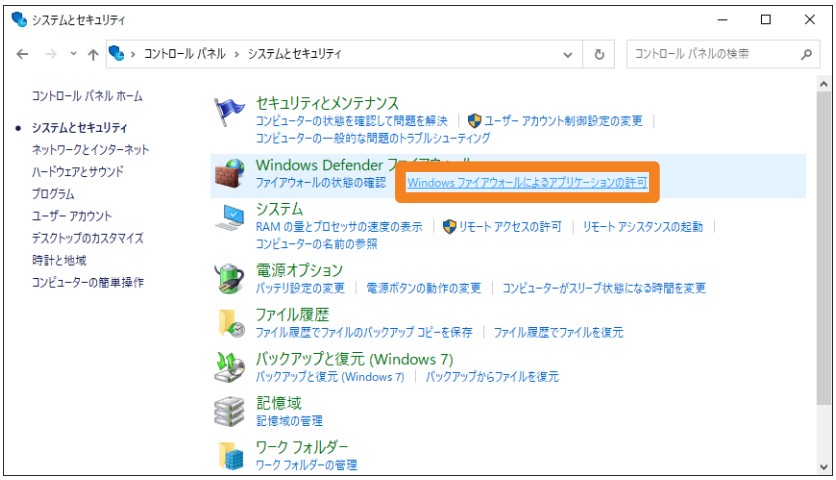
機材とコンピューターが LAN 接続できない

Windows Firewall を検出したとき
ファイアウォールの例外設定を行っていますか。

1. 検索バーに“コントロール パネル”と入力し、コントロール パネルを起動します。

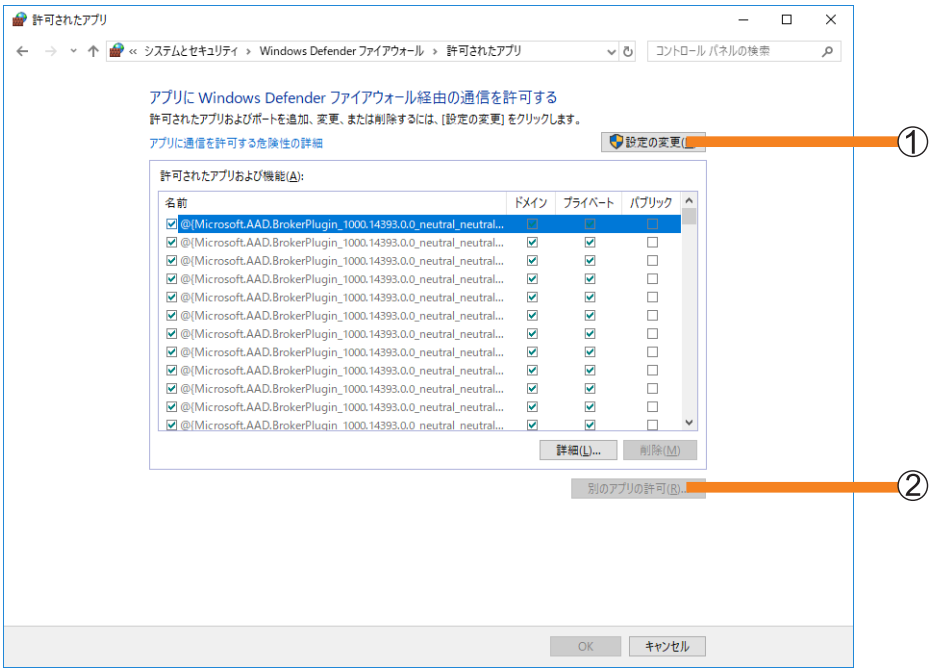
2. コントロール パネルの［システムとセキュリティ］を選択します。

3. システムとセキュリティの［Windows Defender ファイアウォール］→［Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可］をクリックします。

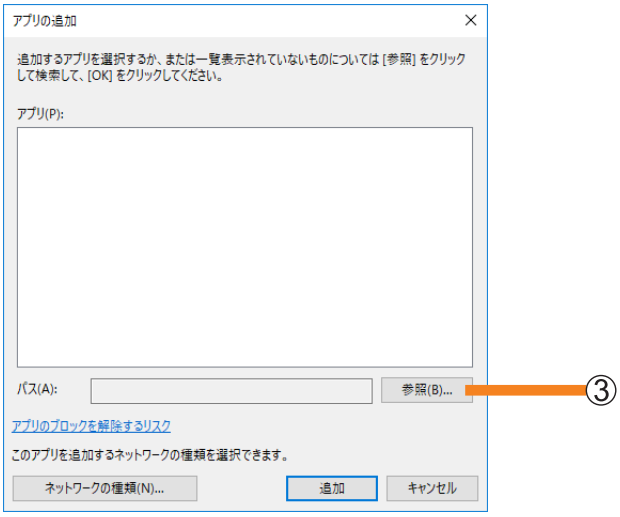


困ったとき

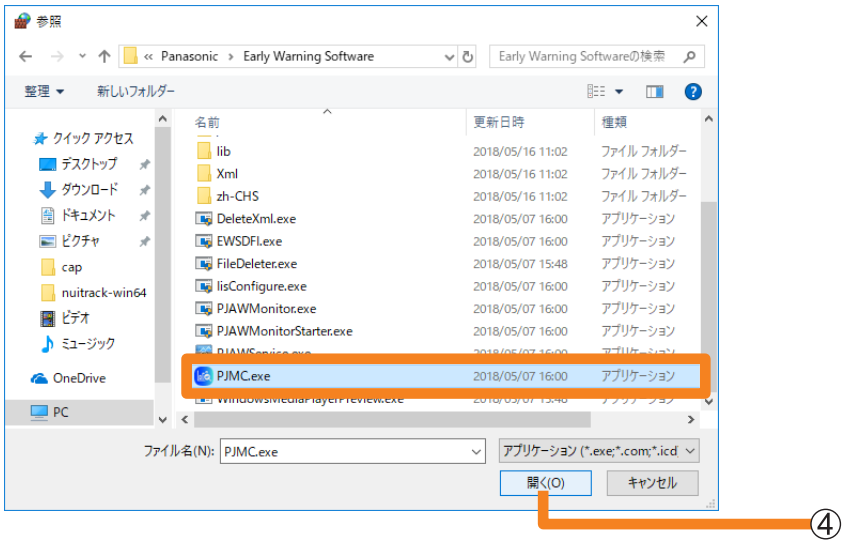
4. [設定の変更]（①）、[別のアプリの許可]（②）の順にクリックします。



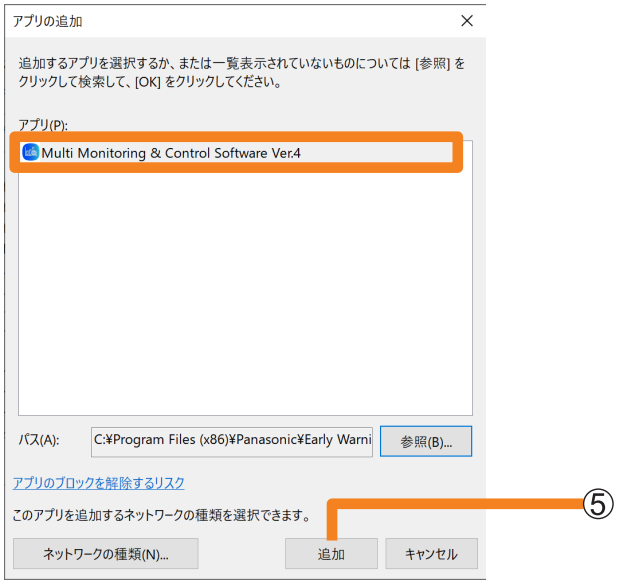
5. [参照]（③）をクリックします。



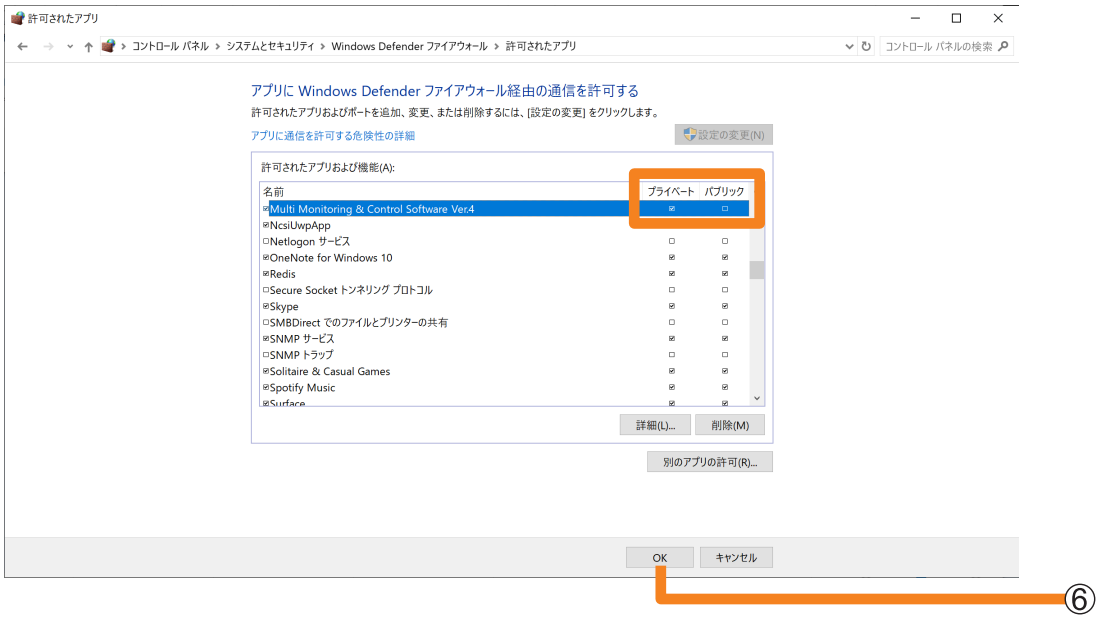
6. [PJMC.exe] を選択し、[開く]（④）をクリックします。
保存先を変更せずにインストールを行うと、以下の場所に保存されています。
C:¥Program Files (x86)¥Panasonic¥Early Warning Software



7. [Multi Monitoring & Control Software Ver.XX] を選び、[追加]（⑤）をクリックします。



8. 接続したいネットワークを［プライベート］、［パブリック］から選択し、チェックボックスにチェックを入れます。



9. ［OK］（⑥）をクリックします。
本ソフトウェアが Windows Defender ファイアウォールの例外アプリケーションリストに登録されます。

その他の Firewall を検出したとき

ファイアウォール機能を備えたアプリケーションソフトがインストールされていませんか。

- ファイアウォール機能を備えたアプリケーションソフトがインストールされていると、接続できない場合があります。
  （起動していなくても、インストールされているだけでファイアウォール機能を発揮する場合もあります。）
  この場合、LAN 接続を行うためには、ファイアウォールの設定変更を行う必要があります。
- ファイアウォールの設定方法については、各アプリケーションソフトの取扱説明書をご覧ください。

本ソフトウェア起動時に、監視サービスとの通信でエラーが発生する

本ソフトウェアの起動に必要なデータの読み込みに失敗した場合、次のメッセージが表示されることがあります。

監視サービスとの通信でエラーが発生しました。
監視サービスが停止している可能性があるため PC を再起動してください。

- コンピューターを再起動してから、本ソフトウェアを再起動してください。
  再起動後も同様のエラーが発生する場合は、必要なデータが破損している可能性があります。
  本ソフトウェアをインストールし直してください。

困ったとき

機材の WEB 制御機能を呼び出しても画面が表示されない

ご使用の機材またはネットワークカメラで HTTPS 通信を使用して接続する設定になっている場合や、プラグインソフトウェアをインストールする必要がある場合などは、本ソフトウェアから機材の WEB 制御機能を呼び出しても WEB 制御画面が表示されないことがあります。

- WEB 制御画面が表示されないときは、WEB ブラウザーの URL 入力欄に、機材またはネットワークカメラの IP アドレスを入力し、直接 WEB 制御画面を開いてください。

商標について

- Microsoft、Windows、Excel、PowerPoint、Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録または出願商標です。
- Intel は、Intel Corporation またはその子会社の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- DisplayPort は、Video Electronics Standards Association の商標です。
- Android および Google Chrome は、Google LLC の商標です。
- iPad、iPhone、iPadOS、Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- IOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。
  なお、本文中では ® や TM マークは明記していません。

ご注意

- 本ソフトウェアおよびこの説明書の一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本ソフトウェアおよびこの説明書を運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様、およびこの説明書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

お問い合わせ内容がプロジェクターに関するものである場合は、下記パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンターまでご連絡ください。

パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター

電話 フリーダイヤル 携帯OK 0120-872-601
※携帯電話からもご利用いただけます。

営業時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9：00～17：30（12：00～13：00 は受付のみ）

URL https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_support

* 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。
* お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

お問い合わせ内容がフラットパネルディスプレイに関するものである場合は、下記パナソニック 業務用ディスプレイサポートセンターまでご連絡ください。

パナソニック 業務用ディスプレイサポートセンター

電話 フリーダイヤル 携帯OK 0120-872-002
※携帯電話からもご利用いただけます。

営業時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9：00～17：30（12：00～13：00 は受付のみ）

URL https://connect.panasonic.com/jp-ja/prodisplays_support

* 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。
* お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

【当サポートセンターにおけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック プロジェクター＆ディスプレイ株式会社

〒 571-8503　大阪府門真市松葉町 2 番 15 号

© Panasonic Projector & Display Corporation 2026

W0926AM0 -PS